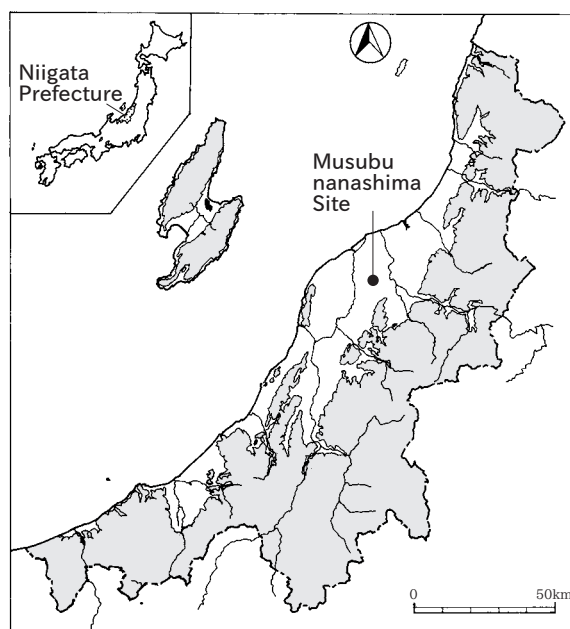


むすぶ なし ま

結七島遺跡Ⅳ 第13・15・17次調査

— 荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第7～9次発掘調査報告書 —



2008

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区^{むすぶあざなわしろづけ}結字苗代付397番地ほかに所在する^{むすぶなしま}結七島遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は荻川駅東土地区画整理事業に伴い、荻川駅東土地区画整理組合から新潟市が受託した。発掘調査は新潟市教育委員会（以下「市教委」という。）が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（平成19年度現在、以下「市埋蔵文化財センター」という。）が補助執行した。
- 3 結七島遺跡はこれまでに複数回の発掘調査が行われている。詳細は第I章に記した。
- 4 遺跡の発掘調査は平成17年および平成18年に実施した。整理作業は平成17年から平成19年にかけて実施し、平成19年度に報告書を刊行した。発掘調査と整理作業の体制は第III章に記した。
- 5 本書の執筆・編集は朝岡政康（市埋蔵文化財センター 副主査）が行った。
- 6 墨書土器の判読は、相沢央氏（歴史文化課非常勤嘱託）に依頼した。
- 7 本書で用いた写真は、遺跡写真は朝岡が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に委託した。ただし写真図版1は国土地理院の提供による。写真図版2は（株）オリス撮影のものである。
- 8 各種図版作成・編集に関しては、（株）セビアスに委託してデジタル図画化及びデータ編集を実施し、完成データを印刷業者に入稿して印刷した。
- 9 調査から本書の作成に至るまで下記の方々より多大なご指導・ご協力を賜った。厚く御礼申し上げる（所属・敬称略）。
春日真実（第17次調査）・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（第17次調査）・新潟県教育庁文化行政課（第13・15・17次調査）・荻川駅東土地区画整理組合（第13・15・17次調査）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 遺構番号は発掘調査の際に付したものをを用いた。番号は遺構の種別毎に付さず、通し番号とした。
- 5 土層の色調および遺物観察表の遺物の色調は『新版 標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕を用い、その記号を本書に掲載した。
- 6 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、須恵器以外を白抜きとした。土器に付着する墨跡・墨書・赤彩は網目で表し、網目の濃度を変えて表した。
- 7 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 8 遺物の注記は「05結七島」・「06結七島」とし、出土地点等を続けて付した。
- 9 掲載遺物は通し番号とし、本文・観察表・写真図版の番号は同一番号とした。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第3節 調査履歴	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 秋葉区の遺跡	3
第3節 歴史的環境	6

第III章 調査の概要

第1節 発掘調査	8
A 調査方法	8
B 調査経過	9
C 調査体制	9
第2節 整理作業	10
A 整理方法	10
B 整理経過	10
C 整理体制	10

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	11
第2節 層 序	11
第3節 遺 構	12
A 1区の遺構	12
B 2区の遺構	15
C 3区の遺構	19
D 4区の遺構	20

第V章 遺 物

第1節 土器の分類と記述	22
A 分 類	22
B 出土土器等各説	25

第VI章 総 括

第1節 遺 構	29
第2節 出土土器の編年的位置づけ	30
A SD21・SD5出土須恵器の胎土	30
B SD21・SD5出土土器の器種等各構成比率	31
C SD21・SD5出土土器の器高指数と底径指数	31

D SD21・SD5出土土器の編年位置的位置づけ	33
E 結七島遺跡の時期	35
第3節 結七島遺跡の性格	35
A 結七島遺跡の古代の土地利用について	35
B 結七島遺跡周辺の遺跡について	35
C 結七島遺跡の性格	38
引用・参考文献	39
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 結七島遺跡周辺地形分類図	4	第5図 結七島遺跡主要遺構別器種組成図	32
第2図 結七島遺跡周辺の遺跡分布図	5	第6図 結七島遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図	33
第3図 タタキメ・あて具痕の細分類図	23	第7図 結七島遺跡古代景観推定図	36
第4図 結七島遺跡出土土器分類図	24		

表目次

第1表 結七島遺跡にかかる調査履歴一覧表	2	第3表 結七島遺跡周辺遺跡の存続期間	38
第2表 SD21・SD5出土須恵器 器種別胎土別重量計測表	30		

別表目次

別表1 主要遺構計測表	41	別表4 石製品観察表	44
別表2 土器観察表	43	別表5 結七島遺跡主要遺構出土古代土器器種構成表	45
別表3 鍛冶関連遺物・鉄製品観察表	44		

図版目次

図版1 周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版13 遺構個別図3
図版2 遺跡周辺の旧土地利用図 (1/5,000)	図版14 遺構個別図4
図版3 結七島遺跡と周辺の遺跡 (1/10,000)	図版15 遺構個別図5
図版4 グリッド設定図と既往調査地位置図 (1/3,000)	図版16 遺構個別図6
図版5 遺構全体図 (1/400)	図版17 出土遺物1 SD21・SD22・SD45・SD47・P40
図版6 1区遺構平面図 (1/150)	図版18 出土遺物2 SK89・SK95・SD78・SD80・SD93・SX86・SK18
図版7 2区遺構平面図 (1/150)	図版19 出土遺物3 SD5
図版8 3区遺構平面図 (1/150)	図版20 出土遺物4 SD6・SD9・SD12・SD114・第13次調査包含層出土遺物
図版9 4区遺構平面図 (1/150)	図版21 出土遺物5 包含層出土遺物 (土器)
図版10 小グリッド別平安時代土器重量別分布図	図版22 鍛冶関連遺物・石製品・鉄製品
図版11 遺構個別図1	
図版12 遺構個別図2	

写真図版目次

- 写真図版1 結七島遺跡 周辺空中写真1
写真図版2 結七島遺跡 周辺空中写真2
写真図版3 結七島遺跡周辺空中写真第17次調査地、結七島遺跡全景空中写真第17次調査地
写真図版4 1区完掘状況、2区完掘状況
写真図版5 3区完掘状況1第15次調査地、3区完掘状況2第17次調査地
写真図版6 4区完掘状況1第17次調査地、4区完掘状況2第13次調査地
写真図版7 1区基本層序1、1区基本層序6、SD19土層断面、SK20・SD19完掘、SK23土層断面、SK25土層断面、SD22土層断面、SK25・SK24・SK23・SD22完掘
写真図版8 SD28土層断面、SK32土層断面、SD28・P29・SK32・P34完掘、SK39土層断面、SK43土層断面、P29・SK32・P34・P37・P38・SK39・P40・SK43完掘、SK46土層断面、SD45土層断面
写真図版9 SD72土層断面、P40土層断面、P40・SD45・SK46・SD72完掘、SK56完掘、SK55土層断面、SK55完掘、SK74完掘、SD47完掘
写真図版10 SD21土層断面、SD21完掘、SD48土層断面、SD48完掘、SD59・P60・SD61・SD62土層断面、SD59・P60・SD61・SD62完掘、SD73土層断面、SD73完掘
写真図版11 SD75土層断面、SK76土層断面、SD75・SK76完掘、SK79完掘、SK77土層断面、SK77完掘、SD80土層断面、SD80・P81・SK82・SD83・SD84・SD85土層断面
写真図版12 SD80・P81・SK82・SD83・SD84・SD85完掘1、SD80・SK82・SD83・P81・SD84・SD85完掘2、SD88・SK89・SK90土層断面、SD87・SD88・SK89・SK90・SD92完掘、SK91土層断面、SK91完掘、SD94・SK95土層断面、SD94・SK95完掘
写真図版13 SD97・SK98土層断面、SD97・SK98完掘、SD99・SK100土層断面、SD101土層断面、SD99・SK100・SD101完掘、SD106・SK107土層断面、SK113土層断面、SK113完掘
写真図版14 SD78土層断面、SD78完掘、SD102・SD103土層断面、SD104・SD105土層断面、SD102・SD103・SD104・SD105完掘、SD112完掘、SD108土層断面、SD108完掘
写真図版15 SX86土層断面、SX86完掘、SK18・SK17・SK16の断面とSD5完掘、SD1・P2・P3・P4完掘、SD6完掘、SD10・SD11・P15完掘、SD7・P117土層断面、SD7・P117完掘
写真図版16 SD9土層断面、SD9完掘、SD12土層断面、SD12完掘、SD13土層断面、SD13完掘、SD114完掘、SD115完掘
写真図版17 SK111土層断面、SK111完掘、SK110土層断面、SK110完掘、SD124土層断面、SD124完掘、基本層序23、調査着手前状況
写真図版18 出土遺物 SD21・SD5・SD9・第13次調査包含層出土遺物・包含層
写真図版19 出土遺物 SD21・SD22・SD45・SD47・P40・SK89・SK95・SD78・SD80・SD93・SX86
写真図版20 出土遺物 SK18・SD5・SD6・SD9・SD12・SD114・第13次調査包含層出土遺物
写真図版21 出土遺物 包含層出土遺物・鍛冶関連遺物・軽石・石製品・鉄製品
写真図版22 出土遺物 墨書土器拡大

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

結七島遺跡は新潟市秋葉区結字苗代付 512-2 番地ほかに所在する（新潟県埋蔵文化財包蔵地カード）。平成 11 年（1999）と 12 年（2000）に荻川駅東土地区画整理事業に先立って新潟市教育委員会（当時。以下「新潟市教委」という。）が実施した埋蔵文化財試掘調査（以下「試掘調査」という。）によって新たに発見された遺跡である。能代川左岸の自然堤防上に立地し、これまでの調査結果から、概ね 2 時代の遺跡であることが分かっている。1 つは古墳時代で、前期（4 世紀頃）も若干認められるが、古墳時代中期から後期を中心として営まれた時期（5 世紀～7 世紀）と、もう 1 つは平安時代前期に営まれた時期（9 世紀～10 世紀初頭）である。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 10 年（1998）、旧新潟市結・田島地内で計画された土地区画整理事業（後の荻川駅東土地区画整理事業）の事前協議のなかで同計画地の試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。この事前協議を受けて平成 11 年に試掘調査を実施したところ平安時代を中心とした遺物が出土したので、翌平成 12 年に前年調査できなかった部分について追加の試掘調査を実施した。新発見となったこの遺跡は字名から結七島遺跡として周知化された。事業地にかかる遺跡の範囲が明らかになったことを受けて新潟県教育庁文化行政課・荻川駅東土地整理組合（以下「組合」という。）・新潟市教委の三者で協議の結果、①遺跡範囲内の事業地のうち、調整池や道路部分については発掘調査が必要であり、その総面積は 17,900 ㎡であること。②発掘調査にかかる費用は組合が負担することなどで合意した。発掘調査は土地整理事業計画に沿って進められることとなった。

平成 13 年（2001）度に調査主体者である新潟市教委から委託された（株）パスコが調査担当となって造成工事第 1 期工事部分の 1,909 ㎡について発掘調査を実施した（第 4 次調査）。翌平成 14 年（2002）度に当該調査の発掘調査報告書が刊行されている。

平成 15 年（2003）度は平成 13 年度と同じように調査主体者である新潟市教委から委託された国際航業株式会社が調査担当となって造成工事第 2 期工事部分の 13,716 ㎡について発掘調査を実施した（第 8 次調査）。平成 16 年（2004）度に当該調査の発掘調査報告書が刊行されている。

平成 17 年（2005）3 月 21 日に新潟市が新潟市と合併したことに伴い事業は新潟市に引き継がれた。平成 17 年造成工事第 3 期工事のうち 138 ㎡について発掘調査を実施した（第 13 次調査）。調査主体は新潟市教育委員会（以下「新潟市教委」という）、調査担当は新潟市総務局国際文化部歴史文化課埋蔵文化財センターである。翌平成 18 年（2006）には造成工事第 3 期工事のうち 1,839 ㎡について発掘調査を実施した（第 15・17 次調査）。調査主体および調査担当は平成 17 年度と同じである。この調査で荻川駅東土地区画整理事業に伴う現地発掘調査は全て終了した。発掘調査総面積は 17,602 ㎡におよんだ。

第 3 節 調 査 履 歴

結七島遺跡は上述のとおり平成 12 年に周知化されてから、土地区画整理事業という大規模な事業が行われたこともあり、埋蔵文化財調査が増加した。第 1 表に調査履歴をまとめた。

第3節 調査履歴

調査年次	荻川駅東土地区画整理事業に伴う発掘調査年次	調査年(西暦)	調査期間	調査主体者	調査担当者	調査の種類	調査原因	調査の概要	報告書
第1次調査	第1次調査	平成11年(1999)	10.25 ~ 11.2	新津市教委	渡邊朋和	試掘調査	土地区画整理事業	遺跡発見	
第2次調査	第2次調査	平成13年(2001)	5.14	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	土地区画整理事業		
第3次調査	第3次調査	平成13年(2001)	5.15 ~ 6.1	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	土地区画整理事業	結七島遺跡周知化	
第4次調査	第4次調査	平成13年(2001)	8.14 ~ 12.7	新津市教委	(株)パスコ 遠竹陽一郎	本格調査	土地区画整理事業	調査面積1,909㎡ 平安時代の遺構・遺物	『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
第5次調査		平成13年(2001)	9.18	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	ポンプ場建設		
第6次調査		平成13年(2001)	11.7	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	個人住宅建築		
第7次調査		平成14年(2002)	5.31 ~ 8.21	新津市教委	立木宏明	本格調査	ポンプ場建設	調査面積98.79㎡ 平安時代の遺構・遺物	『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
第8次調査	第5次調査	平成15年(2003)	5.15 ~ 12.15	新津市教委	国際航業(株) 稲垣正宏ほか	本格調査	土地区画整理事業	調査面積13,716㎡ 古墳時代と平安時代の遺構・遺物	『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
第9次調査		平成15年(2003)	7.11	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	集合住宅建設		
第10次調査	第6次調査	平成15年(2003)	8.4 ~ 9.22	新津市教委	渡邊朋和	確認調査	土地区画整理事業		
第11次調査		平成15年(2003)	8.27	新津市教委	潮田憲幸	確認調査	集合住宅建設		
第12次調査		平成16年(2004)	1.7 ~ 1.13	新津市教委	立木宏明	確認調査	下水道工事		
第13次調査	第7次調査	平成17年(2005)	9.1 ~ 9.16	新潟市教委	諫山えりか	本格調査	土地区画整理事業	調査面積138㎡ 平安時代の遺構・遺物	
第14次調査		平成18年(2006)	3.7	新潟市教委	潮田憲幸	確認調査	道路拡幅工事	古墳時代と平安時代の遺物	
第15次調査	第8次調査	平成18年(2006)	5.8 ~ 5.21	新潟市教委	朝岡政康	本格調査	土地区画整理事業	調査面積88.5㎡ 平安時代の遺構・遺物	
第16次調査		平成18年(2006)	5.26	新潟市教委	諫山えりか	確認調査	道路拡幅工事		
第17次調査	第9次調査	平成18年(2006)	7.3 ~ 10.3	新潟市教委	朝岡政康	本格調査	土地区画整理事業	調査面積1,750.5㎡ 平安時代の遺構・遺物	
第18次調査	第10次調査	平成18年(2006)	10.2 ~ 10.3	新潟市教委	朝岡政康	確認調査	土地区画整理事業	第17次調査地の下層について遺跡の有無を確認調査	
第19次調査		平成18年(2006)	9.19 ~ 12.4	新潟市教委	諫山えりか	本格調査	道路拡幅工事	調査面積593㎡ 平安時代の遺構・遺物	

第1表 結七島遺跡にかかる調査履歴一覧表

第1表に示したとおり、今次調査は通算で第13・15・17次調査に当たり、荻川駅東土地区画整理事業に伴う調査としては第7・8・9次調査にあたる。以下、本文中で述べる調査年次は全て通算年次で表記することとする。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

結七島遺跡は旧新津市の結地区に所在する。新津市は平成17年3月21日に合併によって新潟市となり、平成19年4月1日に新潟市が政令指定都市となったことを受けて区政が施行され、旧新津市と旧小須戸町を含んだ地域は新潟市秋葉区となった。この秋葉区は越後平野のほぼ中央に位置し、地形は、①新津丘陵の山地・丘陵部、②新津丘陵縁辺部の小規模な段丘部、③扇状地・谷底平野・三角州・自然堤防・微高地・旧河道・干拓地といった低地に分かれる。河川は新津丘陵を中心に西側に信濃川、東側に阿賀野川と大河川が流れる。阿賀野川と信濃川を結ぶように小阿賀野川が流れ、新津丘陵東辺に沿うように流れた能代川が丘陵先端部で北に流路を変え小阿賀野川に合流する。この能代川は戦後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原から新潟市秋葉区大関間の蛇行部分が直線化し、旧新津市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の新津川・能代川となっている。第1図に見るとおり能代川左岸の自然堤防は良く発達している。これは能代川が形成したというよりも、過去の阿賀野川流路によって形成されたものと考えられている〔新潟市史編さん委員会 1993〕。

遺跡周辺の景観は、土地区画整理事業前は水田・畑地帯であった。これは大正末期から昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図からは微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されていたことが分かる。遺跡は現在の結集落に隣接し、能代川左岸の自然堤防上もしくはその周縁の微高地上に立地する。

第2節 秋葉区の遺跡

現在新潟市内では700箇所を超す遺跡が周知化されており、秋葉区は市内でも様々な時代の遺跡が多く確認されている地域である。時代別に遺跡の分布をみると、旧石器・縄文・弥生時代では丘陵・段丘上に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部、奈良・平安時代になると平野部微高地に分布が見られるようになる。

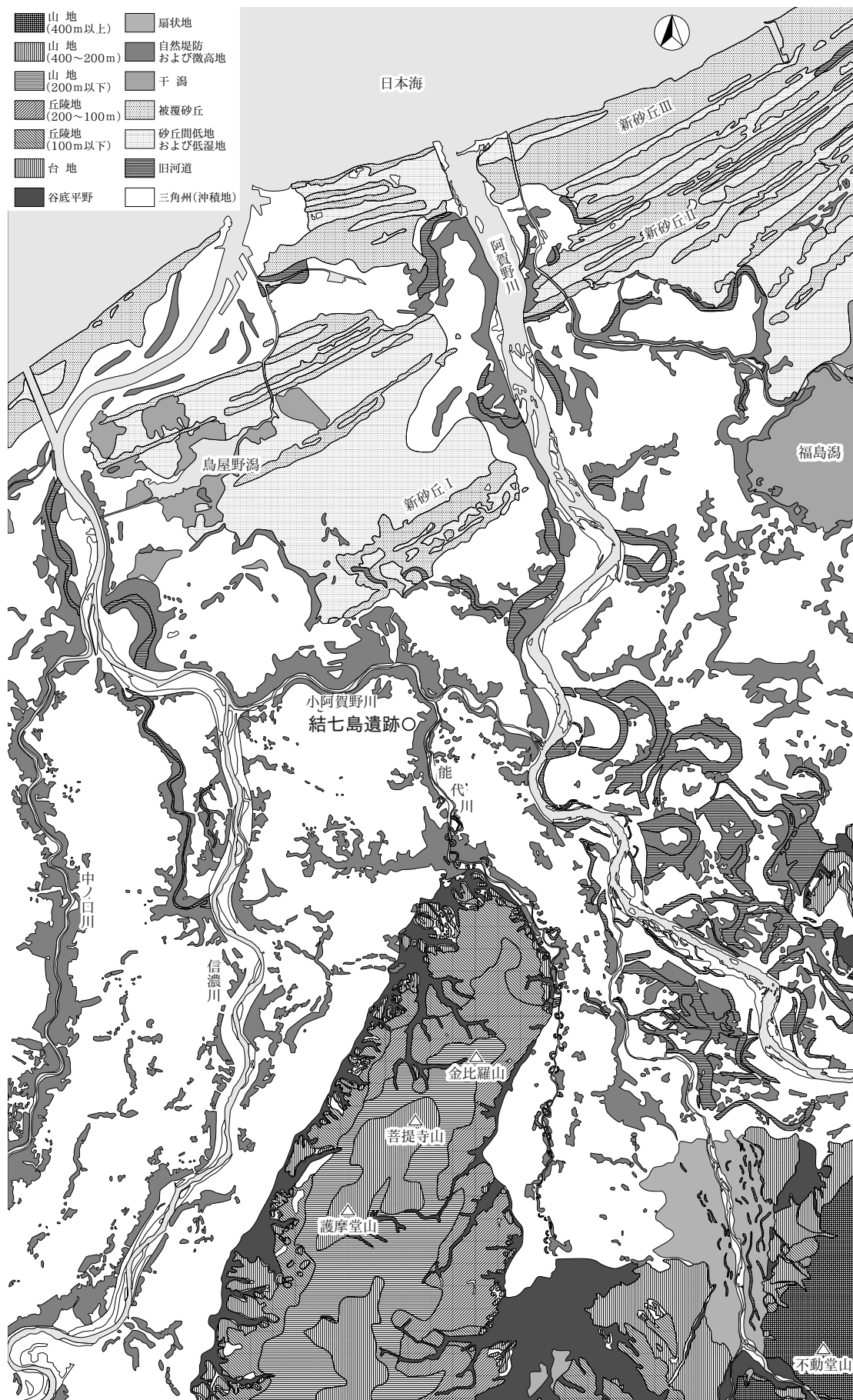
旧石器時代の遺跡 この時代の遺跡は、風化火山灰層（ローム層）を上部に含む矢代田層・蒲ヶ沢層により形成された新津丘陵の周辺に分布する。古津八幡山遺跡〔渡邊ほか2001・2004〕や草水町2丁目窯跡〔新潟市2007〕でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。

縄文時代の遺跡 縄文時代中期～後期が主体で、標高10～30mの丘陵上・段丘上に立地するものが多い。代表的な例としては、原遺跡（中～晩期）があり、秋葉区内最大規模とされている〔川上1989〕。そのほか秋葉遺跡（中～後期）が比較的規模が大きい遺跡である。また愛宕澤遺跡では平成10年（1998）度の調査で、秋葉区内でほとんど確認されない縄文時代草創期前半の石器（局部磨製石斧・石核）が出土した〔立木ほか2004〕。

弥生時代の遺跡 主に古津八幡山遺跡〔川上1994、渡邊ほか2001a・2004〕とその周辺の埋葬地遺跡、居村C遺跡（D・E地点）〔川上1996、渡邊1997〕であり、いずれも弥生時代後期に属する。

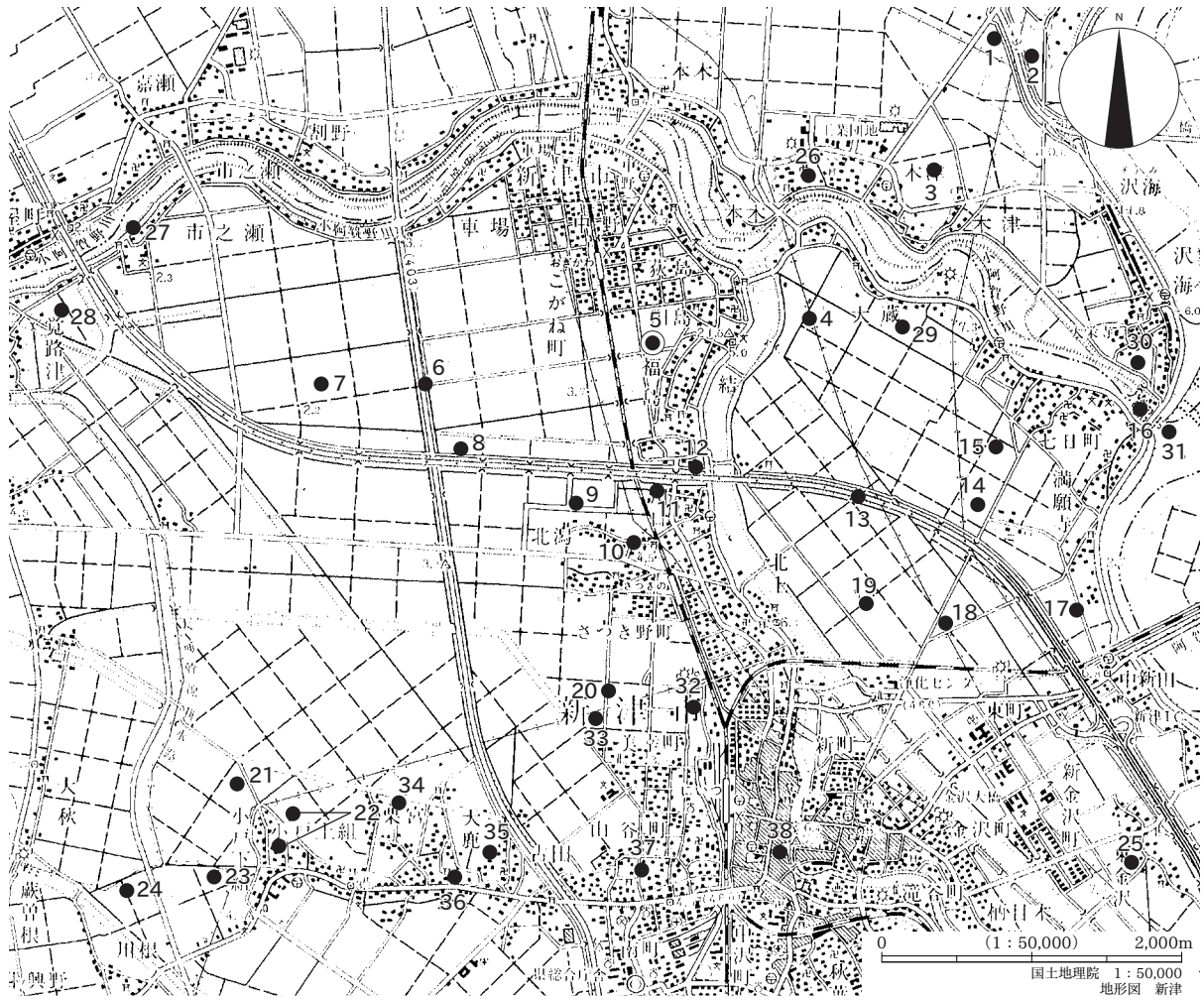
特に古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・前方後方形周溝墓・前方後方墳が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土している。日本海側最北の北陸系高地性集落として、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての社会情勢やその変遷を考える上で重要であるとして、平成17年7月14日に約11.5haが国の史跡に指定された。

また、平野部に立地する遺跡は少ないが、舟戸遺跡で弥生時代の遺物が出土している〔渡邊ほか2001a〕。



第1図 結七島遺跡周辺地形分類図

新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 [1/150,000]



No.	名称	時代
1	上郷	奈良・平安
2	上郷B	奈良・平安
3	天王杉	平安
4	中谷内	平安
5	結七島	古墳～平安・中世
6	結	奈良
7	長沼	奈良～平安
8	上浦A	平安
9	上浦B	古墳・奈良～平安
10	川口乙	平安
11	川口甲	平安
12	江内	平安・中世・近世
13	沖ノ羽	奈良～平安

No.	名称	時代
14	無頭	平安
15	内野	平安
16	寺嶋	平安・鎌倉
17	久保	平安
18	大下	平安
19	山王浦	平安
20	山谷北	古代
21	西沼	平安
22	小戸下組	平安・鎌倉・室町
23	長左工門沼	平安
24	川根	平安・鎌倉・室町
25	西江浦	平安
26	石仏	室町

No.	名称	時代
27	川原畑	中世
28	下等別当	古代～中世
29	新久免の塚	室町～江戸
30	居屋敷跡	古墳・古代・鎌倉～室町・近世
31	長崎(城跡)	室町
32	埋堀	中世
33	山谷北	古墳
34	浄楽	室町
35	腰廻	室町・平安
36	諏訪神社石仏	中世
37	新津城跡	平安・南北朝～戦国
38	本町石仏	中世

第2図 結七島遺跡周辺の遺跡分布図

古墳時代の遺跡 古墳時代前期には古津八幡山遺跡の北西端に古津八幡山古墳が造営される（墳丘約60m・造り出し付き円墳）〔甘粕・川村ほか1992〕。古墳に隣接する舟戸遺跡・高矢C遺跡は中期の遺跡であり、丘陵部縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では前期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目される。平野部の沖ノ羽遺跡〔星野ほか1996〕・上浦B遺跡では古墳時代前・中期の土師器が出土し、結遺跡〔川上ほか1989〕では古墳時代後期の内面黒色処理を施した高杯が出土している。

奈良・平安時代（古代）の遺跡 平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡や須恵器・土師器窯などの生産遺跡が集中している。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布する七本松窯跡・草水町2丁目窯跡などがあり、東斜面には平成19年（2007）に新たに発見された秋葉2丁目窯跡がある。製鉄遺跡は居村遺跡・大入C遺跡などがあり、9世紀第2四半期以降の遺跡とされる〔渡邊1998〕。

結七島遺跡周辺の平野部に所在する遺跡（第2図、図版3参照）では、能代川の対岸に位置する沖ノ羽遺跡や上浦A・B遺跡、川口甲遺跡の発掘調査成果がある。沖ノ羽遺跡では、掘立柱建物・井戸などが発見されているとともに、畝状遺構も見つかっており平安時代の生産域を伴った集落跡と推定されている〔春日2003〕。上浦遺跡（A・B）でも掘立柱建物や畝状遺構が発見されている。遺物は円面硯や銅製帯金具・三彩小壺や多量の墨書土器〔渡邊1992、川上1997〕、さらに銅製素文鏡が県内で出土している〔坂上2003〕。川口甲遺跡は9世紀中葉～後葉の遺跡で墨書土器が出土している〔川上1992〕。

中世の遺跡 城館跡が8箇所、山城として東島城・金津城〔横山・竹田ほか1987〕がある。集落跡は、基本的に平野部微高地上に立地する。自然堤防上の遺跡の実態は良く分かっていなかったが、江内遺跡の発掘調査に伴い、14～15世紀の集落跡が発見された〔春日ほか1996〕。また、細池遺跡では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている〔小池ほか1994〕。また、自然堤防上に立地する内野遺跡は12世紀中葉から16世紀に至るまでに断続的に営まれた遺跡であることが発掘調査の結果明らかとなった〔立木・高野ほか2002〕。

第3節 歴史的環境（第2図、図版3）

古代の秋葉区 秋葉区域は、古代では越後国蒲原郡に属していた。越後国は「越国」が分割されて成立したものであるが、その分割は、諸国の境界を定めた天武12年（683）から、越前国司の記事が見られる持続6年（692）の間になされ、成立当初の越後国は阿賀野川以北の沼垂郡・磐船郡およびそれ以北であったと考えられている〔新潟県編1986〕。その後大宝2年（702）に当時越中国であった頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡が越後国に編入された。このことにより、越後国の南限が定まった。和銅元年（708）に越後国出羽郡が設置され、4年後の和銅5年（712）に出羽郡は出羽国として越後国から分離した。このことにより越後国の北限も定まった。佐渡は佐渡国として成立し、文武天皇4年（700）に初見記事があることからこのころ成立したものと考えられる。天平15年（743）から天平勝宝4年（752）まで越後国に編入された時期もあるが、この間以外は1国として運営されている。

蒲原郡の郡域については明確ではないが、現在の北区を除く新潟市・五泉市の阿賀野川以西・田上町・加茂市・燕市・三条市・弥彦村を含む地域と考えられている。蒲原郡の成立は前述した702年ころには成立していたと推定される。10世紀に成立した『和名類聚抄』によれば、蒲原郡内には日置郷・桜井郷・勇礼郷・青海郷・小伏郷の5つの郷が存在していたことが分かる。各郷の所在地については、桜井郷は弥彦村を中心とした地域に比定する説が多く、勇礼郷は三条市井栗周辺を、青海郷は加茂市周辺を、小伏郷は三条市布施谷周辺と比定する説が多い。残る日置郷の位置は不明であるが『新津市史』では古津八幡山遺跡が存在することなどから旧新津市周辺としている。

新津丘陵における須恵器生産は早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業期間であり、このことは越後国内の他地域の須恵器生産動向とも一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。ま

た金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区に所在し、窯跡と近接するのは燃料である薪や木炭が共通するからだと考えられている。古代の重要な産業である須恵器生産と製鉄産業が新津丘陵で営まれていることから、当地域が蒲原郡における重要な地域であったことが分かる。

8世紀中葉以降に成立した寺院のための荘園（初期荘園）も蒲原郡内に見ることができる。宝亀11年（780）「西大寺資材流記帳」（『寧良遺文』中巻）には西大寺の荘園として鶉橋庄・槐田庄が見られ、同資料に「越後国水田并墾田地帳景雲三年」と見られることから成立は8世紀中葉のことと考えられる。両庄は式内社所在位置から、鶉橋庄は五泉市橋田周辺・槐田庄は三条市周辺と考えられている。初期荘園は律令体制の衰退と共に衰退し、平安時代には衰退していたと考えられている。

11世紀後半に成立したと推定される金津保は、秋葉区に所在したと考えられている。保とは、未墾地の開発申請に対し国守が認可を与えることで出現した所領のことで、金津保の所見は建武3年（1336）11月18日「羽黒義成軍忠状写」で「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢、」（『新潟県史』資料編4-1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この資料によって金津保には新津城が含まれていたことが分かり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれかであろうとされる〔木村1993〕。また天正5年（1577）「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編5-2704）とあり、遊川は田上町湯川と見られ、天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編4-1495・1496）に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と五泉市の一部を含む範囲であったと推定される。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 発掘調査

A 調査方法

調査は、土地区画整理事業の造成第3期工事区域部分について2箇年、3次にわたって実施した（第13・15・17次調査、図版4）。

1) 調査地の着手前状況

当該調査地は土地区画整理事業が行われる以前は水田及び柿畑として利用されていた。その後柿畑部分は盛土され駐車場として利用された。平成18年には、この水田および駐車場は宅地造成と街路のため全て盛土で埋め立てられていた。発掘調査ではまずこの盛土を除去することからはじめなければならなかった。

2) グリッドの設定（図版4）

グリッド網は、平成13年度の第7次調査〔立木・澤野2003〕の際に、結七島遺跡周知範囲のうち土地区画整理事業用地内を網羅するよう設定された。調査結果の整合性が保たれるよう、当該調査も含め全ての本格調査でこのグリッド網を使用した。グリッド網の基準点とした1A杭は世界測地系座標でX座標は203090.2143、Y座標は54105.2239である。南北に走る道路を基準線に10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基準として東西方向をアラビア数字、南北方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示している。大グリッドはさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「39M1」のように呼称した。座標北は真北に対し0度22分47秒東偏し、磁北は真北に対し7度40分0秒西偏する。

3) 調査区の設定（図版5）

調査地は土地区画整理事業の造成第3期工事区域の街路建設部と道路拡幅部である。各建設部分に調査地が分かれることから、調査区を4区に設定した。東西方向に長い3箇所について、北側を1区・真中を2区・南側を3区とし、南北方向に長い調査区を4区とした。1・2・4区は街路建設部分で、3区は道路拡幅部分である。3区には第15次調査地を含め、4区には第13次調査地を含めて報告する。

4) 調査方法

①表土掘削

a) 第13次調査地と第15次調査地は主に拡幅部分に限って実施したので幅が狭かった。調査地は厚く盛土されていたので、安全のため壁面に勾配を付け、また崩落の危険性が高い場所は軽鋼矢板を打った。掘削は重機（バックホウ）を使用し、遺物・遺構に注意しながらV層上面（遺構確認面）まで掘り下げた。盛土の平均的厚さは90cmほどで、地表面から遺構確認面までの深さは1.5m～2.0mほどであった。第13次調査の上端の幅は4m、下端の幅は2mである。また第15次調査の上端の幅は2.0m、下端の幅は1.0mであった。

b) 第17次調査地は主に街路建設部分である。街路の設計幅は6m、盛土の厚さは平均90cm程度との事前打ち合わせを受けて、調査は旧地表面上面の幅が6mになるように盛土部分の勾配を考え幅8mを取った。しかし実際の盛土の厚さは1.2m～1.7mと当初計画と異なり厚かったため、旧地表面の上面で概ね5mしか取れなかった。遺跡はさらに1mほどの深さで確認された。これらのことによりV層（遺構確認面）上面での幅は概ね4.0m～4.5m程となった。掘削には重機を使用し、遺物・遺構に注意しながらV層上面まで掘り下げた。掘削残土は調査地内に仮置きできないほどの量であったのでダンプを使用して場外へ搬出した。

②包含層掘削・遺構検出・遺構掘削 遺物包含層（IVa層・IVb層）は重機で慎重に掘り下げた。掘削残土は重

機で調査区外へ搬出した。その後遺構確認面であるV層上面を人力で精査し遺構検出に勤めた。遺構は人力で掘削した。掘削残土は人力で調査区外に搬出した。

③実測・写真 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図測量はトータルステーションを使用し全て国家座標で記録した。全ての調査で、遺構平断面図測量ほか測量業務一式を業者に委託した。

写真は空中写真以外の写真記録は全て調査員が撮影した。35mm版および6×7版カメラを使用し白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。調査終了状況写真は高所作業車を使用して撮影した。第17次調査のみラジコンヘリコプターを使用し空中写真撮影を測量業者に委託して実施した。

B 調査経過

1) 第13次調査 現地調査を平成17年9月1日から同年9月16日まで実施した。9月6日まで表土掘削を行った。9月15日に高所作業車を使用して調査終了写真を撮影した。

2) 第15次調査 現地調査を平成18年5月8日から同年5月21日まで実施した。5月10日まで表土掘削を行った。5月20日に高所作業車を使用して調査終了写真を撮影した。

3) 第17次調査 現地調査を平成18年7月3日から同年10月2日まで実施した。7月から1区の表土除去を実施した。7月は梅雨の時期に当たり、この年は雨天の日が多く、また雨量も多かったため調査は難航した。8月から2～4区の表土除去を開始した。2区以外は遺構確認面であるV層が非常に軟弱であった。また盛土の土圧で壁面の崩壊や湧水などもあり、調査もさることながら現場の維持管理に多くの時間が費やされた。9月24日に市民向けの現地説明会を実施し、70名の参加があった。調査終了に伴う空中写真撮影と高所作業車を使用した撮影を9月26日に実施した。

第2次調査では当該調査地付近で古墳時代後期と考えられる遺物が出土しており、また第8次調査では古墳時代後期の遺構・遺物が平安時代の下層から確認されていたため、10月2・3日に下層の確認調査(第18次調査)を実施した。確認調査は0.7m³級のバックホーを使用し、盛土上面から掘削した。試掘坑の大きさは幅3m、長さ2mで、10～15m間隔に設定した。1区に8箇所、2区に7箇所、3区に3箇所の計18箇所を調査した。遺構確認面から2m前後を慎重に掘り下げた。調査の結果、遺構・遺物は確認できなかったため全ての作業を終了した。

C 調査体制

【平成17年度 第13次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長:佐藤満夫)
所管課	新潟市歴史文化課(課長:渡辺ユキ子 課長補佐兼文化財係長:倉地一則)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長:手島勇平)
調査担当	諫山えりか(新潟市埋蔵文化財センター 主事)
整理補助員	神田ハル子 桑野多真美(短期臨時職員)

【平成18年度 第15次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長:佐藤満夫)
所管課	新潟市歴史文化課(課長:渡辺ユキ子 課長補佐:倉地一則 埋蔵文化財係長:渡邊朋和)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長:山田光行)
調査担当	朝岡政康(新潟市埋蔵文化財センター 副主査)

【平成18年度調査 第17次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長:佐藤満夫)
所管課	新潟市歴史文化課(課長:渡辺ユキ子 課長補佐:倉地一則 埋蔵文化財係長:渡邊朋和)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長:山田光行)
調査担当	朝岡政康(新潟市埋蔵文化財センター 副主査)
整理補助員	小柳勢伊子 桑野多真美 沼澤綾子 森岡綾子 渡辺絵里(短期臨時職員)

第2節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径54.5×33.6×10.0cm）換算で、第13次調査は1箱・第15次調査は6箱・第17次調査は12箱の合計19箱であった。

遺物の整理作業は以下の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別、種別の重量計測。④遺構出土遺物の器種毎の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。⑧観察表作成。⑨版下作成。

実測図は整理補助員（短期臨時職員）が原寸で作成し、トレース図と版下は業者に委託しデジタルトレースで作成した。

2) 遺構

遺構断面図を含め測量業務一式は、全ての調査で業者に委託した。校正は、業者が観測したデータを基にパソコン上で作成した1/20の遺構平面図と業者が現場実測した1/20遺構断面図原図を使用した。校正後トレース原図1/20、1/40、1/200、1/1000をデータで作成し、報告書中の各図版はこれらを適宜利用してデジタル編集で作成した。

B 整理経過

平成18年度は第13・15・17次調査の遺物整理・写真整理・図面整理・遺物実測図作成など基礎整理作業を行った。平成19年度は報告書の図版・挿図・観察表・別表の作成、原稿執筆を行った。

C 整理体制

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長：倉地一則 課長補佐：山田一雄 埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	朝岡政康（新潟市埋蔵文化財センター 副主査）
整理補助員	桑野多真美 沼澤綾子（短期臨時職員）

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

結七島遺跡は能代川左岸の自然堤防上に立地し、遺構確認面の標高は2.1～2.7mほどである。東側（能代川方向）の標高が高く、西に向かって低くなる傾向が強い。南北方向では南に向かって低くなる。出土した遺物は前述のとおりコンテナで19箱であり、須恵器・土師器が大半を占めている。その他鍛冶関連遺物や軽石等石製品、鉄製品では釘と考えられるものが出土している。遺物から主に平安時代の遺跡として理解できる。検出された遺構は、溝（SD）が最も多く、土坑（SK）がそれに続く。遺構は南東方向（能代川の上流方向）に向って多くなる傾向が見られる。2区で最も多く遺構が検出された。遺構の中には、覆土の様相差と遺物の有無から、平安時代前期より新しい遺構も存在する可能性がある。

第2節 層 序（図版6～9 写真図版7・17）

土層の堆積状況は下記のとおりである。大きくは5層に分けられる。第8次調査B-4区の基本層序を元に分層したがabc…などの細分は独自に設定した。前章で報告したとおり、調査以前は水田として利用されており、水田を造成する際に搬入土を入れるなど土壌の改変をしている様子が観察でき、包含層より上層の堆積状況は一様ではなかった。4区の堆積状況（図版9 基本層序20～25）が自然堆積状況を示しているものと考えられる。確認面の標高が高い東側では包含層より上層は改変されている可能性が高い。

盛 土 造成用盛土。平均1.5m。平成17・18年に施工された。

I a層 黒褐色粘土（7.5YR3/2） 盛土以前の表土。第8次調査B-4区I a層に相当。

I b層 褐灰色シルト（7.5Y5/1） I a層に比べ砂質強い。

II a層 灰黄褐色粘土（10YR4/2） 旧表土（水田床土もしくは畑耕土）。第8次調査B-4区II a層に相当。

II b層 灰色シルト（7.5Y4/1） 水田もしくは畑耕作関連土。炭化物多く混入。

II c層 オリーブ黒色粘土（10Y3/1） 粘性強。しまりなし。

II d層 黒褐色粘土（10YR2/2） 腐食植物層（いわゆるガツボ）・水草の根多く混ざる。ラミナ状に堆積。

II e層 褐灰色粘土（10YR4/1） 水草の根多く混ざる。ラミナ状に堆積。

II f層 灰色粘土（5Y5/1） 水草の根多く混ざる。ラミナ状に堆積。

III a層 灰色粘土（10Y4/1） 粘性強。しまりなし。径3mm程の炭化物少量混入。第8次調査III a層に相当。

III b層 灰色粘土（10Y5/1） 粘性強。しまりなし。

III c層 オリーブ黒色粘土（7.5Y3/1） III層からIV層への漸移層。

IV a層 灰色粘土（10Y4/1～7.5Y4/1） 平安時代の遺物包含層。径3～5mmの炭化物がまばらに混入。第8次調査のIII b・III c・III dに相当すると考えられる。

IV b層 黒色粘土（5Y2/1） 平安時代の遺物包含層。主に調査区西側の標高が低い場所に見られる。第8次調査のIV層に相当。

V 層 明オリーブ灰色シルト（5GY7/1） 粘性ややあり。しまりなし。平安時代の遺構確認面。第8次調査のV層に相当する。湧水激しい。

第3節 遺 構

遺構は土坑 (SK) 31基・溝 (SD) 45基・性格不明遺構 (SX) 1基・その他小穴 (Pit) 多数であった。すべてV層上面で確認された。

遺構番号は、第15次調査で付した通し番号をそのまま第17次調査に引き継いだ。第13次調査では遺構が少なかったことから、第17次調査の後の番号を付した。

遺構の計測値等は別表1に示した。調査区の幅が狭く、遺構全部を調査できたものは少ない。特に溝はほとんどが部分調査である。遺構の平面形態を円形・楕円形・不整形・方形・長方形の5種に分けた。また、覆土の様相からその特徴を分類し5類に分けた。1類は、覆土の大半がIVa層に類似する層であるもの。2類は、覆土1層目もしくは2層目にIVb層に類似する土が堆積するもの。3類は、主にIVa層とV層類似層のブロック状の塊が混ざり合い、不規則に堆積しているもの。4類は、褐色粘土が堆積しているもの。5類は1～4類以外のもの、である。

遺構の説明は1区から順に4区まで行い、各区内は土坑 (SK)、溝 (SD)、性格不明遺構 (SX)、小穴 (Pit) の順に東から西に向かって説明する。4区は北から南に向かって説明する。小穴は特徴をもつもののみ記載した。

A 1区の遺構

第17次調査地である。35Jから38Jにかけて確認面標高が2.6～2.7mと遺跡内では標高が高くなっており、湧水もほとんどなく、遺構密度も高い。ここを中心に東西方向に低くなって行き、標高2.5mほどから湧水が激しくV層上面は常に滞水状態にあり、遺構密度も低い。東から西に向って、土坑の報告をし、続いて溝、ピット (Pit) の順で報告をする。

1) 土 坑 (SK)

SK20 (図版6、写真図版7)

43J16・17に位置する。確認面で長径1.38m、短径1.00mを測る。平面形は楕円形を呈し、覆土は4類である。激しい湧水と周囲からの土圧で遺構が崩壊し、ほとんど調査できなかった。図示していないが、須恵器甕・土師器の無台椀、長甕の細片が出土している。

SK23 (図版6・11、写真図版7)

41J12・17に位置する。確認面で長径1.10m、短径0.68m、深さ9cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿形である。覆土は4類である。遺物は出土していない。

SK24 (図版6・11、写真図版7)

41J17に位置する。確認面で長径1.40m、短径0.61m、深さ9cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿形である。覆土は1類である。図示していないが、土師器長甕の細片が出土している。

SK25 (図版6・11、写真図版7)

41J18に位置する。確認面で長径0.60m、短径0.52m、深さ12cmを測る。排水路にかかっているため全体の形状は不明であるが、平面形は不整形を呈し、断面形は箱形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK32 (図版6・11、写真図版8)

38J23に位置する。確認面で長径0.61m、短径0.71m、深さ8cmを測る。調査区外へ広がっているため、全体形状は不明であるが、平面形は長方形を呈し、断面形は皿形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK39 (図版6・11、写真図版8)

38J16に位置する。確認面で長径0.88m、短径0.69m、深さ6cmを測る。排水路にかかっているため、全体

形状は不明であるが、平面形は不整形を呈し、断面形は皿形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK43 (図版6・11、写真図版8)

37J25に位置する。確認面で長径0.26m、短径0.50m、深さ17cmを測る。調査区外へ広がっているため全体の形状は不明であるが平面形は円形を呈すると思われる。断面形は台形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK46 (図版6・11、写真図版8・9)

37J15に位置する。確認面で長径0.33m、短径0.49m、深さ20cmを測る。一部排水路にかかり不明であるが平面形は楕円形を呈し、断面形は半円形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK55 (図版6・11、写真図版9)

36J19に位置する。確認面で長径0.65m、短径0.88m、深さ45cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は台形を呈する。覆土は3類である。遺物は出土していない。

SK56 (図版6・11、写真図版9)

36J18に位置する。確認面で長径1.25m、短径0.82m、深さ12cmを測る。平面形は不整形を呈し、断面形は皿形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK64 (図版6・11)

35J18に位置する。確認面で長径0.87m、短径0.24m、深さ6cmを測る。一部排水路にかかり不明であるが、平面形は不整形を呈し、断面形は皿形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK70 (図版6・11)

35J16に位置する。確認面で長径0.83m、短径0.60m、深さ10cmを測る。平面形は方形を呈し、断面形は皿形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK74 (図版6・11、写真図版9)

35J21に位置する。確認面で長径0.85m、短径0.79m、深さ12cmを測る。排水路にかかり、また調査区外へ伸びているため全体の形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。断面形は皿形を呈す。覆土は1類である。遺物は出土していない。

2) 溝 (SD)

SD19 (図版6・12、写真図版7)

43J16・17に位置する。北西-南東 (N-63°-W) 方向に軸を持つ。確認面で長さ5.42m、幅0.65m、深さ14cmを測る。断面形は箱形を呈し、覆土は1類である。南東方向に深くなっていく。図示していないが、須恵器の壺・甕、土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SD21 (図版6・12、写真図版10)

42J12・17に位置する。北北西-南南東 (N-12°-W) に軸を持つ。確認面で長さ4.08m、幅2.26m、深さ35cmを測る。断面形は箱形を呈し、覆土は2類である。南南東方向に深くなっていく。SD5に次ぐ深さを有する溝で、幅も広くしっかり掘り込まれている。遺物もSD5に次いで出土量が多く、須恵器の杯蓋 (1・2)・有台杯 (3・4)・無台杯 (5~11)・甕 (12)、土師器の小甕 (13~16)・長甕 (17)・鍋 (18) のほか、図示していないが、土師器無台碗の細片が1点出土している。また鍛冶関連遺物の羽口 (104) が出土している。

SD22 (図版6・12、写真図版7)

41J11・16に位置する。北西-南東 (N-54°-W) 方向に軸を持つ。確認面で長さ3.32m、幅0.80m、深さ4cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。北西方向に深くなっていく。SK23・24が周囲にある。非常に浅いが、周辺土坑と同様に本来はより上層から掘り込まれている可能性がある。墨書が認められる須恵器無台杯 (19) のほか、図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD28 (図版6・12、写真図版8)

38J14・19に位置する。北北西－南南東 (N-29°-W) に軸を持つ。確認面で長さ4.55m、0.72m、深さ13cmを測る。断面形は箱形を呈し、覆土は2類である。南南東方向に深くなっていく。図示していないが、土師器小甕の細片が出土している。

SD45 (図版6・12、写真図版8・9)

37J15・19に位置する。SD47を切り、SD72に切られる。北東－南西 (N-53°-E) 方向に軸を持つ。確認面で長さ5.43m、幅0.70m、深さ12cmを測る。断面形は半円形を呈し、覆土は1類である。南西方向に深くなっていく。須恵器無台杯 (20) ほか、図示していないが、土師器無台碗の細片が出土している。

SD72 (図版6・12、写真図版9)

37J19・24に位置する。SD45・SD47を切る。北西－南東 (N-39°-W) に軸を持つ。確認面で長さ2.48m、幅0.82m、深さ9cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。北西方向に深くなっていく。遺物は出土していない。

SD47 (図版6、写真図版9)

37J17・18に位置する。SD45・SD72に切られる。北－南 (N-2°-W) 方向に軸を持つ。確認面で長さ4.33m、幅5.80m、深さ87cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は2類である。南側のほうが深い。土師器無台碗 (21) ほか、図示していないが、須恵器無台杯・黒色土器無台碗の細片が出土している。

SD48 (図版6・12、写真図版10)

36J20・37J16に位置する。SD47に切られる。北東－南西 (N-49°-E) に軸を持つ。確認面で長5.00m、幅1.10m、深さ8cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。北西方向に深くなっていく。図示していないが、土師器長甕の細片が出土している。

SD59 (図版6・12、写真図版10)

35J15・20に位置する。北西－南東 (N-34°-W) に軸を持つ。確認面で長さ5.03m、幅1.17m、深さ10cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。遺構底面の高低差はほとんどない。図示していないが、土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SD61 (図版6・12、写真図版10)

35J14・20に位置する。北西－南東 (N-35°-W) に軸を持つ。確認面で長さ4.85m、幅1.19m、深さ12cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。遺構底面の高低差はほとんどない。図示していないが、土師器の無台碗・長甕・小甕の細片が出土している。

SD62 (図版6・12、写真図版10)

35J13・19に位置する。北西－南東 (N-38°-W) に軸を持つ。確認面で長さ5.10m、幅1.11m、深さ3cmを測る。断面形は皿形を呈し、覆土は1類である。遺構底面の高低差はほとんどない。図示していないが、土師器無台碗の細片が出土している。

SD73 (図版6・12、写真図版10)

33J13・19に位置する。北西－南東 (N-43°-W) に軸を持つ。確認面で長さ4.97m、幅1.07m、深さ31cmを測る。断面形は半円形を呈し、覆土は2類である。南東方向に深くなっていく。図示していないが、黒色土器無台碗の細片が出土している。

3) 小 穴 (Pit) (図版6)

P40 (図版6・11、写真図版8・9)

38J16に位置する。確認面で長径0.59m、短径0.40m、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈し、覆土は1類である。須恵器杯蓋 (22) が出土している。

小穴 (Pit) 群 (図版6)

32J14・15・19・20周辺で多くのPitが確認された。覆土はすべて2類である。このうち、P127・P128・P129・P130は深さが似ていることや位置から建物を構成する可能性がある。ただし周辺は湧水が激しく、V層中に粘土を多く含み非常に軟弱な地盤である。遺物は出土していない。

B 2 区 の 遺 構

第17次調査地である。36Mから41Mにかけては確認面の標高が2.6～2.7mと遺跡内では高くなっており、湧水もほとんどなく、遺構密度も高い。35Mから西に向って標高が低くなり、湧水し地表面は常に滞水状態であり遺構密度も低くなる。また40M・41Mには後世の土木工事で大きく掘削され、遺跡が残っていない場所がある。東から西に向って、土坑の報告をし、続いて溝、性格不明遺構の順で報告をする。

1) 土 坑 (SK)

SK76 (図版7・12、写真図版11)

41M21に位置する。確認面で長径2.43m、短径1.28m、深さ8cmを測る。平面形は方形を呈する部分から、北東隅が溝状に延び、全体形状としては不整形を呈する。木根などの影響かもしれない。覆土は1類である。41Mグリッドは土地の改変を受けていて、包含層の遺存状態が悪かった。遺物は出土していない。

SK77 (図版7・12、写真図版11)

40M23に位置する。確認面で長径2.02m、短径1.58m、深さ41cmを測る。平面形は北-南(N-2°-E)を主軸とした長方形を呈し、断面形は箱形を呈すると思われる。覆土は3類である。西側の約半分は後世の工事で壊れており、遺構の底部がわずかに残っていた。覆土の様相から埋められた遺構であると考えられる。図示していないが、須恵器無台杯と土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SK79 (図版7、写真図版11)

39M25に位置する。確認面で長径1.05m、短径0.90m、深さ15cmを測る。平面形は不整形を呈し、断面形は皿形を呈す。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK82 (図版7・12、写真図版11・12)

39M22に位置する。確認面で長径0.60m、短径0.56m、深さ4cmを測る。平面形は方形を呈し、断面形は皿形を呈す。覆土は1類である。図示していないが、土師器無台碗細片が出土している。

SK89・SK90 (図版7・13、写真図版12)

38M23・38N3に位置する。完掘状態で長径2.24m、短径1.92m、深さ56cmを測る。平面形は全体で長方形を呈し、断面形はSK89が半円形を呈し、SK90は箱形呈すると思われる。覆土は3類である。SK77同様に埋められた遺構と考えられる。須恵器有台杯(23)が出土している。堆積状況から2つの土坑と判断したが、後述するSD88・SD92との関連性が強く、これらと一体をなす同時期の遺構群である可能性が高い。

SK109 (図版7)

38M17・22に位置する。確認面で長径1.48m、短径0.83m、深さ56cm(確認面からの深さは32cm)を測る。平面形は円形を呈し、断面形は箱形を呈す。Ⅲ層状面から掘り込まれている。覆土は5類で、Ⅲ・Ⅳa・Ⅴ層などの塊が混ざり合う。遺物は出土していない。平安時代の遺構ではないが、時代等は不明である。

SK91 (図版7・12、写真図版12)

38M21・22に位置する。確認面で長径1.88m、短径1.10m、深さ62cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は箱形を呈す。覆土のタイプは3類である。覆土はしまりがなく、崩落が激しいため堆積状況を示した断面図は正確さを欠く。遺物は出土していない。深いことから井戸の可能性もある。

SK95 (図版7・13、写真図版12)

37M17・18に位置する。確認面で長径1.24m、短径1.20m、深さ39cmを測る。環状に巡るSD94の内側に

位置する。平面形は北西－南東 (N-20°-E) を主軸とした楕円形を呈し、断面形は半円形を呈す。覆土は1類である。須恵器甕 (24) のほか、図示していないが、須恵器無台杯の細片が出土している。

SK98 (図版7・13、写真図版13)

37M21/37N1に位置する。確認面で長径1.86m、短径1.78m、深さ43cmを測る。平面形は不整形を呈し、断面形は2段階に掘り込まれた台形を呈す。覆土のタイプは深い部分で3類の特徴も見られるが概ね1類である。断面図上ではSD97に切られるが、覆土は非常に近似しており、同時期に一体として存在した遺構である可能性が高い。釘と考えられる鉄製品 (109・110) のほか、図示していないが、須恵器甕、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SK116 (図版7)

36N5に位置する。確認面で長径0.10m、短径0.32m、深さ16cmを測る。壁面にわずかにかかっている程度なので詳細は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。断面形は箱形を呈する。覆土は1類である。遺物は出土していない。

SK100 (図版7・14、写真図版13)

36M24に位置する。確認面で長径1.48m、短径1.22m、深さ20cmを測る。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は箱形を呈す。覆土は3類である。図示していないが、須恵器甕と土師器の小甕・長甕の細片が出土している。

SK107 (図版7・14、写真図版13)

35M21に位置する。確認面で長径1.03m、短径0.62m、深さ10cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は箱形を呈す。覆土のタイプは1類である。隣接するSD106を切るような土層断面だが、覆土の様相は全く同一であり、判別しがたい。同時期に存在した遺構と推測する。遺物は出土していない。

SK113 (図版7・14、写真図版13)

33M25に位置する。確認面で長径0.75m、短径0.65m、深さ21cmを測る。平面形は円形を呈し、断面形は皿形を呈す。覆土は2類である。図示していないが、砥石の細片が出土している。

2) 溝 (SD)

SD75 (図版7・14、写真図版11)

41M22・23/41N1に位置する。ほぼ東－西 (N-66°-E) に軸を持つ。今次調査で確認された溝の主軸方向が概ね北西－南東であるのに対し唯一東－西に軸を持つ溝である。確認面で長さ7.26m、幅0.47m、深さ6cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。図示していないが、土師器長甕の細片が出土している。

SD78 (図版7・14、写真図版14)

39M25/40N1に位置する。北西－南東 (N-27°-W) に軸を持つ。確認面で長さ3.62m、幅1.17m、深さ14cmを測る。断面形は皿形で、覆土は2類である。南東方向に深くなっていく。須恵器無台杯 (25)・土師器無台碗 (26・27) のほか、図示していないが、土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SD80 (図版7・14、写真図版11・12)

39M23/39N3に位置する。SD85を切る。北西－南東 (N-33°-W) に軸を持つ。確認面で長さ4.29m、幅1.51m、深さ31cmを測る。断面形は箱形で、覆土は2類である。南東方向に深くなっていく。須恵器の有台杯 (28)・無台杯 (29)、土師器の無台碗 (30)・小甕 (31・32) が出土しているほか、図示していないが、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD83 (図版7・15、写真図版11・12)

39M21/39N1に位置する。SD84に切られるか、もしくは、SD84の一部をなすと考えられる。北西－南東 (N-38°-W) に軸を持つ。確認面で長さ3.67m、幅0.56m、深さ7cmを測る。断面形は半円形で、覆土は1類である。図示していないが、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD84 (図版7・15、写真図版11・12)

39M21/39N1に位置する。SD83を切るか、もしくは、SD83と一体をなすと考えられる。北西-南東(N-30°-W)に軸を持つが39M21の北側で緩やかに北東方向に屈曲する。確認面で長さ4.14m、幅2.00m、深さ5cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。図示していないが、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD85 (図版7・15、写真図版11・12)

39M22/39N2に位置する。SD80に切られる。北西-南東(N-40°-W)に軸を持つが39M22の北側でほぼ直角に北東方向に屈曲する。確認面で長さ4.34m、幅0.69m、深さ11cmを測る。断面形は箱形で、覆土は1類である。図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕の細片が出土している。

SD87 (図版7・15、写真図版12)

38M24/38N4に位置する。SD88に一部切られる。北東-南西(N-40°-E)に軸を持つ。確認面で長さ4.59m、0.32m、深さ4cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。複数の小穴(Pit)がこの遺構を切っているが、建物をなすような配置状況ではない。遺物は出土していない。

SD88 (図版7・13・15、写真図版12)

38M24に位置する。北東-南西(N-41°-E)に軸を持つ。確認面で長さ7.14m、幅0.45m、深さ17cmを測る。断面形は皿形で、覆土は3類である。深度が17cmと、隣接するSD87より深い。SK89方向に深くなる。38M24グリッドの西側に不定形でテラス状の一段高い広がり認められ、複数の小穴がこの遺構を切っている。図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕、黒色土器無台碗の細片が出土している。

SD92 (図版7・15、写真図版12)

38N2に位置する。北東-南西(N-46°-E)に軸を持つ。確認面で長さ7.18m、幅0.74m、深さ6cmを測る。断面形は皿形で、覆土は3類である。深度が6cmと浅く、SK89(SK90)との前後関係はつかめなかった。図示していないが、土師器の無台碗・小甕の細片が出土している。

SD93 (図版7)

37M24・25/37N4・5に位置する。北-南(N-7°-E)方向に軸を持つ。確認面で長さ5.60m、幅2.93m、深さ14cmを測る。断面形は皿形で、覆土は2類である。須恵器無台杯(33)、外面に赤彩痕が残る土師器無台碗(34)・土師器の無台碗(35)・長甕(36)ほか図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台碗の細片が出土している。

SD94 (図版7・15、写真図版12)

37M22・23に位置する。楕円形に巡る溝状を呈し、長軸方向は北東-南西(N-32°-W)である。確認面での規模は最大幅3.38m、溝の幅0.63m、深さ7cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。円の中心付近にSK95が位置する。

SD97 (図版7・13、写真図版13)

37M21に位置する。長軸方向は北西-南東(N-42°-W)である。確認面で長さ2.96m、幅0.96m、深さ16cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。北西部分は土木工事の掘削坑により壊されている。南東方向はSK98で止まり、続かないことからSK98と一体をなす遺構である可能性が高い。遺構の底面は凹凸に富んでおり、深さにほとんど変化がないが、SK98方向に深くなる。遺物は出土していない。

SD99 (図版7・14、写真図版13)

36M25/36N4に位置する。長軸方向は北東-南西(N-37°-E)である。確認面で長さ4.10m、幅0.77m、深さ11cmを測る。断面形は箱形で、覆土は1類である。北東方向はSD97同様土木工事の掘削坑により壊されている。南西方向に深くなる。図示していないが、須恵器無台杯、土師器無台碗の細片が出土している。

SD101 (図版7・15、写真図版13)

36M23・24に位置する。長軸方向は北東-南西(N-44°-E)である。確認面で長さ6.75m、幅1.20m、深さ17cmを測る。断面形は箱形で、覆土は1類である。南西方向に深くなる。南西方向に伸び、SD102にぶつかることになるが、調査区の関係上SD102との切り合い関係は不明である。図示していないが、須恵器の無台杯・甕、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD102 (図版7・15、写真図版14)

35M25/36N1に位置する。長軸方向は北西-南東(N-34°-W)である。確認面で長さ4.50m、幅0.79m、深さ15cmを測る。断面形は半円形で、覆土は1類である。南東方向に深くなる。南西方向でSD103と合流する。SD102・SD103は一体をなす遺構である可能性が高い。上述したようにSD101にぶつかることになるが、調査区の関係上両遺構の切り合い関係は分からなかった。図示していないが、須恵器の無台杯・甕、土師器の無台碗・小甕の細片が出土している。

SD103 (図版7・15、写真図版14)

35M25に位置する。長軸方向は北西-南東(N-36°-W)である。確認面で長さ2.55m、幅0.31m、深さ5cmを測る。断面形は半円形で、覆土は1類である。遺物は出土していない。

SD104 (図版7・15、写真図版14)

35M24/35N5に位置する。長軸方向は北西-南東(N-36°-W)である。確認面で長さ4.38m、幅0.68m、深さ7cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。35M24の北東方向でSD105と合流する。遺物は出土していない。

SD105 (図版7・15、写真図版14)

35M24に位置する。長軸方向は北西-南東(N-31°-W)である。確認面で長さ2.93m、幅0.29m、深さ5cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。南西方向へ延びるものと考えられるが、検出できなかった。35M24の北東方向でSD104と合流する。図示していないが、土師器小甕の細片が出土している。

SD106 (図版7・14、写真図版13)

35M21/35N2に位置する。長軸方向は北西-南東(N-30°-W)である。確認面で長さ4.23m、幅0.43m、深さ8cmを測る。断面形は半円形で、覆土は1類である。南西方向へ深くなる。SK107が切るが前述したように一体をなす遺構である可能性が高い。遺物は出土していない。

SD108 (図版7・15、写真図版14)

34M24/34N4に位置する。長軸方向は北西-南東(N-36°-W)である。確認面で長さ4.62m、幅1.37m、深さ26cmを測る。断面形は皿形で、覆土は2類である。南東方向に深くなる。図示していないが、土師器の無台碗・小甕の細片が出土している。

SD112 (図版7、写真図版14)

34M21・22に位置する。長軸方向は北-南(N-13°-W)である。確認面で長さ1.16m、幅0.53m、深さ3cmを測る。断面形は皿形で、覆土は4類である。遺物は出土していない。

3) 性格不明遺構(SX)

SX86 (図版7・14、写真図版15)

38M25/38N5に位置する。調査区外へ広がっているため定かでないが、平面形は不整形を呈し、覆土は1類である。確認できた範囲では北東-南西(N-40°-E)方向に主軸を持つ。確認面で長径3.94m、短径2.90m、深さ14cmを測る。長軸方向に沿うように細い溝状の窪みがある。土師器小甕(37・38)のほか、図示していないが、須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片、礫が出土している。

C 3 区 の 遺 構

37O21から東側が第15次調査地で、西側が第17次調査地である。第8次調査B-4区と隣接し、複数の遺構の連続関係が確認された。包含層上部より上層は水田造成のため改変されていた。SD1から東方向は湧水が激しく壁面が崩落するため簡易鋼矢板を使用した。V層上面がヘドロ状にぬかるんでいたため、ほとんど調査できなかった。東から北に向って、土坑の報告をし、続いて溝の報告をする。

1) 土 坑 (SK)

SK18 (図版8・16、写真図版15) 第15次調査

39P4に位置する。確認面で長径0.72m、短径0.78m、深さ15cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は箱形を呈する。覆土は4類である。SD5の底面で確認されたことから、SD5より古い遺構である。土師器の小甕(39・40)・長甕(41)が出土している。

SK17 (図版8・16、写真図版15) 第15次調査

39P2・3に位置する。SD5を切るSK16をさらに切ることから、一番新しい遺構である。確認面で長径1.61m、深さ59cmを測る。断面形は半円形を呈し、覆土は3類である。SD5を掘り下げ、排水路を設定し、湧水を除去して初めて土層断面上で確認できた遺構で平面形状は確認できなかった。遺物は全てSD5として取り上げた。

SK16 (図版8・16、写真図版15) 第15次調査

39P2に位置する。SD5を切り、SK17に切られる。認確面で長径1.38m、深さ43cmを測る。断面形は半円形を呈し、覆土は3類である。検出状況や遺物の出土状況については上述SK17のとおりである。平面形状は確認できなかった。遺物は全てSD5として取り上げた。

2) 溝 (SD)

SD1 (図版8・15、写真図版15) 第15次調査

40P1に位置する。長軸方向は北西-南東(N-33°-W)である。確認面で長さ1.50m、幅0.54m、深さ16cmを測る。断面形は半円形で、覆土は2類である。南東方向に深くなる。図示していないが、土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SD5 (図版8・16、写真図版15) 第15次調査

39P3・4に位置する。SK16・SK17に一部切られる。長軸方向は北西-南東(N-10°-W)である。確認面で長さ1.16m、幅5.74m、深さ57cmを測る。断面形は皿形で覆土は2類である。須恵器の杯蓋(42・43)・有台杯(44・45)・無台杯(46~52)・長頸壺(53・54)・壺類(55)・甕(56)、土師器の無台碗(58~61)・小甕(57)・鍋(63)、黒色土器無台碗(62)が出土している。遺物の出土量は今回報告する遺構の中では最も多い。SK16やSK17の遺物も含まれる可能性も高いが、一番大きい遺構であるSD5として取り上げた。

SD6 (図版8・15、写真図版15) 第15次調査

38P4に位置する。長軸方向は北西-南東(N-15°-W)である。確認面で長さ1.03m、幅1.49m、深さ9cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。須恵器有台杯(64)ほか、図示していないが、須恵器の無台杯・壺類・甕、土師器の無台碗・小甕・長甕の細片が出土している。

SD7 (図版8・15、写真図版15) 第15次調査

38P5/39P1に位置する。長軸方向はほぼ西-東(N-75°-E)である。確認面で長さ1.10m、幅0.44m、深さ9cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。西端でP117に切られる。図示していないが、土師器の無台碗・長甕の細片が出土している。

SD9 (図版8・15、写真図版16) 第15次調査

38P1に位置する。長軸方向は北西-南東(N-20°-W)である。確認面で長さ1.15m、幅2.22m、深さ23cm

を測る。断面形は箱形で、覆土は1類である。須恵器無台杯 (65・66)、土師器の無台椀 (67・68)・小甕 (70)・長甕 (71～73)・鍋 (74)、黒色土器無台椀 (69)のほか、図示していないが、須恵器無台杯の細片が出土している。

SD10 (図版8、写真図版15) 第15次調査

37P5に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-56°-W) である。確認面で長さ1.23m、幅0.30m、深さ7cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。図示していないが、土師器の無台椀・小甕の細片が出土している。

SD11 (図版8、写真図版15) 第15次調査

37P5に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-56°-W) である。確認面で長さ0.64m、幅0.42m、深さ4cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。北西端でP15に切られる。図示していないが、土師器無台椀の細片が出土している。

SD12 (図版8・15、写真図版16) 第15次調査

37P4に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-42°-W) である。確認面で長さ1.10m、幅0.94m、深さ20cmを測る。断面形は半円形で覆土は1類である。土師器小甕 (75・76)のほか、図示していないが、須恵器の杯蓋・有台杯・無台杯・壺・甕、土師器無台椀の細片が出土している。

SD13 (図版8・15、写真図版16) 第15次調査

37P2に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-40°-W) である。確認面で長さ1.27m、幅0.88m、深さ13cmを測る。断面形は皿形で覆土は1類である。図示していないが、須恵器の有台杯・無台杯・甕、土師器の無台椀・小甕・長甕の細片が出土している。

SD114 (図版8、写真図版16) 第15・17次調査

36P5/37P1に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-38°-W) である。確認面で長さ0.91m、幅0.60m、深さ21cmを測る。断面形は皿形で、覆土は1類である。須恵器無台杯 (77)のほか、図示していないが、須恵器の有台杯・無台杯・甕、土師器の無台椀・小甕・長甕の細片が出土している。

SD115 (図版8、写真図版16) 第17次調査

35P3に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-20°-W) である。確認面で長さ0.53m、幅0.81m、深さ10cmを測る。断面形は皿形で、覆土は2類である。遺物は出土していない。

D 4 区 の 遺 構

4区は第13次調査部分と第17次調査部分を合わせた調査区である。1～3区と接続しない、遺構番号で120番台が付されている部分が第13次調査地で、1～3区と接続する部分が第17次調査地である。第13次調査では溝が1条、小穴 (Pit) が4基確認された。第17次調査では土坑が2基、小穴 (Pit) が1基確認された。両調査地にまたがる遺構はなかった。4区の標高は2.3～2.1mと2区で遺構が多く確認された37Mから41M・N列の標高2.7mから40～60cmほど低くなっている。V層上面は渇くことなく湧水で常に滞水状態である。北から南に向って、土坑の報告をし、続いて溝の報告をする。

1) 土 坑 (SK)

SK111 (図版9・16、写真図版17) 第17次調査

31J19に位置する。確認面で長径1.58m、短径0.96m、深さ12cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿形を呈す。覆土は2類である。遺物は出土していない。

SK110 (図版9、写真図版17) 第17次調査

31L4・5に位置する。確認面で長径1.75m、短径1.26m、深さ33cmを測る。平面形は不整形を呈し、断面形は箱形を呈す。覆土は3類である。IVb層を切って掘り込まれている。遺物は出土していない。

2) 溝 (SD)

SD124 (図版9・16、写真図版17) 第13次調査

31M12・17に位置する。長軸方向は北西－南東 (N-48° -W) である。確認面で長さ1.30m、幅0.60m、深さ6cmを測る。断面形は皿形で、覆土は2類である。遺物は出土していない。

第V章 遺 物

遺物量はコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして19箱である。平安時代（9世紀）の須恵器・土師器を主体とし、鍛冶関連遺物・鉄製品・軽石等の石製品が若干認められる。須恵器では食膳具（杯蓋・有台杯・無台杯）と貯蔵具（壺類・甕）が出土した。土師器では食膳具（無台碗・黒色土器無台碗）と煮炊具（長甕・小甕・鍋）が出土した。遺物の出土傾向は、1区～3区までは東南方向で多く出土し、西に向かうほど出土量が減少する。遺構の分布状況も同様であった。4区は遺物量・遺構数ともに少ない。

第1節 土器の分類と記述（第4図）

土器は須恵器と土師器で大別し、次いで器種別に分類した。さらに須恵器無台杯・土師器碗については形態的な特徴から細分類を行った。細分類にあたっては第7次調査報告書〔立木・澤野ほか2003〕で提示された分類案に従った。須恵器は、ほとんどが還元炎焼成であるが、無台杯形態のものに酸化炎焼成のものが出土している。このことについては寺道上遺跡〔渡邊2001〕の所見に従い、形態を重視し、須恵器無台杯として扱った。須恵器の貯蔵具・土師器の煮炊具については、全体の器形が分かるものはほとんど無く、分類しなかった。

土器の成形・調整技法の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕の所見を参考に以下のとおりとした。

1. 「ロクロナデ」－ロクロ・回転台使用、「ナデ」－ロクロ・回転台未使用。
2. 「ロクロケズリ」－ロクロ・回転台使用、「ケズリ」－ロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」－ロクロ・回転台使用、「ハケメ」－ロクロ・回転台未使用。
4. 「ロクロミガキ」－ロクロ・回転台使用、「ミガキ」－ロクロ・回転台未使用。
5. 「タタキメ」－外面、「あて具」－内面。
6. 底部切り離し技法の「ヘラ切り」「糸切り」はロクロの回転を利用したものである。「回転ヘラ切り」と称すべきであるが、「回転」は省略した。

須恵器の胎土については沖ノ羽遺跡〔春日2003〕の成果を参考に、以下のとおり分類した。

A群：素地は粘土質が強く、石英・長石粒を定量含む。石英・長石粒の大きさは1mm前後のものが多いが、大きいものでは7mm前後のものも混入していることもある。触感としては軟質な感じを受ける。生産地としては新津丘陵窯跡群の可能性が高い。なお、酸化炎焼成須恵器の胎土はこの群である。

B群：素地は砂質が強い。白色粒子を多量に含むが長石・石英などの混入物は少なく精良な胎土である。黒色で1mm程度の付着物が斑点状に付着しているものも見られる。生産地は佐渡小泊窯跡群の可能性が高い。

C群：素地は粘土質が強い。石英・長石粒を多く含み、粒径も5～10mm前後と大きなものが見られる。器面はざらついているが、硬質な焼き上がりである。生産地は笹神丘陵などを中心とした阿賀北地域である可能性が高い。

A 分 類

須 恵 器（第4図）

食膳具と貯蔵具とがある。食膳具には杯蓋・有台杯・無台杯があり、貯蔵具には長頸壺ほか壺類・甕がある。

杯 蓋 有台杯に付く蓋。個体数が少なく分類していない。特徴として次の①～③が認められる。①鈕は擬宝珠状のもの（82）とボタン状（中央部が突起）のもの（1）とがある。②口縁端部がほぼ垂直に垂下するもの（2・

82) と、内屈するもの (42・43) とがある。③口径は14cm台と15cm台とがある。

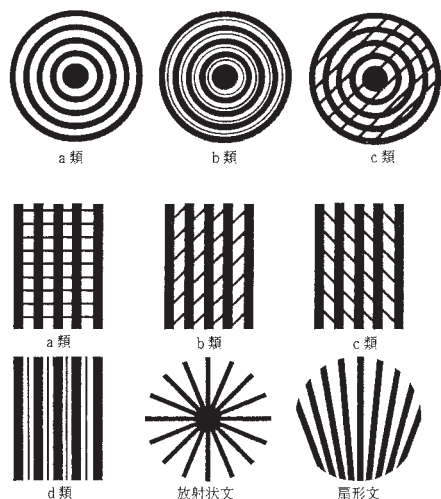
有台杯 個体数が少なく分類していない。高台は全て外端接地である。特徴として次の①～③が認められる。
 ①高台部では足が短く器壁が厚いもの (45) と、これに比べ足が高く器壁が薄いもの (3・28) とがある。②杯部の器壁の厚さは、厚いもの (3) と、これに比べ薄いもの (45) とがあり、器壁の厚いものには足が高く器壁が薄い高台が付き、器壁の薄いものには足が短く器壁の厚い高台が付くようである。③復元できた個体を見ると、口径12cm台のものは底径 (高台端部) 7cm台・口径14cm台のものは底径 (高台端部) 8cm台であり、底径7cm台のものには口径12cm台の杯部が、底径8cm台のものには口径14cm台の杯部が付くと仮定すると、出土した有台杯の法量は2種である可能性が高い。

無台杯 口縁部の形態 (A～C類) と、口径 (1・2類) の組み合わせで分類した。口縁部形態では、体部が内彎気味に開くものをA類、体部が直線的に開くものをB類、体部が内彎気味に開き口縁端部で短く外反するものをC類とした。口径は、1類が11～12.5cm、2類が12.6cm以上のものである。

長頸壺 断片資料が多く分類していない。54は長頸壺と推測しているに過ぎない。94と53の頸部の大きさの違いを見ると法量的には2種存在するようである。

壺類 器種は不明であるが、甕ではないことから壺とした。体部外面下部にヘラ状工具によるケズリが施される。

甕 断片資料が多く分類していない。特徴としては、口径22cm台 (96)・27cm台 (24)・27cm以上 (95) の3種認められ、95は外面に波状文が施されている。



名称	分類基準	略号
同心円文 a 類	木目のみられないもの	D a
同心円文 b 類	年輪状の木目のみられるもの	D b
同心円文 c 類	柾目状の木目のみられるもの	D c
平行線文 a 類	木目が彫り込みに対し直交するもの	H a
平行線文 b 類	木目が右上がりに斜交するもの	H b
平行線文 c 類	木目が左上がりに斜交するもの	H c
平行線文 d 類	木目が平行するもの	H d

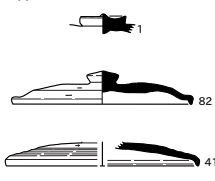
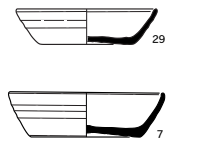
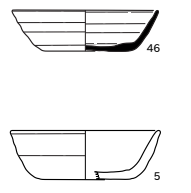
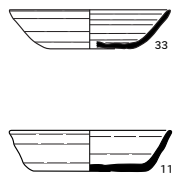

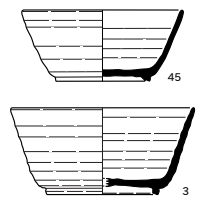
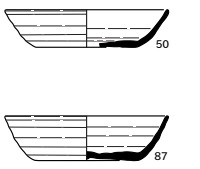
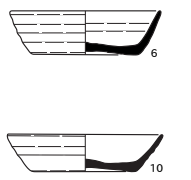
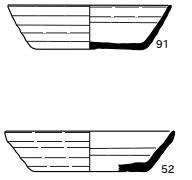
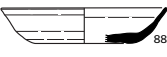
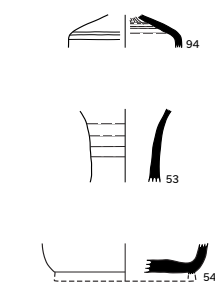
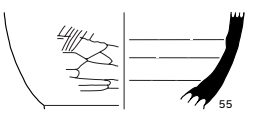
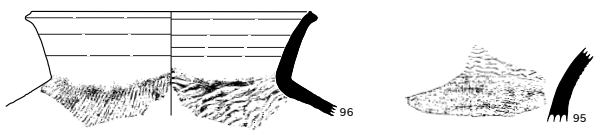
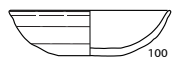
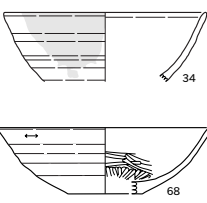
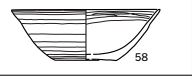
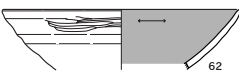
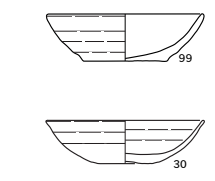
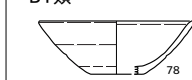
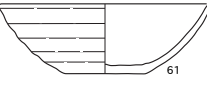
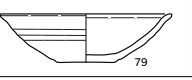
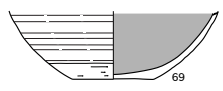
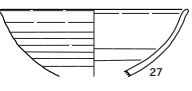
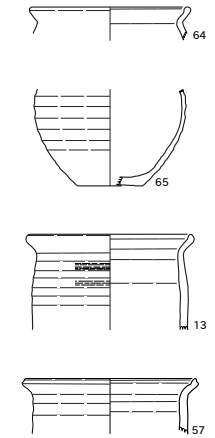
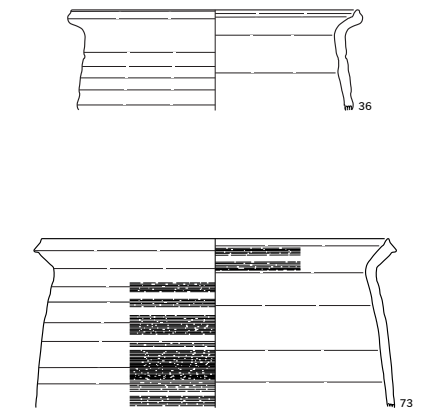
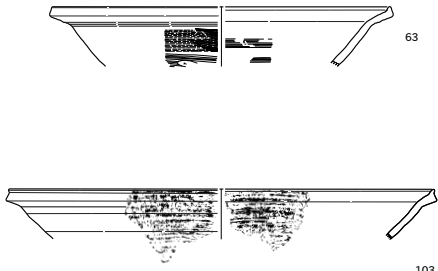
第3図 タタキメ・あて具痕の細分類図 (柿田2001をもとに再トレース)

土 師 器 (第4図)

食膳具と煮炊具がある。食膳具には無台碗があり、煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。黒色土器は無台碗がある。

無台碗 口縁部の形態 (A～C類) と、口径 (1・2類) の組み合わせで分類した。口縁部形態では、体部が内彎気味に開くものをA類、体部が直線的に開くものをB類、体部が内彎気味に開き口縁端部で短く外反するものをC類とした。口径は、1類が11～12.5cm、2類が12.6～14cm、3類が14.1cm以上である。底部切り離し技法は糸切り後無調整である。

黒色土器無台碗 主に内面を黒化処理した「内黒」の土器である。底部外面は糸切り後ケズリを施し糸切り痕を消す。外面は体部下半にロクロケズリを施し、口縁部付近にミガキを施す。内面は全面にミガキが施される。断片資料しかないため細分類はしていない。確認できた資料で見ると、体部から口縁部にかけて内彎気味に開く

須恵器				
<p>杯蓋</p> 	<p>無台杯 A1類</p> 	<p>B1類</p> 	<p>B2類</p> 	<p>C1類</p> 
<p>有台杯</p> 	<p>A2類</p> 	<p>B1類</p> 	<p>B2類</p> 	<p>C2類</p> 
<p>長頸壺</p> 	<p>壺</p> 	<p>甕</p> 		
		土師器		黒色土器
	<p>A2類</p> 	<p>A3類</p> 	<p>C1類</p> 	
<p>土師器無台椀 A1類</p> 	<p>B1類</p> 	<p>B1類</p> 	<p>C2類</p> 	
			<p>C3類</p> 	
<p>小甕</p> 	<p>長甕</p> 		<p>銅 (S=1/8)</p> 	

第4図 結七島遺跡出土土器分類図 (S=1/6)

もの(69)と直線的に開くもの(62)とがある。

長 甕 断片資料しかないため分類していない。特徴としては、口縁部は外反し、口縁端部を上方に摘み出すものが多い。

小 甕 断片資料しかないため分類していない。特徴としては、口縁部については、①外反し口縁端部を上方に短く摘み出すもの(37・57)と、②外反し口縁端部を丸く収めるもの(39)とがある。体部の形態については、①あまり膨らまず直線的に伸びるもの(13・57)と、②体部中位よりやや上方に最大径を持つ球胴状に膨らむ体部を持つもの(40)とがある。39と40は接合しないが、胎土や作りが非常に似ており、同一固体の可能性が高い。このことからすると、口縁の②は体部の②に付く可能性がある。

鍋 断片資料しかないため分類していない。特徴としては、口縁部はゆるく外反し、口縁端部を外側と上方に摘み出すものがある。

B 出土土器等各説

1) 1区遺構出土土器

SD21 (図版17、写真図版18・19)

須恵器の杯蓋(1・2)・有台杯(3・4)・無台杯(5~11)・甕(12)、土師器の小甕(13~16)・長甕(17)・鍋(18)が出土している。須恵器杯蓋(1・2)の胎土はA群で、2は天井部外面にロクロケズリが施される。有台杯(3・4)の胎土はB群で、高台は端部に浅い凹線状の窪みが巡り、外端接地である。また高台の位置は底部外縁からやや内側に貼り付けられる。無台杯のうち5は酸化炎焼成須恵器で胎土A群、B1類。11は胎土C群、B2類。その他は胎土B群である。6はB1類、7はA1類、8はB2類、10はB1類である。9は体部外面最下部にロクロケズリを施す。甕は胎土A群である。5以外の須恵器は還元炎焼成の須恵器である。

土師器小甕13は口縁部の内外面にススが付着する。15は口縁部外面に炭化物が付着する。14・16には炭化物の付着は見られない。小甕の口縁部は口縁端部を上方に短く摘み出すものと(13~15)、16のように摘まずに面を作るものがある。長甕17の口縁部は「く」の字状に外反し口縁端部を上方に短く摘み出す。内外面にハケを施す。焼成は不良で、軟質である。炭化物の付着は見られない。鍋18は、口縁部はやや内彎気味に外反する。口縁部細片からの復元であるが、口径は24.3cmと鍋にしては小さい。

SD22 (図版17、写真図版19・22)

須恵器無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕が出土している。須恵器無台杯(19)のみ図化した。19は胎土B群で、底部外面に墨書される。文字の残存部が少ないので判読できない。

SD45 (図版17、写真図版19)

須恵器無台杯、土師器無台碗が出土している。須恵器無台杯(20)のみ図化した。20は酸化炎焼成で胎土はA群である。

SD47 (図版17、写真図版19)

須恵器無台杯・土師器無台碗・黒色土器無台碗が出土している。土師器無台碗(21)のみ図化した。21は胎土に海面骨針が入る。

P40 (図版17、写真図版19)

須恵器杯蓋(22)が1点出土している。胎土はB群である。天井部外面にロクロケズリが施される。また縁部外面端に降灰痕が環状に巡る。

2) 2区遺構出土土器

SK89・90 (図版18、写真図版19)

須恵器の有台杯・無台杯、土師器の無台碗・長甕が出土している。須恵器有台杯(23)のみ図化した。23の胎土はB群である。高台がやや内屈気味に付き外端接地する。

SK95 (図版18、写真図版19)

須恵器の無台杯・甕が出土している。須恵器甕(24)のみ図化した。24の胎土はA群である。

SD78 (図版18、写真図版19)

須恵器の無台杯(25)、土師器の無台椀(26・27)・長甕が出土している。須恵器無台杯25の胎土はA群。土師器の無台椀27はC3類。

SD80 (図版18、写真図版19)

須恵器の有台杯(28)・無台杯(29)、土師器の無台椀(30)・小甕(31・32)・長甕が出土している。

須恵器有台杯28は胎土B群。高台が底部の外側に付き、杯部と高台部の屈曲がほとんど見られない。底部には高台を付けた時のナデ調整が明瞭である。無台杯29は胎土B群、A1類である。

土師器無台椀30はA1類。径2～3mmの長石粒がやや多く入る。小甕31の底部は糸切りであるが、磨耗して良く見えない。32の胎土には海面骨針が見られる。底部切離し技法は磨耗して見えない。

SD93 (図版18、写真図版19)

須恵器の無台杯(33)、土師器の無台椀(34・35)・小甕・長甕(36)・鍋、黒色土器無台椀、礫が出土している。

須恵器無台杯33は胎土B群、B2類。

土師器無台椀34は外面に赤彩を施している。内外面とも磨耗が著しいが内面は精良な作りである。A3類である。35の底部は糸切りによる切離し後無調整である。34・35は胎土が良く似ており、同一品の可能性もある。長甕36は口縁端部を上方に短く摘み出す。摘んだ部分の内面には口縁部との境に明瞭な屈曲が出来ている。

SX86 (図版18、写真図版19)

須恵器無台杯、土師器の無台椀・長甕・小甕(37・38)が出土している。土師器小甕37は口縁部内外面、特に内面に炭化物が付着している。薄く良く焼き締まっている。38の胎土には海面骨針が含まれる。磨耗著しい。

3) 3区遺構出土土器

SK18 (図版18、写真図版18・20)

土師器の小甕(39・40)・長甕(41)が出土している。土師器小甕39・40は胎土や焼き上がりの感じが良く似ており、同一品と推測する。底部は糸切りである。内外面とも被熱を受け表面が剥離しているが、外面に炭化物の付着が見られる。41はSD5出土長甕破片と一部接合する。外面はカキメとタタキの跡が、内面にはカキメと当て具痕が残る。須恵器技法で作られたことが良く観察できる。内外面共にススの付着は見えない。

SD5 (図版19、写真図版20・22)

須恵器の杯蓋(42・43)・有台杯(44・45)・無台杯(46～52)・長頸壺(53・54)・壺類(55)・甕(56)、土師器の無台椀(58～61)・小甕(57)・鍋(63)、黒色土器無台椀(62)が出土している。

須恵器杯蓋42・43は共に胎土B群で縁部が内屈する。42は外面に2文字分の墨書が見られるが、残存部少なく判読できない。また42の外面天井部にロクロケズリが施される。有台杯44・45は共に胎土B群で口径は共に12.5cm前後である。45は44に比べ体部の開きが大きく、太く短い外端接地の高台が底部外縁に付く。この高台の端部には凹線状の窪みが巡っている。無台杯のうち49・51は胎土A群で、その他の胎土はB群である。形態は、46はB1類・47はA1類・48はA2類である。42は底部外面に墨書が見られるが、残存部が少なく判読できない。49はC2類・50はA2類・51はB2類・52はB2類である。長頸壺53・54は共に胎土A群である。54は底部であるが、別の器種である可能性もある。底部が平坦であることと体部があまり膨らまず立ち上がること、高台が付いていた痕跡が認められることから長頸壺と判断した。壺類55は球胴状に体部が膨らむことから短頸壺の可能性が高い。胎土はA群である。甕56は頸部付近の破片である。胎土はB群である。

土師器無台椀58はA1類で、内外面共に回転台を使用し、細い工具による丁寧なケズリを施す。手持ちミガキの場合、体部内面の口縁部以下は縦方向のミガキ痕が残るが、この土器は内外面共に全面に横方向のケズリ痕が残る、また底部外面も同心円のケズリ痕が残る。胎土も精良で他の無台椀とは全く違う様相を呈す。底部外面

に墨痕もしくは炭痕と思われる痕跡が見えるが、これが文字の一部であるとする黒化処理を意図していない精良な土器として認識でき、またこの墨痕（炭痕）が黒化処理の何らかの痕跡であるとするれば、全面黒化処理を意図した土器と認識できる。全面黒化処理を施した土師器無台碗は胎内市の蔵ノ坪遺跡で出土例があるが、器形が大分異なる。結七島遺跡第7次調査では全面黒化処理された蓋が出土しており、このような蓋に伴う無台碗と考えられる。59はA2類、60・61はA3類である。鍋63は体部の内外面に明瞭なカキメが残る。炭化物等の付着物は見られない。

黒色土器無台碗62の体部内面上半は横方向、下半は縦方向のミガキが施される。口縁部外面は横方向のミガキが施され、体部下半はロクロケズリと思われる痕跡がわずかであるが観察できる。

SD6（図版20、写真図版20）

須恵器の有台杯（64）・無台杯、土師器の無台碗・小甕・長甕が出土している。須恵器有台杯64の胎土はB群である。

SD9（図版20、写真図版18・20・22）

須恵器の有台杯・無台杯（65・66）・甕、土師器の無台碗（67・68）・小甕（70）・長甕（71～73）・鍋（74）、黒色土器無台碗（69）が出土している。須恵器有台杯65・66の胎土は共にB群である。65は体部は直線的に開くが、口縁部が緩やかに外反しているのでC1類とした。66は底部外面に墨書されるが文字は判読できなかった。

土師器無台碗67の底部切り離し技法は糸切りである。胎土は68と比較すると長石などの混入物が多く粗雑な感じである。68の胎土は精良で内面全面と口縁部外面にミガキが施される。内面のミガキは、体部下半は縦方向の、口縁部付近は横方向のミガキを施す。口縁部外面は横方向のミガキを施し体部下半にロクロケズリが施される。底部は遺存状況が良くないが、外面はナデかミガキが施されているようで、切り離し痕は残っていない。調整方法からは黒色土器と同様の方法が観察される。

小甕70は内外面とも焼成時ではない被熱の痕跡が見られる。底部外面は摩耗が著しいが糸切り痕が見られる。長甕71の口縁端部は上方に短く摘み出されている。また内外面に炭化物が付着している。72の口縁部も上方に短く摘み出される。摩耗が著しく付着物の痕跡は見られない。73は体部外面のカキメが明瞭で、内面は頸部から口縁部にかけてカキメが施されるが、頸部のカキメは体部のロクロナデにより消される部分があり、成形にあたっての最終調整はロクロナデであることが分かる。胎土中に海綿骨針が微量ながら含まれる。体部外面に炭化物の付着が見られる。鍋74は体部内面はロクロナデ、外面はカキメが施される。外面の下半には炭化物の付着が見られる。

黒色土器無台碗69は底部外面と体部外面下半にロクロケズリが施される。胎土は68同様に精良である。

SD12（図版20、写真図版20）

須恵器の杯蓋・有台杯・無台杯、土師器の無台碗・小甕（75・76）・長甕が出土している。土師器小甕75の底部外面に糸切り痕が見られる。76の口縁部端部は上方に短く摘み出されている。

SD114（図版20、写真図版18・20）

須恵器無台杯（77）・土師器長甕が出土している。須恵器無台杯77の胎土はB群でA1類である。

4) 第13次調査地（4区）包含層出土土器（図版20、写真図版18・20）

須恵器の無台杯・甕（80・81）、土師器の無台碗（78・79）・長甕が出土している。土師器無台碗78はB1類。体部外面下半と口縁部の内外面にススの付着が見られる。79は内彎気味にやや大きく開く体部に短く外側へ摘み出された口縁部が付く。底部外面に糸切り痕が見られる。C2類である。78・79共に、胎土は長石等の混入物が多く粗雑な感じである。須恵器甕80の胎土はC群で外面のタタキは格子目で内面の当て具痕は平行目である。81の胎土はA群で外面のタタキはHa、内面の当て具はDaとHaが使用される。

5) 包含層出土土器 (図版21、写真図版21・22)

a) 須 恵 器

杯蓋 (82・83)・有台杯 (84～86)・無台杯 (87～92)・壺類 (93)・長頸壺 (94)・甕 (95・96) が出土している。杯蓋82は胎土A群で擬宝珠状の鈕が付き縁部は真直ぐ垂下する。天井部にはロクロケズリが施される。内面に墨痕があり、器面も滑らかなことから硯として転用されていることが分かる。83は胎土C群で、82同様硯として転用されている。有台杯84は胎土B群で高台は85・86に比して細く長い。底部のやや内側に付き外端設置である。体部外面高台付近はロクロケズリが施される。85・86は胎土B群で高台は84に比して太く短い。底部外縁に付き外端接地である。86の底部外面には墨書があり「下」と推測される。無台杯89の胎土はC群で他はすべてB群である。87はA2類・88はC2類・91はB2類・92はB1類である。90の底部外面に墨書が見られる。残存部少なく判読できない。壺類93は底部内面にハケメが見えることから広口壺や直口壺の可能性がある。胎土はA群である。94は長頸壺と推測される。胎土はA群で肩部の屈曲部外面にはロクロケズリが施される。また頸部付近の内面にはしぼり痕が見られる。甕95は口縁部で胎土はA群である。上半部に波状文が施されている。96の胎土はB群、頸部外面の下部にカキメが見られる。体部外面のタタキはHa、内面あて具はDbである。

b) 土 師 器

無台碗 (97～100)・小甕 (101)・長甕 (102)・鍋 (103) が出土している。無台碗の底部切り離し技法は全て糸切りである。97は底径7cmと大きい。SD5出土の61に類する碗と考えられる。98はSD80出土の30と胎土・焼き上がり具合が良く似ている。99はA1類・100はA2類である。101は小甕の底部である。102は長甕で口縁端部を上方に短く摘み出す。体部外面はカキメが明瞭である。103は鍋で口縁端部を上方に短く摘み出す。体部外面はカキメが明瞭である。体部外面に炭化物の付着が見られる。

6) 土 器 以 外

主に遺構から出土したもので、遺存状態が良好なものについて図化した。ファイゴの羽口 (104)・軽石 (105～107)・石製品 (108)・鉄製品 (109・110) がある。104はSD21からの出土でファイゴの羽口と考えられる。指頭圧痕やハケメが外面にみられる。105～107は軽石でいずれも用途は不明である。105はSD22出土で、106はSK89、107は包含層出土である。軽石は漁具に使用されている例もあることから報告することとした。108はSD5から出土しており、先端が摩耗していることから敲石の可能性もある。また漁具の石垂にも似ている。109・110はSK98からの出土で釘と考えられる。能代川の対岸にある沖ノ羽遺跡では、新潟県教育委員会が平成3・4年に実施した磐越自動車道の建設に先立つC地区の発掘調査で、上層で発見された遺構8上SK3から釘が3点出土している。沖ノ羽遺跡上層の遺構の時代は大半が中世と推測される〔春日2003〕。

第VI章 総 括

第1節 遺 構

遺構は溝（SD）が最も多く、土坑（SK）がこれに続く。このことは第4・7・8次調査地も同様で、結七島遺跡では溝が最も多く検出されている。I章で報告したように調査区は街路建設部分であったので、調査地が4区に分散し、各区の幅が5m前後と狭小であった。このため遺構全体を調査できたものは少ない。推測部分が多いが所見を述べる。

1区SD28・2区SD78 方向・幅・深さ・覆土の様相が似ていることから一体をなす遺構と推測する。3区SD1もこれに連続する可能性があるが、SD78より幅が50cm程度狭いので、SD1は別の溝の一部である可能性もある。

1区SD47・2区SD93・3区SD5 遺構の幅は5.5m前後と広い。覆土はIVb層そのもので、SD47およびSD93は深さも9cm前後と浅いが、SD5は深さ57cmと深いことから、SD5部分は意図的に深く掘り下げたものとする。第18次調査の際にSD47を機械で掘削し掘り下げたところ、V層堆積以前は小河川であったことが確認できた。V層堆積時に埋没河川部分が落ち込んで窪地状になった地形を利用しているものと考えられる。SD5のみ深いことから南東方向に深くなっていく溝と考えられる。

1区では、SD45・SD72がSD47の東側に位置しSD47を切るが、ここで止まっていることから、同時期に利用されていた遺構群と推測する。SD48はSD47の西側に位置するが、自然地形の可能性も考えられる。

3区SD5底面にはSK18があり、何らかの施設の痕跡である可能性も考えられるが、調査範囲狭小のため詳細はつかめなかった。8次調査B-4区に続きが見られないが、SD5埋没後掘られたSK339により壊されたため検出できなかったものと考えられる。SD5は埋没後SK16・SK17が掘られており、これらはSK339と一体をなすものと考えられる。SK16・SK17ともに覆土のタイプは3類であることから埋められた遺構であると考えられる。SD5・SK16・SK17・SK18は、築造の前後関係はあるものの、出土遺物の年代観から平安時代に収まる遺構と考える。

1区SD59・SD61・SD62 深さ7cm前後と浅く底面は凹凸に富み、底面標高の高低差がほとんどない。平成2～4年に磐越自動車道建設に伴い調査された沖ノ羽遺跡の中世と考えられるSD4およびSD11は、浅く幅広く底面に凹凸があり、これらの遺構は低地で耕作される作物と関連する遺構と考えられている〔春日2003〕。SD59・SD61・SD62も沖ノ羽遺跡と同様の特徴が見られることから、耕作に係る遺構である可能性がある。ただし出土遺物から所属時代は平安時代と考えられる。

1区SD73・2区SD108・3区SD115・第8次調査B-4区SD326 方向・幅・深さ・覆土の様相が似ていることから一体をなす遺構と考えられる。この溝以西はほとんど遺構が認められないことから、この溝は区画をも意図していると考えられる。距離も長く20cmほどの深さもあることから、通水していたものと推測する。

2区SD102・SD13・3区SD13・第8次調査B-4区SD328（SD329） 方向・幅・深さ・覆土の様相が似ていることから一体をなす遺構と考えられる。SD328からSD329方向へほぼ直角に屈曲している。SD328とSD327間の壁面土層断面には畦畔が確認され、これらの溝は大畦畔の畦側溝と推定されている。壁面で確認された畦畔の土からは稲の珪酸体が高濃度で検出されており、周辺で稲作が行われていたものと考えられている〔田中ほか2004〕。2区36N1～37N1には多くの遺構が確認され、SD104以西は遺構が少ないことから、2区ではSD104とSD108の間が、3区ではSD114とSD115の間が、第8次調査B-4区ではSD327とSD326の間が耕地であ

ったと推測する。

2区SD88・SK89・SK90・SD92 覆土の様相が似ていることから、一体をなす遺構群と推測する。溝を通じて土坑に水を溜める施設と考えられる。IVa層が堆積した後に掘り込まれていることから、覆土にはIVa層のブロックが多く混ざる。遺物は須恵器有台杯(23)ほか土器細片が出土しているが、埋める時に混入した可能性も高いと考えられる。遺構の所属時代は平安時代もしくは、下っても中世までの遺構と推測する。主軸方向は異なるが2区SD97・SK98も同様の時期と性格であると考えられる。

今次調査で検出した遺構は2つの時期があるものと考えられる。1つ目は土器の年代観から9世紀、平安時代前期であり、2つ目は平安時代前期以降である。今次調査では平安時代前期以外の土器が出土していないため下限を設定する根拠は乏しいが、第8次時調査F-1区SD193から珠洲焼壺の一部が出土していることから、下限は中世であると考えられる。遺構の覆土3類は平安時代の包含層であるIVa層の堆積後に掘削されている様子が観察できる。このことから覆土3類は平安時代前期以降の遺構も含まれると考えられる。覆土3類の遺構数は少ない。このことから、平安時代前期がこの遺跡の最も活発な時期であったと考えられる。

今回の調査では住居遺構は確認できなかったが、遺物がまとまって出土する遺構もあることから、今次調査地は集落に近い生産域にあたるものと考えられる。

第2節 出土土器の編年的位置づけ

遺構出土の土器は1区SD21、2区SD80・SD93、3区SD5・SD9から比較的まとまって出土している。このうち、SD21とSD5出土遺物は各器種ともに量的なまとまりを持つ。以下この2遺構出土土器の対比から編年的な位置づけを試み、得られた所見から他の遺構の編年的位置づけを考察することとする。なお編年軸は春日氏の案に〔春日1999〕に基づいた。

A SD21・SD5出土須恵器の胎土

破片資料も含めて器種別に胎土分類を行い、重量比で比較してみる。結果は第2表のとおりである。なお細片で判断のつかないものは除外した。

1) 杯蓋 SD21ではA群のみ51.9g、SD5ではA群8.9g・B群24.9gである。SD5ではA群よりB群の量が多い。どちらの遺構からもC群は認められなかった。

2) 有台杯 SD21・SD5共にB群のみ確認でき、SD21は300.7g、SD5は133.0gである。杯蓋は主に有台杯に伴うものであると考えられるので、SD21ではA群杯蓋に伴うA群有台杯・B群有台杯に伴うB群杯蓋も存在する可能性がある。SD5も同様にA群杯蓋に伴うA群有台杯も存在する可能性がある。

3) 無台杯 SD21はA群127.3g・B群558.9g・C群90.8gであった。SD5はA群42.1g・B群430.0g・C群0.0gである。比率でみるとSD21はA群：B群：C群＝16：72：12で、SD5は9：91：0となった。SD5はSD21と比較すると、A・C群が少なく、B群が多い。

4) 壺など 全体が分かるものが少なく、壺類として一括した。SD5で253.1gであった。胎土はA群のみである。

遺構名	器種	杯蓋			有台杯			無台杯			壺など			甕		
	胎土	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
SD21		51.9	0.0	0.0	0.0	300.7	0.0	127.3	558.9	90.8	0.0	0.0	0.0	260.7	25.4	71.6
SD5		8.9	24.9	0.0	0.0	133.0	0.0	42.1	430.0	0.0	253.1	0.0	0.0	109.7	113.2	173.6
SD80		0.0	0.0	0.0	0.0	40.1	0.0	2.1	94.9	0.0	0.0	0.0	0.0	10.2	0.0	0.0
SD93		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	58.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
SD9		0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	171.0	0.0	0.0	0.0	0.0	59.6	0.0	0.0

第2表 SD21・SD5出土須恵器 器種別胎土別重量計測表 (g)

5) 甕 SD21はA群260.7g・B群25.4g・C群71.6gであった。SD5はA群109.7g・B群113.2g・C群173.6gであった。

器種別重量を概観するとどちらの遺構も無台杯の重量が最も多く、1個体あたりの重量が他の器種に比べ軽いことから考えると、個体数も多かったものと考えられる。それは生活道具としてこの器種の必要度が高かったからであろうと推測される。従って無台杯の胎土傾向が遺構の特徴をあらわしていると推測する。

B SD21・SD5出土土器の器種等各構成比率（第5図）

SD21からは、須恵器では杯蓋・有台杯・無台杯・壺類・甕が出土しており、土師器では無台碗・小甕・長甕・鍋が出土している。SD5からは、須恵器では杯蓋・有台杯・無台杯・壺類・甕が出土しており、土師器では無台碗・小甕・長甕・鍋が出土している。また黒色土器無台碗が出土している。そこでその各々の割合について見てみることにする。個体の抽出に当たっては口縁部計測法〔宇野1992〕に基づいた。黒色土器は土師器の中に含めていない。別表5に主要遺構の器種構成率を示し、遺物量が比較的多い1区SD21、3区SD5・SD9については第5図に示した。なお、口縁部計測法では口縁部が残っていない器種については反映されないため、須恵器貯蔵具は出土しているものの比率表には反映されない。

1) 器種別構成比率

須恵器無台杯を見るとSD21では68.75%を占め、SD5では9.57%を占める。土師器無台碗を見るとSD21では3.85%を占め、SD5では37.24%を占める。SD5はSD21に比して須恵器無台杯の割合が約7分の1になり、土師器無台碗の割合は約10倍になる。また土師器煮炊具もSD21に比して各器種共に割合が高くなり、SD21では出土していない黒色土器無台碗もSD5では一定の割合を持つ。須恵器無台杯と土師器無台碗の量比に遺構の特徴が表れていると考えられる。

またSD21・SD5ともに須恵器貯蔵具は口縁を持たないが出土しているので、須恵器の比率は若干増加するものとする。

2) 全体の種別構成比率

SD21は須恵器：土師器＝79.81：20.19であり、SD5は須恵器：土師器：黒色土器＝24.11：66.32：9.57である。SD5はSD21と比較すると須恵器は約3分の1になり、土師器は約3倍になり、黒色土器が加わる。上述したように須恵器無台杯と土師器無台碗の比率の大きな変化が要因である。

3) 機能別構成比率

SD21では食膳具が83.66%・煮炊具が16.34%であり、SD5では食膳具70.91%・煮炊具29.09%である。どちらの遺構も食膳具が多い。貯蔵具も出土しているが口縁部が無かったため反映されていない。

4) 食膳具の種類別構成比率

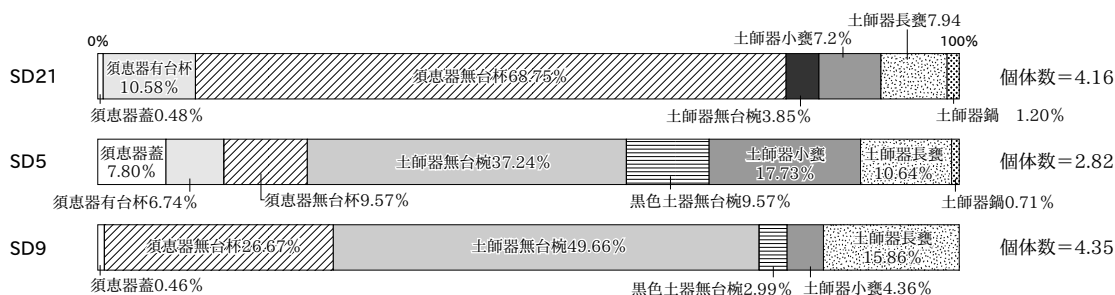
SD21は須恵器が95.39%・土師器が4.61%であり、SD5では須恵器が34.00%・土師器が52.50%・黒色土器13.50%である。SD21・SD5ともに須恵器では無台杯の口縁数が最も多い。土師器は無台碗のみである。黒色土器は無台碗のみでSD5のみに確認できる。SD5はSD21と比較して須恵器が少なく土師器が多い。

C SD21・SD5出土土器の器高指数と底径指数（第6図）

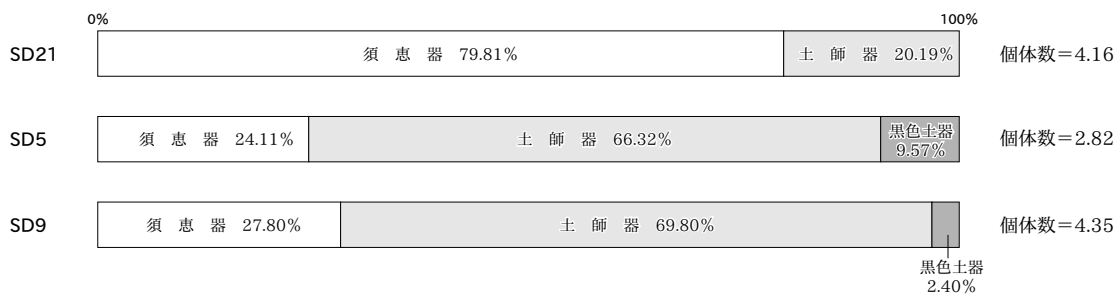
1) 須恵器無台杯

口径については1類と2類の分類基準12.5cmに、器高は2類の最低値に、底径は同じく2類最低値に注目してみた。口径はSD21では1類が2類より多いのに対し、SD5では逆に2類が多くなる。器高は、胎土B群は両遺構間でほとんど変化しないが、胎土A群はSD21よりSD5の方が低くなっている。底径は、胎土B群は両遺構間でほとんど変化はないが、SD5の胎土A群は大小の差が1cm程度と開きがあり、SD21と比較すると1.4～2.6cmほど大きくなる。胎土A群は、SD21とSD5とを比較すると、SD5の方が口径・底径は大きくなり、

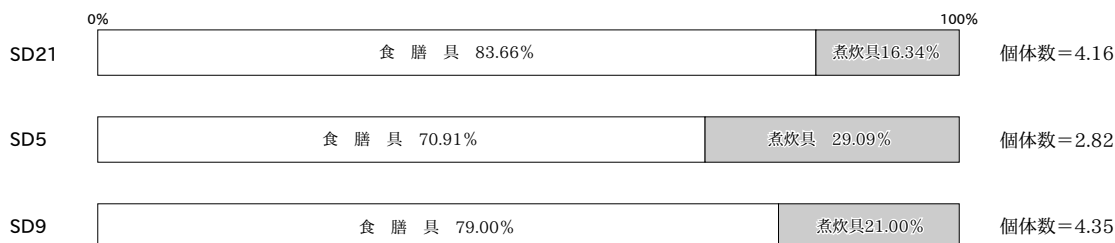
器種別構成比率（口残値）



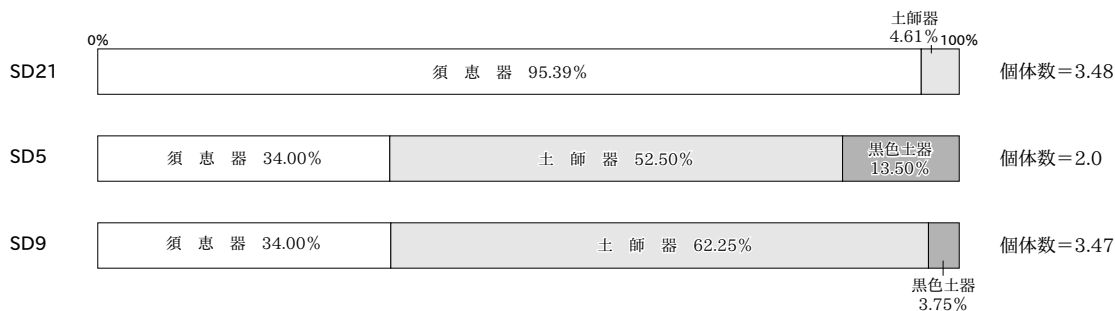
全体の種別構成比率（口残値）



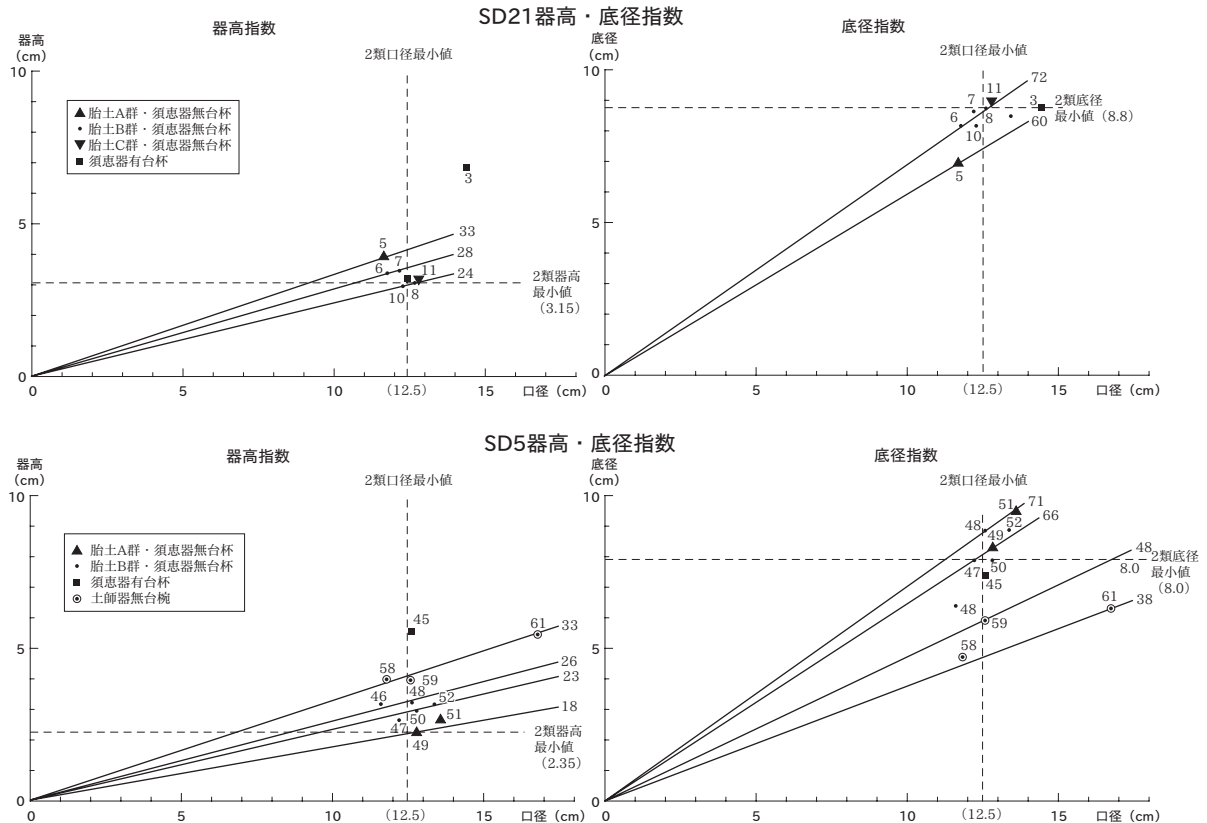
機能別構成比率（口残値）



食膳具の種類別構成比率（口残値）



第5図 主要遺構別器種組成図



第6図 結七島遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図

器高が低くなるのが窺える。ただし、もともと法量の違う（小形品と大形品のような）ものを同列に扱っている可能性も十分考えられることから、このことが直ちに時間関係を示しているとの判断はできない。

形態をみると胎土B群はSD21では体部が直線的に開くB類が多く、SD5ではB類とA類が拮抗し、内彎気味に開く体部を持つA類がやや多い。

器高指数は、胎土A群ではSD21が33、SD5が18前後である。胎土B群ではSD21が24前後と28前後、SD5が23前後と26前後である。

底径指数は、胎土A群ではSD21が60、SD5が66と71である。胎土B群ではSD21が72前後、SD5が66前後と70前後である。

2) 土師器無台椀

SD5のみ確認できる。SD21は口縁部の細片が1点のみであるので、詳細は不明である。

SD5では口径では1～3類の3種の法量が確認でき、器高指数は33前後でまとめ、底径指数では38前後と48の2種認められる。

D SD21・SD5出土土器の編年位置的な位置づけ

両遺構から佐渡小泊産と推定される胎土B群須恵器が出土している。佐渡小泊産須恵器は9世紀以降越後国内に供給され、9世紀後半になると須恵器の大半を占めるまでになることが知られている〔坂井1989・春日1991〕。

またSD21・SD5からは新津丘陵産と推定される胎土A群土器も出土している。SD21では出土土器の大半を占める須恵器中において新津丘陵産が主体的でそこに小泊産が加わる、という状況であるのに対し、SD5では出土土器の大半を占めるのは土師器であり、須恵器は小泊産が主体的で新津丘陵産がわずかに加わる、という状況が見出された。

春日氏は、9世紀代に比定されるV期（V1・V2）・VI期（VI1～VI3）の特徴として、V期では「Ⅲ・Ⅳ期に

見られた食膳具の大半を須恵器が占める状況に変化が見られ、土師器・黒色土器食膳具が定量出土する時期」とし、かつ「佐渡小泊産須恵器が越後国内にも大量流入し、(中略)越後の多くの須恵器窯は衰退し始める時期」と考察された。続くⅥ期は、「在地産須恵器が大幅に減少し、小泊産須恵器と土師器・黒色土器が食膳具の大半を占めるようになる時期」と考察されている〔春日1999〕。この所見から、SD5はSD21より新しい遺構であると考えられる。

1) SD21

SD21出土須恵器無台杯11は阿賀北産と推定される胎土C群である。阿賀北で確認されているⅤ期の須恵器窯はⅤ1期では馬上窯が、Ⅴ2期では狼沢窯が当期の窯と考えられている。無台杯の形態では狼沢窯のものは馬上窯のものに比し、底径が縮小し身が深くなる(器高が高くなる)、という特徴がみられる〔新潟古代土器研究会編2004〕。11は狼沢窯のものより底径も大きく身も浅いことから、馬上窯の時期に類似すると考えられる。

SD21は出土土器の8割が須恵器食膳具で占められており、土師器食膳具の量が少ないこと、須恵器の胎土では新津産須恵器が多く、小泊産須恵器が少量ながら入ること、また阿賀北産無台杯11の形態が馬上窯に類似する事からSD21の主要な時期はⅤ1期と考えられる。歴年代では9世紀第1四半期頃と考えられる。

2) SD5

SD5出土土器は、食膳具の大半が土師器・黒色土器であり、黒色土器は須恵器無台杯とほぼ同じ割合で入っていることから、ある程度安定した組成として加わっているものと考えられる。須恵器の全体量はSD21と比較して大幅に減少する。須恵器食膳具中では小泊産須恵器の占める割合が増加し、新津産須恵器の割合は減少する。小泊産須恵器無台杯の形態はSD21に比し、内彎気味に立ち上がる体部を持つものが若干多く、口径は12.5～13cmのものが若干多い等の特徴は見出せるものの、器高・底径・器壁の厚さなど形態的に大きな変化は見出せない。

佐渡小泊窯跡群の編年は下口沢窯→カメ畑(1～3号)窯→江ノ下窯→高野遺跡という序列で、大木戸窯はカメ畑窯と並行するか〔坂井ほか1991〕、下口沢窯とカメ畑窯の中間に位置付けられると考えられている〔春日1997a・1999〕。各窯の時期は、下口沢窯がⅤ1～Ⅴ2期・カメ畑(1～3号)窯がⅥ1期・江ノ下窯がⅥ2～Ⅵ3期と考えられ〔川村ほか2005〕、高野遺跡はⅦ期と考えられている〔坂井ほか1991・春日1997a, 1999〕。

前述したようにSD21はⅤ1期と考えられることから、小泊産須恵器は下口沢窯段階と捉えることができる。SD5の小泊産無台杯46・48・52はSD21のものに比し、器壁の厚さや底径の大きさ・体部の外傾度に大きな変化は見られない。52は口径13.6cm・器高3.2cmとSD21に比し大振な個体である。47・50は底径がやや小さく体部の外傾度もややあり、器壁も薄いことからSD21より新しい様相も窺える。

次にSD5の土師器無台碗を見てみると、器高指数は33前後で底径指数は38前後と48の2種である。江南区の上郷遺跡の所見では、Ⅴ2期に比定される西区の緒立C遺跡SX440や秋葉区の細池遺跡SX705では、器高指数は25～29であり、底径指数50を超えるものはこの時期に限定できると考察されている〔春日1997c〕。続くⅥ1期に比定される江南区の小丸山遺跡SD2では口径12～13cm前後のもの17～18cm前後の2種の法量が認められるものの、器高指数は25～29前後のもの30～34前後で、底径指数は40前後と45前後のものでまとまる、と考察された。上郷遺跡で考察された内容からみると、SD5出土土師器無台碗の器高指数・底径指数は小丸山遺跡SD2に様相が似ていると考えられる。しかしⅤ2期に比定される秋葉区の寺道上遺跡〔渡邊2001〕からは器高指数・底径指数とも様々なタイプのものが確認されており、単純に器高指数・底径指数で時期を判断できないことが分かってきている。

小泊産須恵器はSD21とあまり変化に見られないものとこれらより新しい様相のものも見られること、土師器無台碗では小丸山遺跡SD2の様相に似ていることから、SD5の主要な時期はⅤ2期～Ⅵ1期と考える。第7次調査地で古段階とされたSD17やSD18とSD5は同時期の遺構と考えられる。食膳具の種類別構成比率で土師器食膳具が優越する面については寺道上遺跡でも検討されており、Ⅴ2期と考えられる遺構で土師器食膳具が優

越する理由として、土師器生産地により近いことを挙げている〔渡邊2001〕。このことは土師器生産地に近い遺跡は必ずそうなる、との意にもなることから、多分に検討の余地が残る課題である。沖ノ羽遺跡C地区でV2期と推測される8下SK36・8下SE205では食膳具の須恵器と土師器の比率は約7：3で須恵器の比率が高い〔春日2003〕。SD5の場合は調査地の幅員が1m弱であったことから、資料不足の可能性が高いので今次調査出土遺物のみで結論を見出すことはできなかった。

E 結七島遺跡の時期

前項でみたとおり、今回の調査では平安時代の中で2時期の遺構が確認できた。1期はSD21を指標としV1期を中心とした時期、2期はSD5を指標としV2～VI1期を中心とした時期である。この2時期は連続しており、歴年代では9世紀第1四半期～第3四半期の年代観が考えられる。SD21・SD5以外の遺構についてもこの時期の中で納まっていると考える。各遺構は遺物量が少ないため十分な検討は加えられないが、SD80のように須恵器の器壁が厚いものは1期、SD9のように須恵器の器壁が薄く・無台杯体部の外傾度が高く（身の開きが大きい）・土師器無台碗が多く出土している遺構は2期の遺構と考えている。

また1区SK55や2区SK89・SK90のような覆土3類のような遺構は、古代の遺物が出土するものの、包含層であるIVa層が堆積した後に作られ、埋められたように観察できる。これらのことから2期と同時期か、あるいは新しい遺構と推測する。前節で触れたとおり、下つても中世と考えられる。

第3節 結七島遺跡の性格

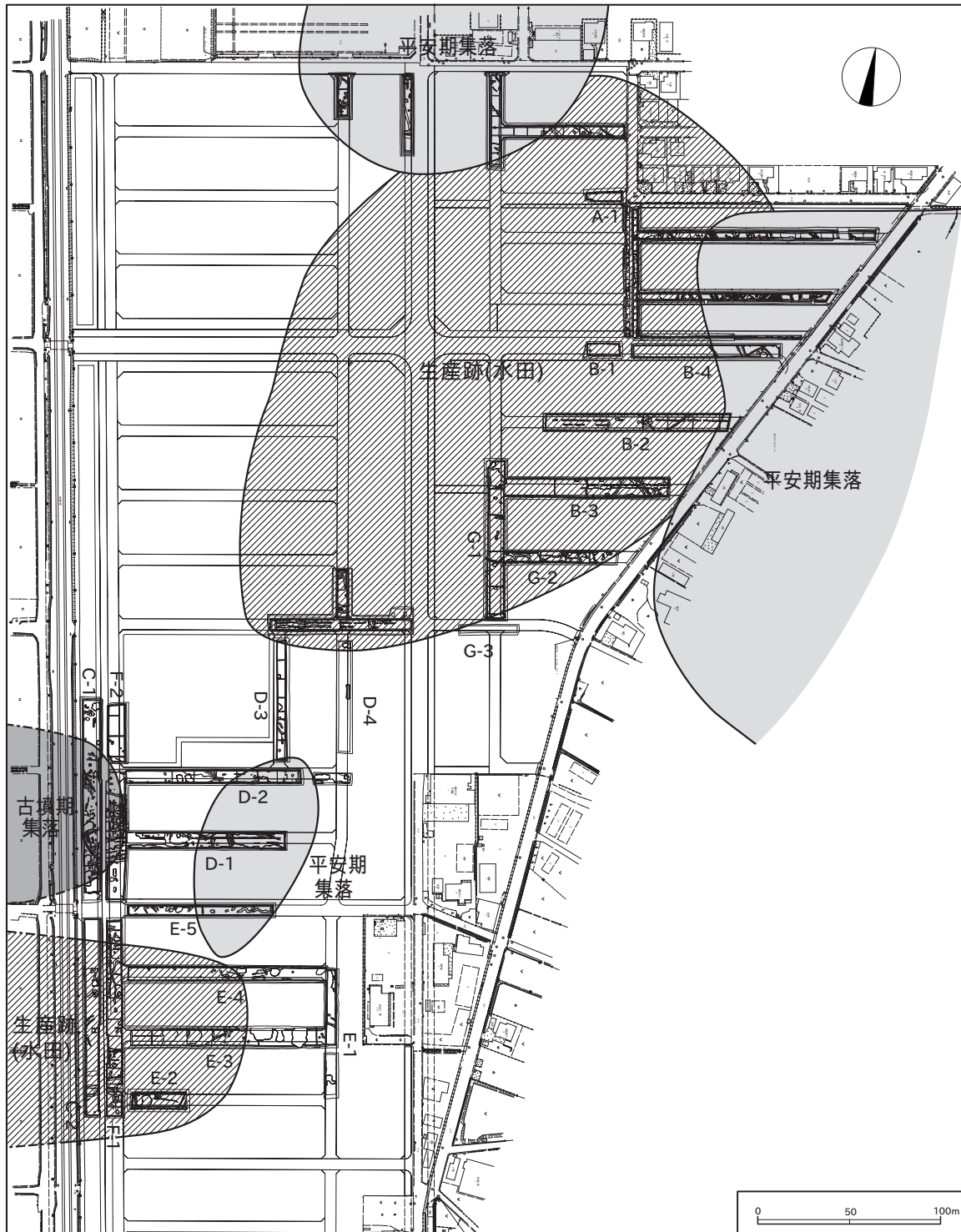
A 結七島遺跡の古代の土地利用について（第7図）

第8次調査では水田跡が発見されたことや遺物の出土量などから、景観想定図が示された〔田中ほか2004〕。今次調査の結果から、想定図中の東側平安時代集落部分について所見を追加することができた（第7図）。追加所見としては、東側平安時代集落部分を今次調査地まで拡大した。SD73・SD108・SD115・SD326は同一の遺構と考えられ、この溝以西は遺構がほとんどなく、逆に東側で遺構が多く検出されている。この溝は区画をも意図していたものと考えられる。明確な住居跡は見つかっていないが自然堤防よりの遺構からは遺物がまとまって出土していることから、今次調査地は居住域に近く、農業などの生産に関連する区域と考える。写真図版1・2に示した空中写真からも理解できるが、能代川左岸に発達した自然堤防上には現在も住居が多く、堤防が低くなった西側には広大な生産の場としての水田が広がる、という構図は平安時代も同様であったことが分かってきた。これまでの調査結果からは、9世紀～10世紀初頭の遺物しか出土していないことから、第7図で示された平安時代集落の同時性は高いものと考えられる。

B 結七島遺跡周辺の遺跡について

結七島遺跡周辺の遺跡は第2図に示している。このうち磐越自動車道建設や工業団地造成、かんがい事業などにより複数の遺跡について部分的に調査がなされており、遺跡の古代にあたる時期の様相が少しずつ明らかになってきている。以下に各調査の古代における所見の概要について報告し、得られた調査所見から結七島遺跡の性格に触れてみることにする。

長沼遺跡 平成2年（1990）に行われた県営かんがい事業関連の発掘調査は、パイプ敷設部分の狭小なトレンチ調査であった。遺構については溝状遺構と不明落ち込み状遺構の断面が確認された。遺物は須恵器や土師器といった土器のほか土管や袋状土製品・鍛冶関連遺物が出土している。遺跡は出土した遺物から7世紀末～8世紀初頭（奈良時代前半）が主体であると考えられている〔渡邊1991〕。新潟市で奈良時代初頭前後を主体時期とする遺跡は少なく貴重な例である。



第7図 結七島遺跡古代景観推定図 (『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(田中ほか2004) 第21図を基に作成)

川口甲遺跡 平成3年(1991)に行われた宅地造成関連の発掘調査は、遺構は確認されなかったが、遺物では須恵器や土師器といった土器のほかに土製または石製の漁具・鍛冶関連遺物・板などの木製品などが出土している。

上浦A遺跡 平成3年に行われたかんがい事業関連の発掘調査は、遺構では畝や水田を区画したと考えられる溝が発見され、遺物では須恵器や土師器といった土器のほかに、銅製帯金具(銅銚)が出土している〔渡邊1992〕。銅銚は丸軀で郡司などの階層を示唆する遺物である。銅銚は奈良時代前半から平安時代初頭に使用されていた〔江口2000〕。古代蒲原郡内にあたる遺跡では、新潟市茗荷谷遺跡・的場遺跡・緒立遺跡・釈迦堂遺跡と加茂市馬越遺

跡で出土例がある〔江口2000〕。遺跡が営まれた時期は8世紀初頭と9世紀中葉～10世紀前葉と考えられている。

平成4年（1992）に行われた工業団地造成関連の調査では高床式掘立柱建物跡3基のほか、溝・井戸と推定される土坑などが確認されている。遺物では墨書土器が比較的多く出土しており、SD16出土の須恵器円面硯は識字層の存在を示唆する。出土した遺物から8世紀後半（A地点）および9世紀中葉（B地点）の時期と考えられている〔川上1997〕。

平成2～同4年に行われた磐越自動車道関連の発掘調査は、遺構では掘立柱建物・溝・土坑・畝状遺構などが確認され、遺物では須恵器・土師器といった土器のほかに県内初例となる銅製素文鏡が出土している。遺跡は7世紀末～10世紀前葉と長く、場所により主体となる時期が異なる様である。律令祭祀と関わる集団の存在が推測されている〔坂上ほか2003〕。

上浦B遺跡 平成4年に行われた工業団地造成関連の発掘調査は、遺構では方向の揃った総柱建物跡1棟と掘立柱建物2棟が確認され、そのほか井戸や土坑・溝・畝状遺構などが確認されている。遺物は須恵器や土師器といった土器が多く出土しており、また奈良三彩小壺が出土している。これは他の土器より古い時期のものであることから貴重なものとして伝世したものと考えられている。この土器は県内では生産されておらず、都からの移入品と考えられる。このほかには袋状鉄斧や鋏先といった鉄製品、砥石や鍛冶関連遺物が出土している。遺跡は9世紀後半を主体とする短い期間に営まれ、河川交通による物資の集積を行った屋敷跡と推測されている〔新潟市2007〕。

沖ノ羽遺跡 平成3・4年に行われた磐越自動車道関連の発掘調査は、延べ55,000m²を超える面積が調査された。遺構では掘立柱建物・土坑・井戸・溝・水田跡などが多く検出され、居住域および生産域ともに調査された事例となった。遺物は須恵器や土師器といった土器のほかに鉄器や鍛冶関連遺物、曲物・井戸枠・斎串といった木製品などが出土している。

平成13年（2001）に行われた排水機場関連の発掘調査は、遺構では掘立柱建物・土坑・井戸・溝などが検出され、遺物では須恵器や土師器といった土器のほかに、土製漁具・井戸枠などの木製品が出土している。掘立柱建物の規格性から、主屋と倉庫と小屋が1セットとなる一単位集落が想定された。遺跡は9世紀前半代に限定されると推測されている〔細野ほか2002〕。

平成15年に行われた送電鉄塔関連の発掘調査は、調査面積も小さく、遺構および遺物の検出量も少量であったが、遺物の年代観から9世紀が主体的であると考えられている〔北村ほか2004〕。

同じく平成15年に行われたほ場整備関連の発掘調査は、遺構では掘立柱建物・土坑・井戸・溝などが検出され、遺物では須恵器や土師器といった土器のほかに鉄製品や鍛冶関連遺物などが出土している。9世紀に主体を持つ集落遺跡の一部と考えられている〔立木ほか2005〕。なお沖ノ羽遺跡は様々な調査原因で調査が行われており、各調査地は『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』〔立木ほか2005〕に報告されている。

これまで見て来たように結七島遺跡周辺の遺跡は、少しずつではあるが調査成果が蓄積されつつある。

『上郷遺跡Ⅱ』〔春日1997c〕の中で春日氏により地域ごとの様相について考察が行われている。結七島遺跡は能代川左岸周辺の自然堤防上に位置する遺跡としてこの考察のブロック6に該当する。ブロック6の遺跡の存続期間を示した春日氏の表に結七島遺跡を追加すると第3表のとおりとなる。

特徴としては、1つは、奈良時代にその成立の前身があり、9世紀に入っても存続する集落があることである。出土遺物の年代観からは一部断絶が見られるが、これは奈良時代から平安時代にかけて連続はしているが、調査地の都合上判明していない場合と、出土遺物の年代観が示しているとおりに一度廃絶し新たに進出している場合とが考えられるが、私見では前者ではないかと考える。調査地点によって主体となる時期が違ふことは沖ノ羽遺跡や、上浦A遺跡の所見からも推測できるからである。このうち上浦（A・B）遺跡では銅鈔や銅製素文鏡・奈良三彩小壺など律令官人層が所有していそうな、階層性を示す遺物が出土していることは注目される。新潟市の場遺跡や緒立遺跡、新発田市山三賀Ⅱ遺跡では銅鈔など階層性を示す遺物が出土しており、これら遺跡は8世紀前半

年代 遺跡名	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	文 献
長沼遺跡	---	-----	-----		渡邊1991・春日ほか1997
川口甲遺跡			-----		川上1994・春日ほか1997
上浦（A・B）遺跡	---	-----	-----		渡邊1992・川上1997・坂上ほか2003 ・春日ほか1997・新潟市2007
結七島遺跡			-----	---	立木ほか2003・植田ほか2003・ 田中ほか2004
沖ノ羽遺跡			-----	-----	石川ほか1994・星野ほか1996・細野ほか2002・北 村ほか2004・立木ほか2004・立木ほか2005・春日 ほか1997

第3表 結七島遺跡周辺遺跡の存続期間（古代に限る。『上郷遺跡Ⅱ』〔春日1997c〕表11を基に作成）

頃成立し9世紀後半もしくは10世紀初頭頃まで規模の盛衰はあるものの連続して存続している。

2つには、9世紀に入ってから出現する集落があることである。9世紀に入ると遺跡が増加することは、春日氏や坂井氏が従前から明らかにしている。9世紀に入ると活発に沖積地に進出し、自然堤防などの微高地を居住地とし、水田が中心となると推測されるが、生産域を居住域の周辺に持つ集落が新たに出現する。細野氏は沖ノ羽遺跡においてその背景として国衙も含めた有力者層主導の新田開発による初期荘園と捉え、さらに墾田地系荘園や田堵制の初期の様相を示す遺跡と考察されている〔細野ほか2002〕。

C 結七島遺跡の性格

結七島遺跡はこれまでの調査結果から、9世紀～10世紀初頭にかけて営まれており、奈良時代（8世紀）に遡らないと考えられる。第7次調査地では4間×2間以上の総柱の掘立柱建物と2間×2間以上の掘立柱建物が検出され、富豪層の屋敷地と推測されている〔立木ほか2003〕。第8次調査では畑・水田跡が検出された。水田跡は「小区画水田」であり、条里制の「長地型水田」ではないことが報告されている。そもそも条里制に基づく口分田の班給が越後で、あるいは蒲原郡で行われていたかどうかは現在不明である。一般に9世紀に入ると全国的には、口分田はほとんど実施されていなかったと考えられている。しかし越後平野では9世紀に新たに成立する遺跡が多いことも特徴として挙げることができ、その成立の背景に国司や郡司も含んでの富豪層の存在も指摘されている〔新潟市史編さん原始古代中世部会1994・今井2007ほか〕。一方上浦A・B遺跡では奈良時代に成立の前身があり、かつ9世紀にも存続する遺跡で、階層性を示す遺物が出土しており、国衙あるいは郡衙が深く関与している遺跡であることが推測される。以上のことから考えると、結七島遺跡は、9世紀に成立すること・階層性を示す遺物が出土していないが周辺の遺跡から階層性を示す遺物が出土しており、その遺跡と同時性があること・稲作をしていることなどから、沖ノ羽遺跡2001年調査地同様、有力者主導の新田開発に伴う集落ではないかと推測する。成立に係る人・もの・資材などの集積が自然発生的であるとは考えにくいからである。今後周辺遺跡の内容が分かってくることによって、律令体制が蒲原郡においてどのように変化していったのか考える上で重要な地域であると考えられる。

引用・参考文献

- ア 甘粕 健・川村浩司^{ほか} 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ』 新津市教育委員会
- イ 飯坂盛泰^{ほか} 2002 『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀^{ほか} 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤 崇 1998 『松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会
- 今井さやか 2007 『日水遺跡 第3次調査 一鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- ウ 植田真・遠竹陽一郎・古庄浩明 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 上野一久・春日真実 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 内堀 信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 宇野 隆夫 1989 『考古学に見る古代と中世の歴史と社会』 真陽社
- 宇野 隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』 桂書房
- 宇野 隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口 友子 2004 『北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日 真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日 真実 1997a 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日 真実 1997b 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 春日 真実 1997c 「第Ⅶ章まとめ B 平安時代」『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日 真実 1999 「第4章古代 第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 古志書院
- 春日 真実 2000 「考古編 第5章 まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』 吉田町
- 春日 真実 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日 真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係についてー「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心にー」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 川上 貞夫 1981 『山崎須恵窯跡 緊急発掘調査報告書』 五泉市教育委員会
- 川上 貞夫 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞夫 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上 貞夫 1996 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞夫 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上 貞夫 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞夫 2003 「第一章第二節 生産遺跡」『笹神村史 資料編1 原始・古代・中世』 笹神村
- 川上貞夫・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川村 尚^{ほか} 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』 佐渡市教育委員会
- キ 北村 淳^{ほか} 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村 宗文 1989 「資料解説ー古代越後と蒲原郡」『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- コ 小池邦明・藤塚明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人^{ほか} 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- サ 坂井 秀弥 1988 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通ー8～10世紀を中心としてー」『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井 秀弥 1989a 「北陸型土器器長甕の制作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会

- 坂井 秀弥 1996 「水辺の古代官衙遺跡—越後平野の内水面・舟運・漁業—」『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井 秀弥 1999 「第IV章古代 第1節総論」『新潟県の考古学』 古志書院
- 坂井秀弥ほか 1984 『上新バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥ほか 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂上有紀ほか 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐々木恵介 2004 『受領と地方社会』 山川出版社
- ス 鈴木 俊成 1994 「第VI章まとめ 1 平安時代の土器」『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一ノ口遺跡東地区(本文編)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- タ 田中 靖 1996 『門新遺跡 外割田地区』 和島村教育委員会
- 田中 靖ほか 1995 『門新遺跡』 和島村教育委員会
- 田中一博ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- ツ 立木宏明ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- ト 土橋由理子 1999 『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ニ 新潟県編 1986 『新潟県史 通史編1』 新潟県
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始・古代・中世 新潟市
- 新潟市教育委員会 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 新潟市教育委員会 2004 『新潟山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 新潟市編 2007 『新 新潟歴史双書2 新潟市の遺跡』 新潟市
- 新潟古代土器研究会編 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 新津市史編さん委員会 1993 『新津市史 通史編・上巻』 新津市
- ヒ 平川 南 2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- 廣野耕造・朝岡政康 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- ホ 星野信明ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- ヨ 吉井雅勇ほか 1999 『元山寮跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』 荒川町教育委員会
- 横山勝榮・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- ワ 渡邊 朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊 朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊 朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査—』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入り遺跡A地点』 新津市教育委員会
- 渡邊 朋和 1999 「第4章第4節第3項製鉄」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 渡邊朋和ほか 2001a 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001b 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書—第11・12・13・14次調査—』 新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 渡邊ますみほか 1998 「第2章 原始・古代—緒立遺跡—第3節出土遺物第3項 奈良・平安時代の遺物1」『黒埼町史 資料編1 原始・古代・中世』 黒埼町

別表1 主要遺構計測表

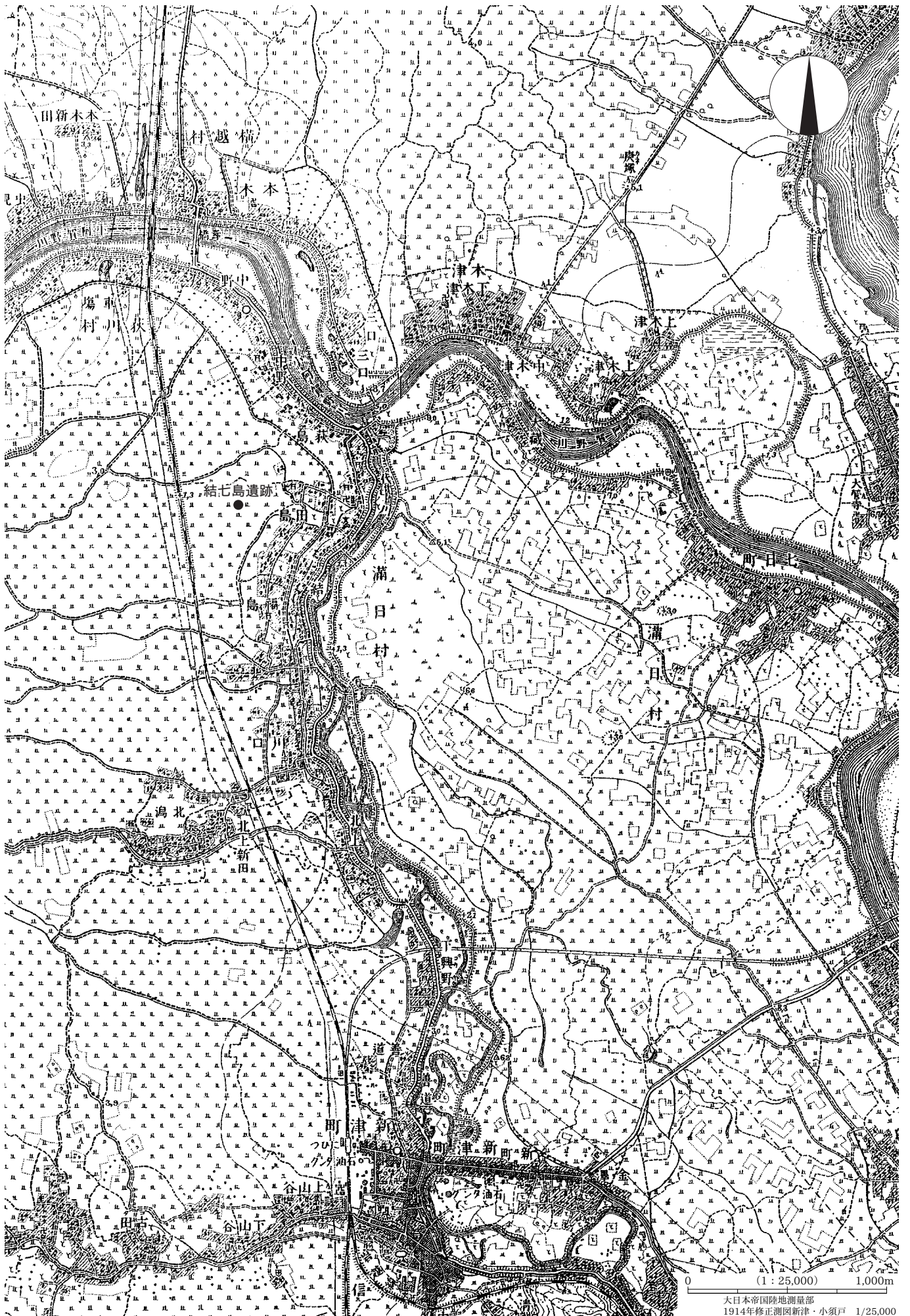
図版No.	遺構	調査区とグリッド		時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版頁	
							上端		下端			深度	平面			断面
							長軸	短軸	長軸	短軸						
6	SK20	1区	43J16・17	平安	V層	N-64° -W	(1.38)	(1.00)	(0.93)	(0.70)	-	2.50	楕円形	半円形	○	
6・11	SK23	1区	41J12・17	平安	V層	N-35° -E	1.10	0.68	0.90	0.50	0.09	2.45	楕円形	皿形		
6・11	SK24	1区	41J17	平安	V層	N-35° -E	1.40	0.61	1.27	0.50	0.09	2.40	楕円形	皿形	○	
6・11	SK25	1区	41J18	平安	V層		(0.60)	(0.52)	(0.53)	(0.44)	0.12	2.56	不整形	箱形		
6・11	SK32	1区	38J23	平安	V層	N-7° -W	(0.61)	(0.71)	(0.54)	(0.60)	0.08	2.63	(長方形)	皿形		
6・11	SK39	1区	38J16	平安	V層		(0.88)	(0.69)	(0.79)	(0.60)	0.06	2.62	不整形	皿形		
6・11	SK43	1区	37J25	平安	V層		(0.26)	(0.50)	(0.13)	(0.13)	0.17	2.57	(円形)	台形		
6・11	SK46	1区	37J15	平安~中世	V層	N-4° -E	(0.33)	(0.49)	(0.13)	(0.35)	0.20	2.58	(楕円形)	半円形		
6・11	SK55	1区	36J19	平安	V層	N-23° -E	(0.65)	(0.88)	(0.55)	(0.61)	0.45	1.77	楕円形	台形		
6・11	SK56	1区	36J18	平安	V層		1.25	0.82	0.09	0.17	0.12	2.56	不整形	皿形		
6・11	SK64	1区	35J18	平安	V層		(0.87)	(0.24)	(0.78)	(0.16)	0.06	2.53	不整形	皿形		
6・11	SK70	1区	35J16	平安	V層		0.83	0.60	0.67	0.47	0.10	2.40	方形	皿形		
6・11	SK74	1区	35J21	平安	V層	N-10° -W	(0.85)	(0.79)	(0.81)	(0.49)	0.12	2.63	(楕円形)	皿形		
6・12	SD19	1区	43J16・17	平安	V層	N-63° -W	(5.42)	(0.65)	(5.25)	(0.53)	0.14	2.46		箱形	○	
6・12	SD21	1区	42J12・17	平安	V層	N-12° -W	(4.08)	(2.26)	(4.08)	(1.97)	0.35	2.31		箱形	○	17
6・12	SD22	1区	41J11・16	平安	V層	N-54° -W	(3.32)	(0.80)	(3.32)	(0.67)	0.04	2.57		皿形	○	17
6・12	SD28	1区	38J14・19	平安	V層	N-29° -W	(4.55)	(0.72)	(4.50)	(0.42)	0.13	2.54		箱形	○	
6・12	SD45	1区	37J15・19	平安	V層	N-53° -E	(5.43)	(0.70)	(5.10)	(0.45)	0.12	2.56		半円形	○	17
6・12	SD72	1区	37J19・24	平安	V層	N-39° -W	(2.48)	(0.82)	(2.20)	(0.30)	0.09	2.62		皿形		
6	SD47	1区	37J17・18	平安	V層	N-2° -W	(4.33)	(5.80)	(3.50)	(5.37)	0.87	2.67		皿形	○	17
6・12	SD48	1区	36J20・37J16	平安	V層	N-49° -E	(5.00)	(1.10)	(4.85)	(0.93)	0.08	2.60		皿形	○	
6・12	SD59	1区	35J15・20	平安	V層	N-34° -W	(5.03)	(1.17)	(4.92)	(0.75)	0.10	2.54		皿形	○	
6・12	SD61	1区	35J14・20	平安	V層	N-35° -W	(4.85)	(1.19)	(5.00)	(0.51)	0.12	2.49		皿形	○	
6・12	SD62	1区	35J13・19	平安	V層	N-38° -W	(5.10)	(1.11)	(5.23)	(0.73)	0.03	2.56		皿形	○	
6・12	SD73	1区	33J13・19	平安	V層	N-43° -W	(4.97)	(1.07)	(4.95)	(0.37)	0.31	2.17		半円形	○	
6・11	P40	1区	38J16	平安	V層		0.59	(0.40)	0.45	0.31	0.12	2.56	楕円形	半円形	○	17
7・12	SK76	2区	41M21	平安	V層		2.43	1.28	2.40	1.16	0.08	2.61	不整形	皿形		
7・12	SK77	2区	40M23	平安~中世	V層	N-2° -E	2.02	1.58	1.59	1.02	0.41	2.19	長方形	箱形	○	
7	SK79	2区	39M25	平安	V層		(1.05)	(0.90)	(0.85)	(0.48)	0.15	2.70	不整形	皿形		
7・12	SK82	2区	39M22	平安	V層		0.60	0.56	0.50	0.45	0.04	2.62	方形	皿形	○	
7・13	SK89	2区	38M23 38N3	平安~中世	V層	N-50° -W	(2.24)	(1.92)	(1.88)	(1.84)	0.56	2.10	長方形	半円形	○	18
7・13	SK90	2区	38M23	平安~中世	V層	N-34° -E	(1.02)	(1.00)	(0.71)	(0.52)	0.36	2.28	長方形	箱形	○	
7	SK109	2区	38M17・22	平安	V層		(1.48)	(0.83)	(1.13)	(0.35)	0.56	2.60	(円形)	箱形		
7・12	SK91	2区	38M21・22	平安~中世	V層	N-2° -W	1.88	1.10	(1.04)	(0.90)	0.62	1.94	楕円形	箱形		
7・13	SK95	2区	37M17・18	平安	V層	N-20° -E	(1.24)	(1.20)	(1.22)	(0.79)	0.39	2.33	(楕円形)	半円形	○	18
7・13	SK98	2区	37M21 37N1	平安	V層		(1.86)	(1.78)	(1.20)	(1.12)	0.43	2.25	不整形	台形	○	
7	SK116	2区	36N5	平安	V層	N-0°	(0.10)	(0.32)	(0.04)	(0.22)	0.16	2.50	(楕円形)	箱形		
7・14	SK100	2区	36M24	平安	V層		1.48	1.22	1.22	0.86	0.20	2.44	円形	箱形	○	
7・14	SK107	2区	35M21	平安~中世	V層	N-50° -W	(1.03)	(0.62)	(0.82)	(0.48)	0.10	2.45	楕円形	箱形		
7・14	SK113	2区	33M25	平安	V層		0.75	0.65	0.33	0.35	0.21	2.20	円形	皿形	○	
7・14	SD75	2区	41M22・23 41N1	平安	V層	N-66° -E	7.26	0.47	7.12	0.22	0.06	2.87		皿形	○	
7・14	SD78	2区	39M25 40N1	平安	V層	N-27° -W	(3.62)	(1.17)	(3.53)	(0.90)	0.14	2.49		皿形	○	18
7・14	SD80	2区	39M23 39N3	平安	V層	N-33° -W	(4.29)	(1.51)	(4.24)	(0.66)	0.31	2.39		箱形	○	18
7・15	SD83	2区	39M21 39N1	平安	V層	N-38° -W	(3.67)	(0.56)	(3.60)	(0.42)	0.07	2.62		半円形	○	

図版No.	遺構	調査区とグリッド		時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版頁	
							上端		下端			深度	平面			断面
							長軸	短軸	長軸	短軸						
7・15	SD84	2区	39M21 39N1	平安	V層	N-30° -W	(4.14)	(2.00)	(4.18)	(1.90)	0.05	2.63	皿形	○		
7・15	SD85	2区	39M22 39N2	平安	V層	N-40° -W	(4.34)	(0.69)	(4.16)	(0.32)	0.11	2.59	箱形	○		
7・15	SD87	2区	38M24 38N4	平安	V層	N-40° -E	(4.59)	(0.32)	(4.65)	(0.21)	0.04	2.64	皿形			
7・13・15	SD88	2区	38M24	平安～中世	V層	N-41° -E	(7.14)	(0.45)	(7.17)	(0.28)	0.17	2.50	皿形	○		
7・15	SD92	2区	38N2	平安～中世	V層	N-46° -E	(7.18)	(0.74)	(6.58)	(0.50)	0.06	2.43	皿形	○		
7	SD93	2区	37M24・25 37N4・5	平安	V層	N-7° -E	(5.60)	(2.93)	(5.34)	(2.80)	0.14	2.54	皿形	○	18	
7・15	SD94	2区	37M22・23	平安	V層	N-32° -W	(3.38)	(0.63)	(3.13)	(0.52)	0.07	2.48	皿形	○		
7・13	SD97	2区	37M21	平安	V層	N-42° -W	(2.96)	(0.96)	(2.92)	(0.59)	0.16	2.49	皿形			
7・14	SD99	2区	36M25 36N4	平安	V層	N-37° -E	(4.10)	(0.77)	(4.10)	(0.54)	0.11	2.50	箱形	○		
7・15	SD101	2区	36M23・24	平安	V層	N-44° -E	(6.75)	(1.20)	(7.05)	(1.00)	0.17	2.51	箱形	○		
7・15	SD102	2区	35M25 36N1	平安	V層	N-34° -W	(4.50)	(0.79)	(4.40)	(0.59)	0.15	2.46	半円形	○		
7・15	SD103	2区	35M25	平安	V層	N-36° -W	(2.55)	(0.31)	(2.48)	(0.14)	0.05	2.54	半円形			
7・15	SD104	2区	35M24 35N5	平安	V層	N-36° -W	(4.38)	(0.68)	(4.37)	(0.42)	0.07	2.47	皿形			
7・15	SD105	2区	35M24	平安	V層	N-31° -W	(2.93)	(0.29)	(2.76)	(0.23)	0.05	2.48	皿形	○		
7・14	SD106	2区	35M21 35N2	平安	V層	N-30° -W	(4.23)	(0.43)	(4.20)	(0.28)	0.08	2.46	半円形			
7・15	SD108	2区	34M24 34N4	平安	V層	N-36° -W	(4.62)	(1.37)	(4.70)	(0.73)	0.26	2.30	皿形	○		
7	SD112	2区	34M21・22	平安	V層	N-13° -W	(1.16)	(0.53)	(1.14)	(0.48)	0.03	2.50	皿形			
7・14	SX86	2区	38M25 38N5	平安	V層	N-40° -E	(3.94)	(2.90)	(3.80)	(2.63)	0.14	2.52	不整形	皿形	○	18
7	P81	2区	39M21	平安	V層	N-42° -E	0.52	0.40	0.33	0.20	0.20	2.60	円形	半円形	○	
7	P96	2区	36N5	平安	V層	N-40° -E	0.45	0.23	0.37	0.10			不整形			
7	P118	2区	41N2	平安	V層								円形			
15	P126	2区	39M21	平安	V層								円形			
8・16	SK18	3区	39P4	平安	V層	N-14° -W	(0.72)	(0.78)	(0.61)	(0.50)	0.15	2.24	(楕円形)	箱形	○	18
8・16	SK17	3区	39P2・3	平安～	V層		(1.61)				0.59	2.13	不整形	(半円形)		
8・16	SK16	3区	39P2	平安～	V層		(1.38)				0.43	2.24	不整形	(半円形)		
8・15	SD1	3区	40P1	平安	V層	N-33° -W	(1.50)	(0.54)	(1.48)	(0.41)	0.16	2.60	半円形	○		
8・16	SD5	3区	39P3・4	平安	V層	N-10° -W	(1.16)	(5.74)	(1.18)	(4.38)	0.57	2.20	皿形	○	19	
8・15	SD6	3区	38P4	平安	V層	N-15° -W	(1.03)	(1.49)	(1.03)	(1.30)	0.09	2.61	皿形	○	20	
8・15	SD7	3区	38P5・39P1	平安	V層	N-75° -E	(1.10)	(0.44)	(1.06)	(0.34)	0.09	2.49	皿形	○		
8・15	SD9	3区	38P1	平安	V層	N-20° -W	(1.15)	(2.22)	(1.18)	(1.61)	0.23	2.48	箱形	○	20	
8	SD10	3区	37P5	平安	V層	N-56° -W	(1.23)	(0.30)	(1.20)	(0.20)	0.07	2.75	皿形	○		
8	SD11	3区	37P5	平安	V層	N-56° -W	(0.64)	(0.42)	(0.60)	(0.30)	0.04	2.71	皿形	○		
8・15	SD12	3区	37P4	平安	V層	N-42° -W	(1.10)	(0.94)	(1.20)	(0.56)	0.20	2.48	半円形	○	20	
8・15	SD13	3区	37P2	平安	V層	N-40° -W	(1.27)	(0.88)	(1.17)	(0.36)	0.13	2.54	皿形	○		
8	SD114	3区	36P5 37P1	平安	V層	N-38° -W	(0.91)	(0.60)	(0.78)	(0.29)	0.21	2.61	皿形	○	20	
8	SD115	3区	35P3	平安	V層	N-20° -W	(0.53)	(0.81)	(0.55)	(0.26)	0.10	2.85	皿形			
8	P2	3区	40P1	平安	V層		(0.31)	(0.25)	(0.21)	(0.16)	0.10		(楕円形)			
8	P3	3区	40P1	平安	V層		(0.20)	(0.18)	(0.17)	(0.16)	0.10		(楕円形)			
8	P4	3区	40P1	平安	V層		0.12	0.12	0.10	0.10	0.10		円形			
8	P15	3区	37P5	平安	V層		(0.35)	(0.25)	(0.17)	(0.11)	0.08	2.62	楕円形	半円形	○	
8・15	P117	3区	38P5	平安	V層		0.63	0.38	0.20	0.14	0.17	2.53	楕円形	(皿形)		
	P120	3区	33P1	平安	V層											
9・16	SK111	4区	31J19	平安	V層	N-57° -E	1.58	0.96	1.38	0.72	0.12	2.05	楕円形	皿形		
9	SK110	4区	31L4・5	平安～中世	V層	N-38° -E	(1.75)	(1.26)	(1.05)	(1.13)	0.33	2.10	不整形	箱形		
9・16	SD124	4区	31M12・17	平安	V層	N-48° -W	(1.30)	0.60	(1.20)	0.40	0.06	2.20	皿形			

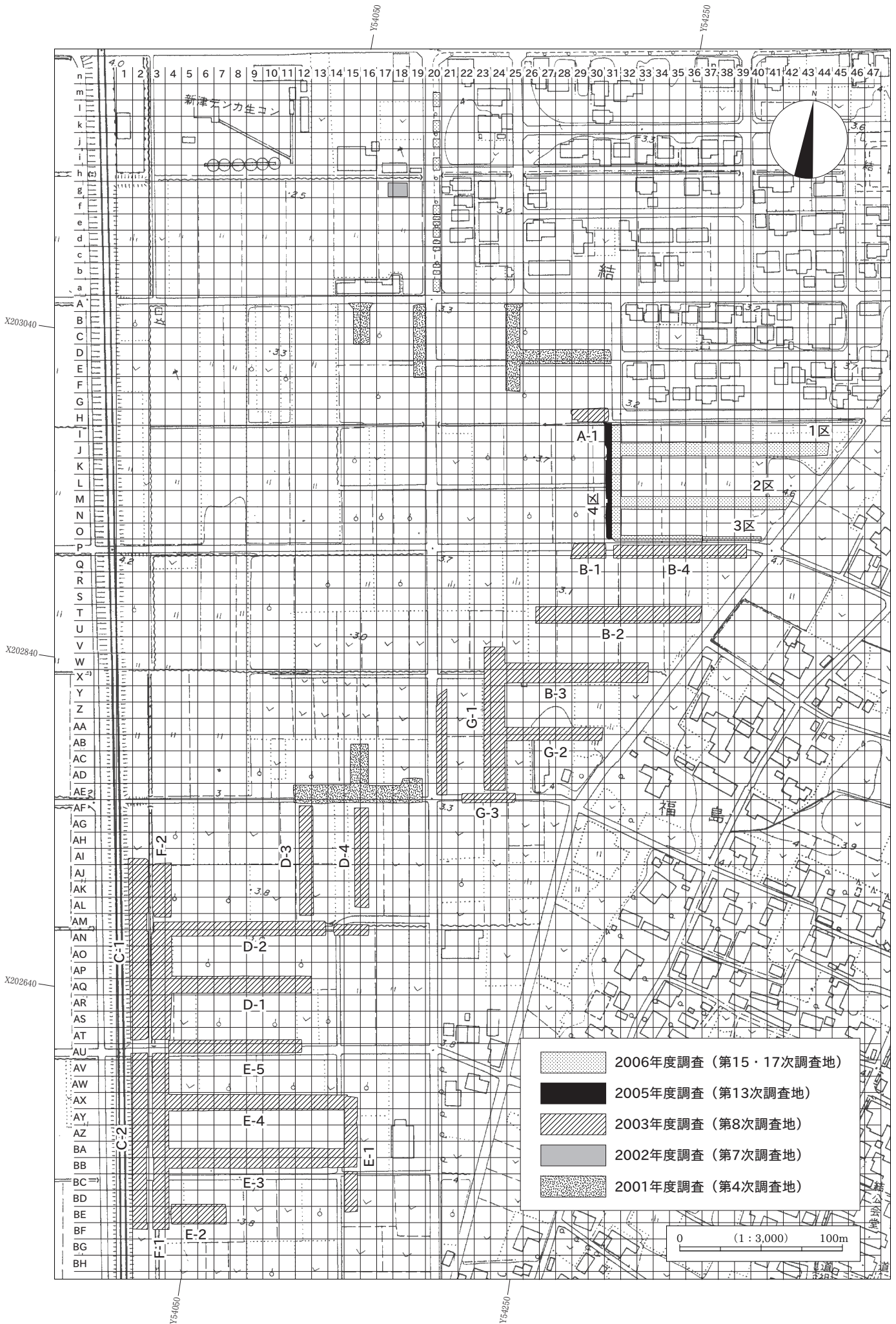
別表 5 結七島遺跡主要遺構出土古代土器器種構成表

地区名	遺構名	種別	食膳具								煮炊具			貯蔵具			合計	
			土師器		黒色土器		須恵器		土師器		土師器	須恵器		須恵器	貯蔵具			
			無台椀	無台椀	杯蓋	有台杯	無台杯	甕	小甕	鍋	大甕	長頸壺						
1区	SK20	口残值	0.08	44.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02	11.11%	0.08	44.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.18	100.00%
		底残值	2	14.29%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	7.14%	11	78.57%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	14	100.00%
		体部数(点)															0	
		体部数(g)															0	
		総点数(点)	2	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	10.00%	6	60.00%	0.00%	0.00%	1	10.00%	10	100.00%
1区	SD24	口残值	9	11.25%	0.00%	0.00%	0.00%	4	5.00%	62	77.50%	0.00%	0.00%	5	6.25%	80	100.00%	
1区	SD19	口残值	0.05	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05	100.00%	
1区	SD21	口残值	0.16	3.85%	0.00%	0.02	0.48%	0.44	10.58%	2.86	68.75%	0.3	7.21%	0.05	1.20%	4.16	100.00%	
1区	SD22	口残值	0.38	53.52%	0.00%	0.00%	0.00%	0.33	46.48%	2	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.71	100.00%	
1区	SD28	口残值	55	1.88%	0.00%	53	1.82%	256	8.77%	725	24.84%	1431	49.02%	91	3.12%	2919	100.00%	
1区	SD45	口残值	0.63	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.63	100.00%	
1区	SD47	口残值	1.02	98.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02	1.92%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.04	100.00%	
1区	SD48	口残值	0.16	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	11.11%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.16	100.00%	
1区	SD59	口残值	10	52.63%	0.00%	0.00%	0.00%	1	5.26%	4	7.55%	29	54.72%	11	20.75%	53	100.00%	
1区	SD61	口残值	0.08	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08	100.00%	
1区	SD62	口残值	2	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	4	50.00%	2	25.00%	0.00%	0.00%	8	100.00%	
1区	SD73	口残值	13	26.53%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	33	67.35%	3	6.12%	0.00%	0.00%	49	100.00%	

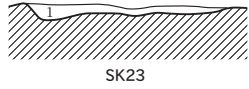
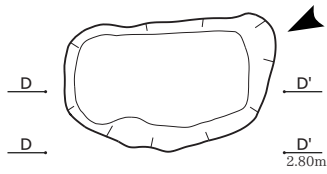
図 版



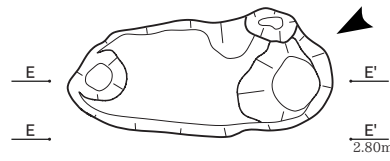




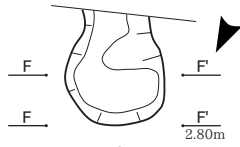
1区 (SK・Pit)



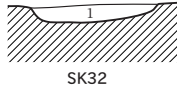
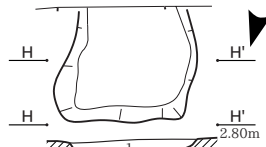
SK23
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。



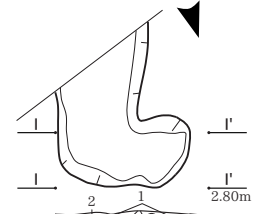
SK24
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。



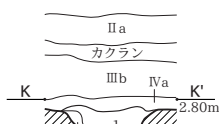
SK25
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。V層のシルトブロック多混。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層のシルトブロックマーブル状に多混。



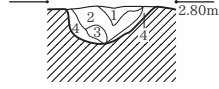
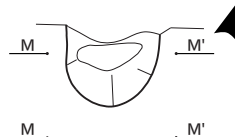
SK32
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。



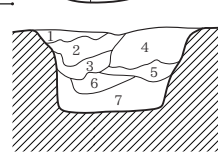
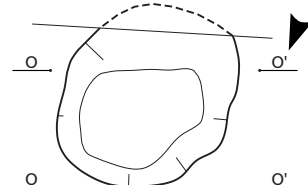
SK39
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。
1層のシルトブロック少混。



SK43
1 黒色シルト (10YR1.7/) 粘性あり。しまりあり。IVb層と同質。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層のシルトブロック少混。

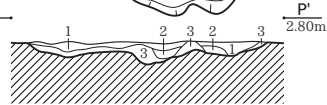


SK46
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりあり。
2 灰色粘土 (7.5Y5/1) V層シルトブロックまだらに混入。
3 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりあり。
4 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層のシルトブロックマーブル状に多混。

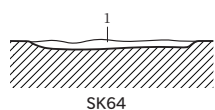


SK55

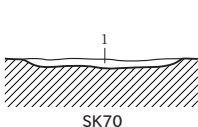
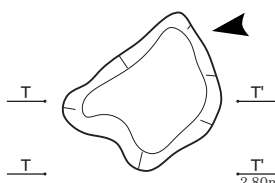
1 褐色粘土(10YR4/1)と灰色シルト(10Y5/1)のブロックが混ざり合う。粘性あり。1層と同じだが褐色粘土の割合が高い。しまりあり。
2 褐色粘土 (10YR4/1) しまりあり。
3 褐色粘土 (10YR4/1) 2層と同じだが2層より大きな灰色シルトブロック混入。粘性ややあり。しまりあり。
4 褐色粘土 (10YR4/1) しまりあり。
5 灰色粘土 (10Y5/1) しまりあり。
6 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 5層の粘土ブロック少混。
7 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 灰色(7.5Y6/1)粘土がラミナ状に混入。



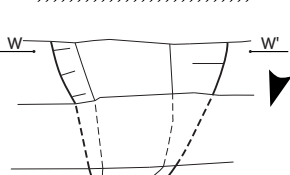
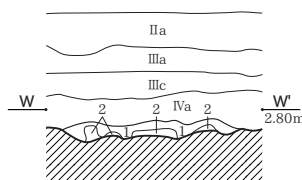
SK56
1 灰色粘土 (10Y5/1) V層シルトブロック少混。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 1層粘土ブロック少混。
3 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 2層より少ないが1層粘土ブロック混入。



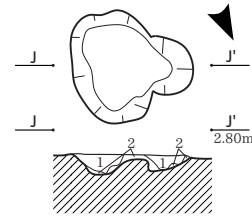
SK64
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり。IVa層と同じ。



SK70
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり。IVa層と同じ。

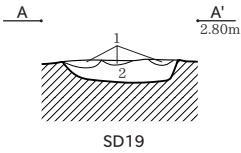


SK74
1 灰色粘土 (10Y5/1) V層シルトブロック少混。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 1層粘土ブロック少混。

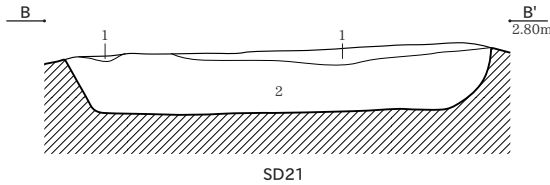


P40
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。1層のシルトブロック少混。

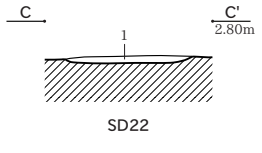
1区 (SD)



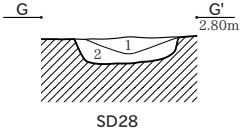
SD19
1 灰色粘土 (5Y5/1) しまりなし。IVa層と同じ。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層の粘土マーブル状に入る。



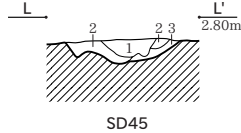
SD21
1 黒色シルト (5Y2/1) 粘性あり。しまりあり。IVb層と同質。遺物多く出土。
2 オリーブ灰色粘土 (2.5GY5/1) しまりなし。1層のシルトブロック少混。水草の根縦方向に多混。遺物出土。



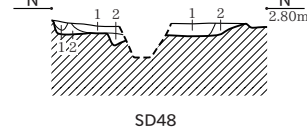
SD22
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりなし。



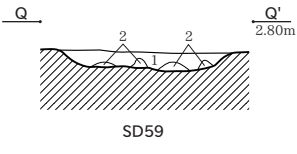
SD28
1 黒褐色粘土 (10YR3/1) しまりあり。IVb層と同質。
2 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性あり。しまりなし。1層の粘土ブロック少混。



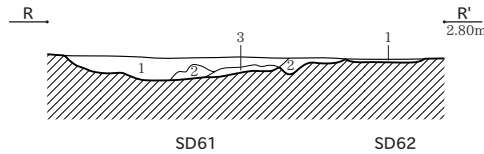
SD45
1 灰色粘土 (5Y5/1) しまりなし。a層
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層の粘土マーブル状に入る。
3 オリーブ灰色粘土 (2.5GY5/1) 1層の粘土ブロック少混。



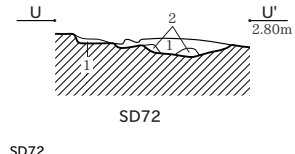
SD48
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりあり。黄灰色粘土ブロック多混。
2 灰色シルト (7.5Y5/1) しまりなし。1層の粘土ブロックまだらに混入。



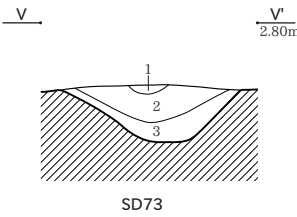
SD59
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロックがラミナ状に混入。



SD61
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり。
2 オリーブ灰色粘土 (2.5GY5/1) 1層のシルトブロックがラミナ状に混入。
3 オリーブ灰色粘土 (2.5GY5/1) 水草の根混じる。

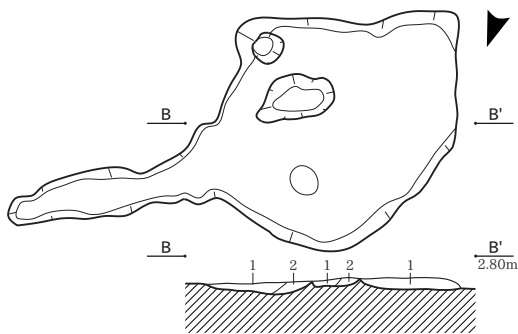


SD72
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性あり。1層のシルトブロックまだらに混入。

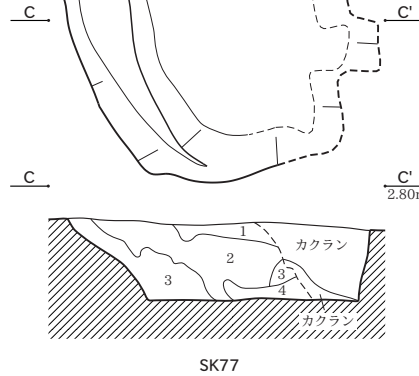


SD73
1 灰色粘土 (5Y5/1)
2 黒褐色粘土 (10YR3/1) しまりあり。IVb層と同質。
3 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 粘性あり。2層粘土ブロックまだらに混入。

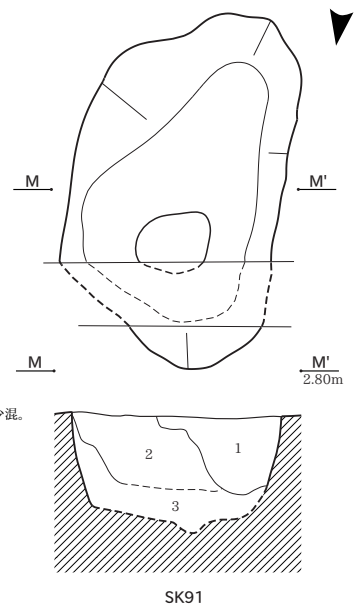
2区 (SK)



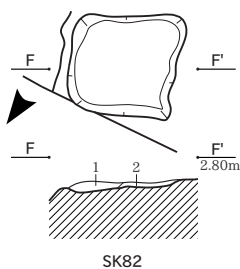
SK76
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりややあり。シルト混。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) しまりややあり。



SK77
1 灰色粘土 (5Y4/1) しまりややあり。黒色粘土ブロック、灰色シルトブロック少混。
2 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) しまりややあり。灰色粘土ブロック少混。
3 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) 暗オリーブ灰色シルト(2.5GY4/1)と混ざり合う。水流を受けたような堆積様相を示す。
4 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 3層と同じだがシルトの割合が高い。

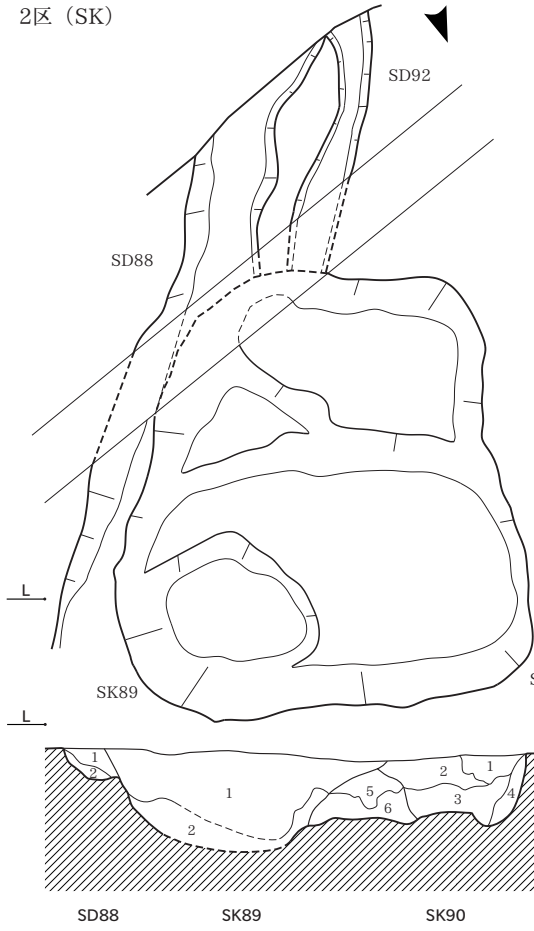


SK91
1 灰色粘土 (5Y4/1) しまりなし。V層シルトブロック少混。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) しまりなし。1層の粘土ブロック少混。
3 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) しまりなし。1層の粘土ブロックラミナ状に少混。



SK82
1 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック少混。
2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性あり。しまりあり。

2区 (SK)



SD88

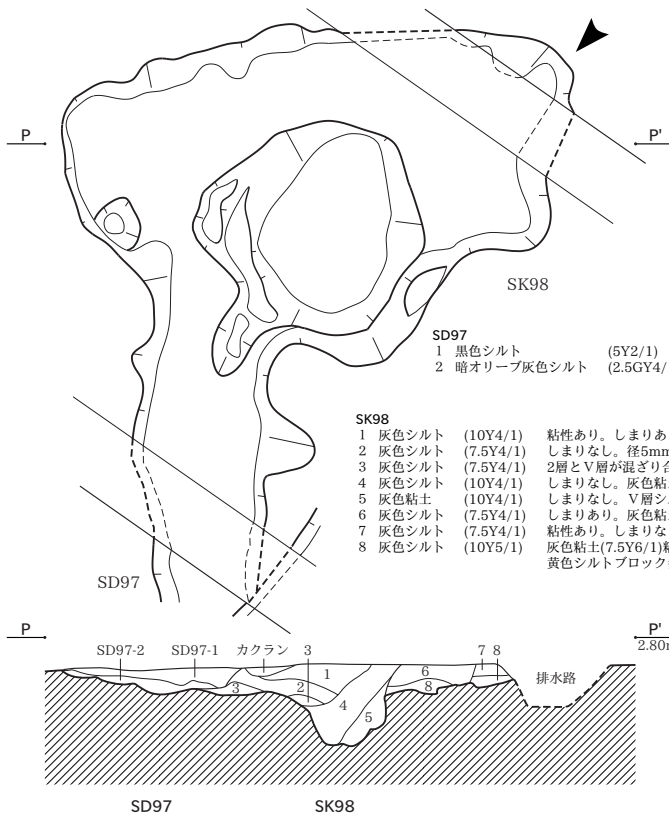
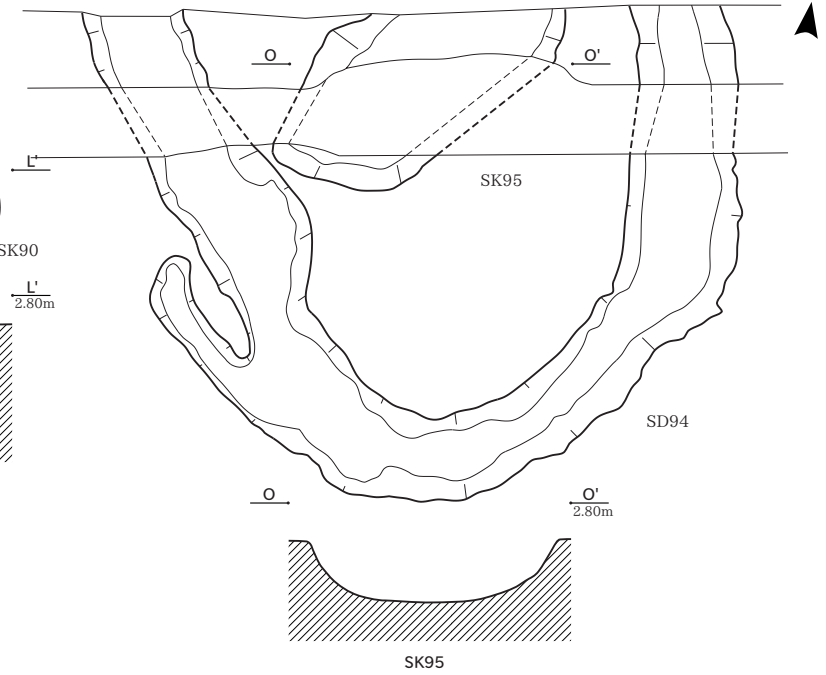
- 1 灰色シルト～オリブ黒色シルト (5Y4/1～5Y3/1) 粘性あり。
- 2 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。

SK89

- 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり。しまりあり。黄灰色(2.5Y5/1)シルトブロック多混。
- 2 灰色シルト (10Y4/1) 粘性あり。しまりなし。

SK90

- 1 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) 粘性あり。1層のシルトブロック多混。
- 2 灰色シルト (7.5Y4/1) しまりなし。
- 3 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) V層にオリブ黒色 (5Y3/1) のシルトブロック多混。
- 4 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。
- 5 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりなし。
- 6 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。



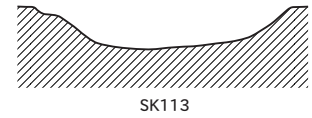
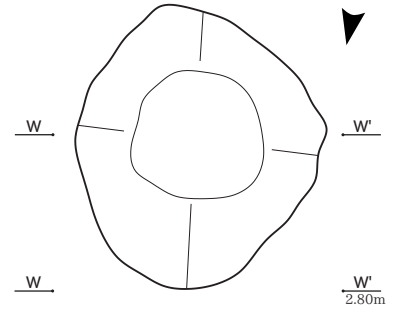
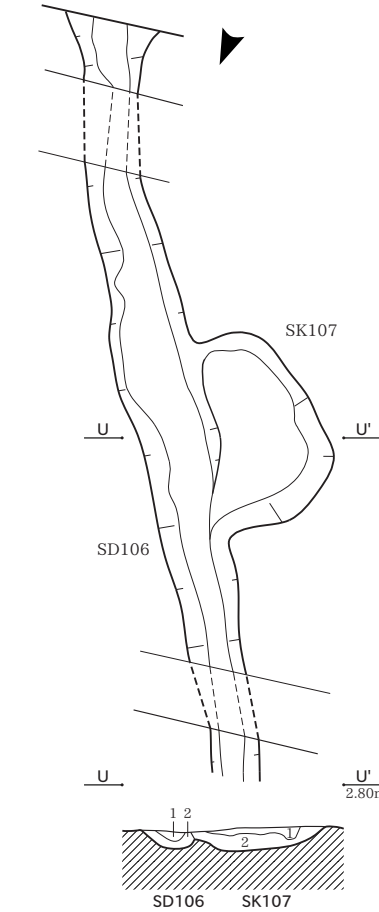
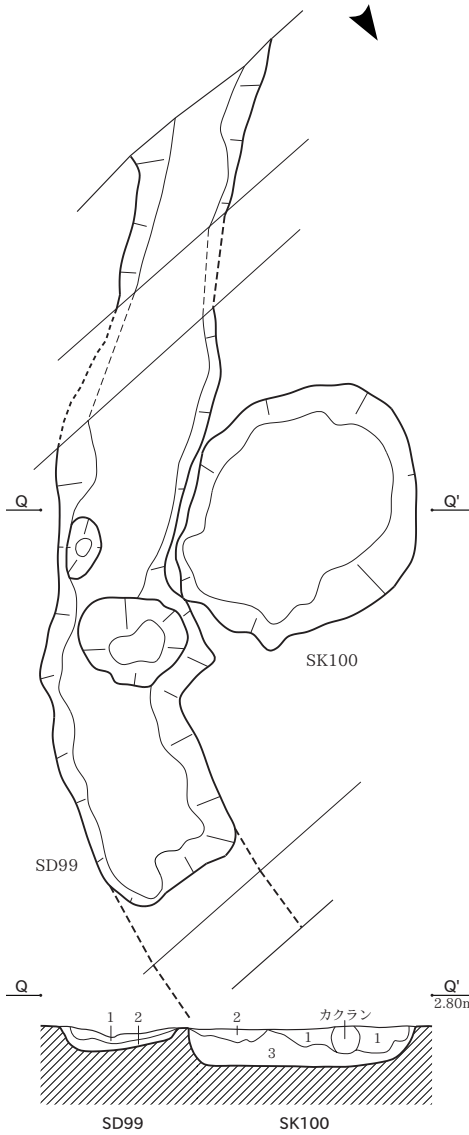
SD97

- 1 黒色シルト (5Y2/1) しまりあり。
- 2 暗オリブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。

SK98

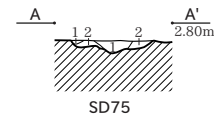
- 1 灰色シルト (10Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
- 2 灰色シルト (7.5Y4/1) しまりなし。径5mm炭化物少混。
- 3 灰色シルト (7.5Y4/1) 2層とV層が混ざり合う。
- 4 灰色シルト (10Y4/1) しまりなし。灰色粘土(7.5Y6/1)粘土ブロック多混。
- 5 灰色粘土 (10Y4/1) しまりなし。V層シルトブロック多混。
- 6 灰色シルト (7.5Y4/1) しまりあり。灰色粘土(7.5Y6/1)粘土ブロック多混。
- 7 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりなし。
- 8 灰色シルト (10Y5/1) 灰色粘土(7.5Y6/1)粘土ブロックと黄色シルトブロック多混。

2区 (SK・SX・SD)

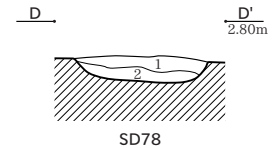


- SD106**
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
 2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。
- SK107**
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりなし。
 2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。層のシルトブロック少混。

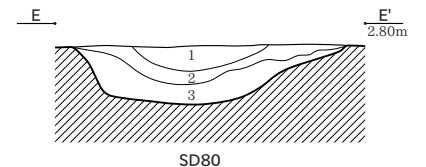
- SD99**
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりなし。
 2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 1層のシルトブロック少混。
- SK100**
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
 2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。
 3 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 砂質強い。1層のシルトブロック少混。



- SD75**
 1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりややあり。シルト混。
 2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) しまりややあり。1層の粘土ブロック少混。

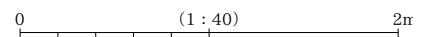


- SD78**
 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) しまりややあり。
 2 灰色シルト (10Y5/1) しまりややあり。1層の粘土ブロック混。

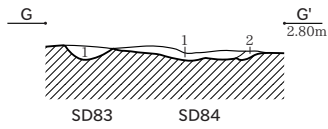


- SD80**
 1 黒色シルト (7.5Y1.7/1) 粘土混。粘性あり。しまりあり。
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘土混。粘性あり。しまりあり。
 3 暗オリーブ灰色シルト (5Y4/1) 粘土混。粘性あり。しまりあり。水草の根多混。

- SX86**
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり。しまりなし。
 2 暗オリーブ灰色シルト (5GY6/1) 1層のシルトブロック少混。

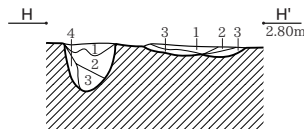


2区 (SD)

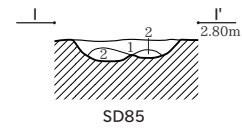


SD83
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりややあり。シルト混。

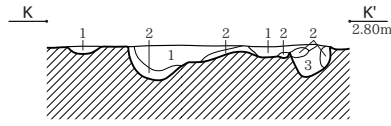
SD84
1 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまりややあり。シルト混。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) しまりややあり。1層の粘土ブロック少混。
3 暗オリーブ灰色シルト (5GY5/1) 粘土混。しまりなし。



P126
1 SD84の1層と同質。
2 SD84の2層と同質。
3 SD84の3層と同質。
4 SD84の3層・1層の粘土ブロック少混。



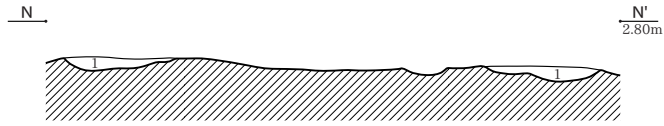
SD85
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘土混。しまりなし。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) V層に1層シルトブロック少混。



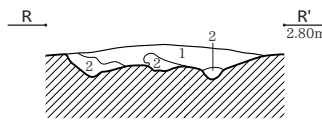
SD87
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり。

SD88
1 灰色シルト～オリーブ黒色シルト (5Y4/1～5Y3/1) 粘性あり。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック少混。

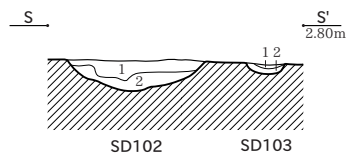
SD92
1 灰色シルト～オリーブ黒色シルト (5Y4/1～5Y3/1) 粘性あり。
2 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック多混。
3 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 1層のシルトブロック少混。



SD94
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘土混。しまりあり。

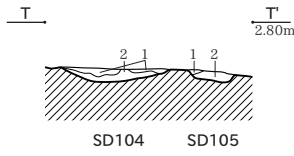


SD101
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。



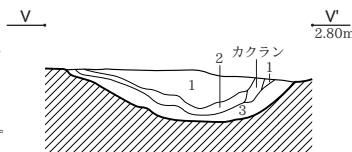
SD102
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。

SD103
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。



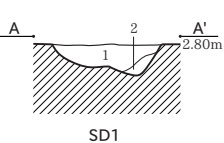
SD104
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。

SD105
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少混。

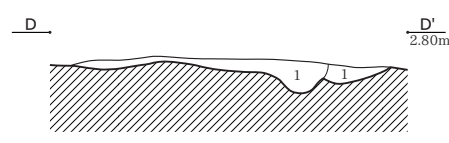


SD108
1 灰色シルト (10YR1.7/) 粘性あり。しまりあり。IV b層と同質。
2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり。しまりなし。
3 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。1層のシルトブロック少混。

3区 (SD)

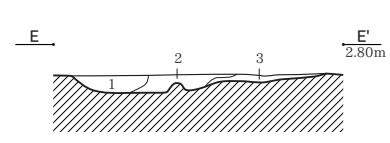


SD1
1 黒褐色粘土 (10YR3/1)
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。
1層の粘土ブロックまだらに混入。

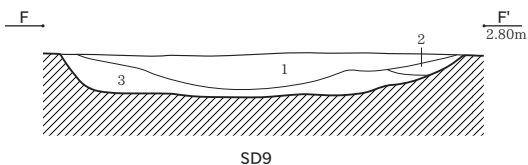


SD7
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり。

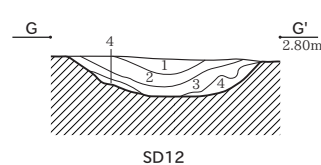
P117
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり。



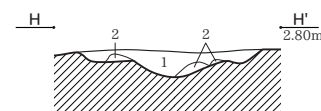
SD6
1 黒褐色粘土 (10YR3/1) しまりややあり。
2 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層の粘土ブロック多混。
3 暗オリーブ灰色シルト (5GY4/1) 1層の粘土ブロック少混。



SD9
1 黒色シルト (10YR1.7/) 粘性あり。しまりあり。
2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり。しまりあり。
3 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 粘性あり。1層のシルトブロック少混。

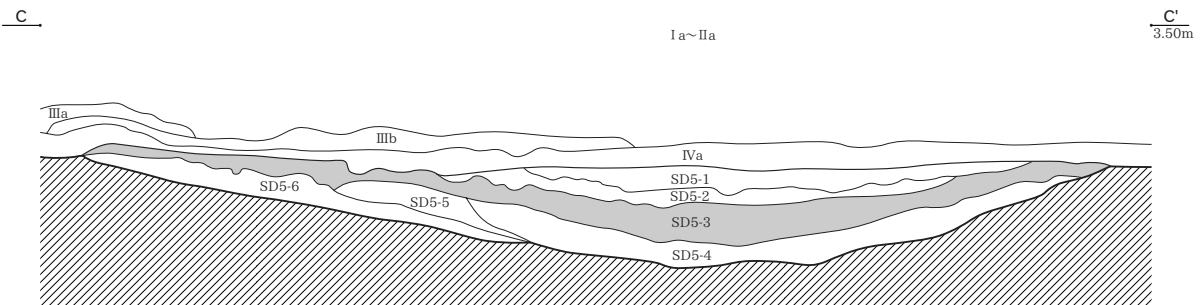
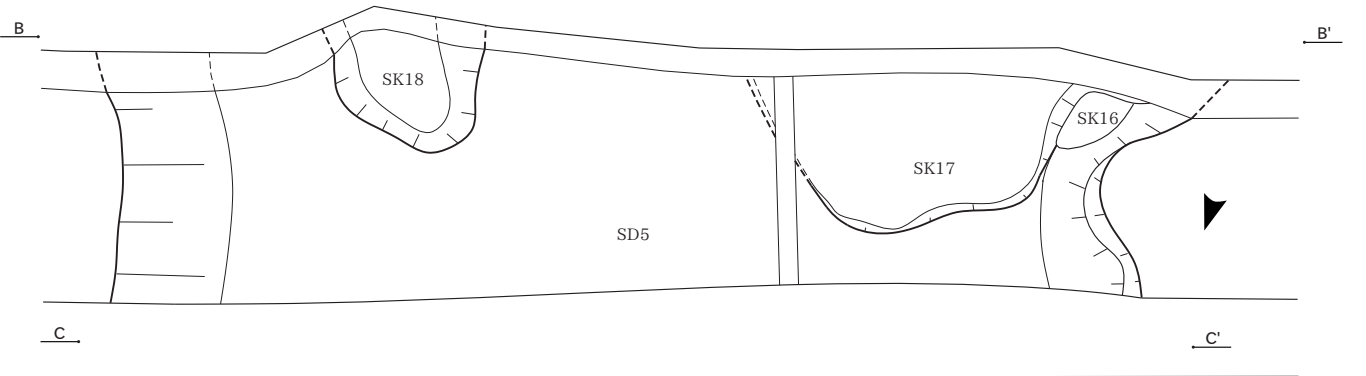
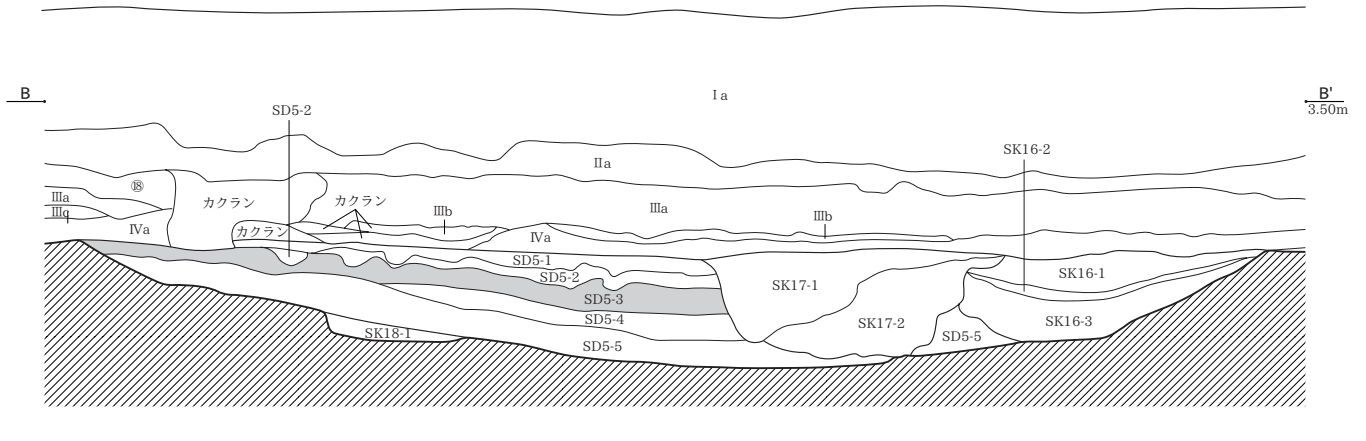


SD12
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまりあり。炭化物粒少混。灰オリーブ色(5Y6/2)シルトブロック混入。
2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり。炭化物粒多混。
3 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり。
4 緑灰色シルト (10GY5/1) 粘性あり。3層のシルトブロック混入。

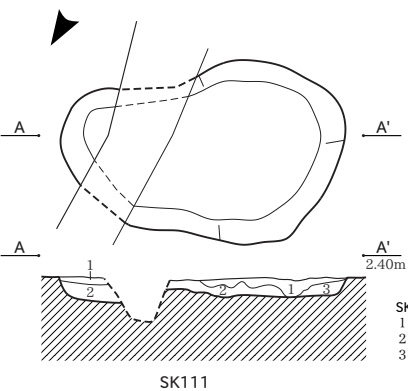


SD13
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり。
2 緑灰色シルト (10GY5/1) 粘性あり。1層のシルトブロック少混。

3区(SD5)



4区(SK・SD)



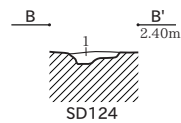
- SK111**
- | | | |
|-------------|------------|-----------------------|
| 1 黒色粘土 | (10YR1.7/) | IV b層と同質。V層シルトブロック少混。 |
| 2 暗オリーブ灰色粘土 | (5GY4/1) | 1層の粘土ブロックまだらに混入。 |
| 3 暗オリーブ灰色粘土 | (5GY4/1) | 水草の根混じる。 |

- SD5**
- | | | |
|---------|------------|---------------------------|
| 1 褐灰色粘土 | (10YR5/1) | しまりややあり。IVa層と似ているが、色調は暗い。 |
| 2 灰白色粘土 | (N7/1) | しまりなし。 |
| 3 黒色粘土 | (10YR1.7/) | しまりあり。IV b層と同質。 |
| 4 褐灰色粘土 | (10YR5/1) | 3層がラミナ状に混入。 |
| 5 黄灰色粘土 | (2.5Y6/1) | しまりなし。湧水激しい。 |
| 6 黄灰色粘土 | (2.5Y4/1) | しまりなし。湧水激しい。 |

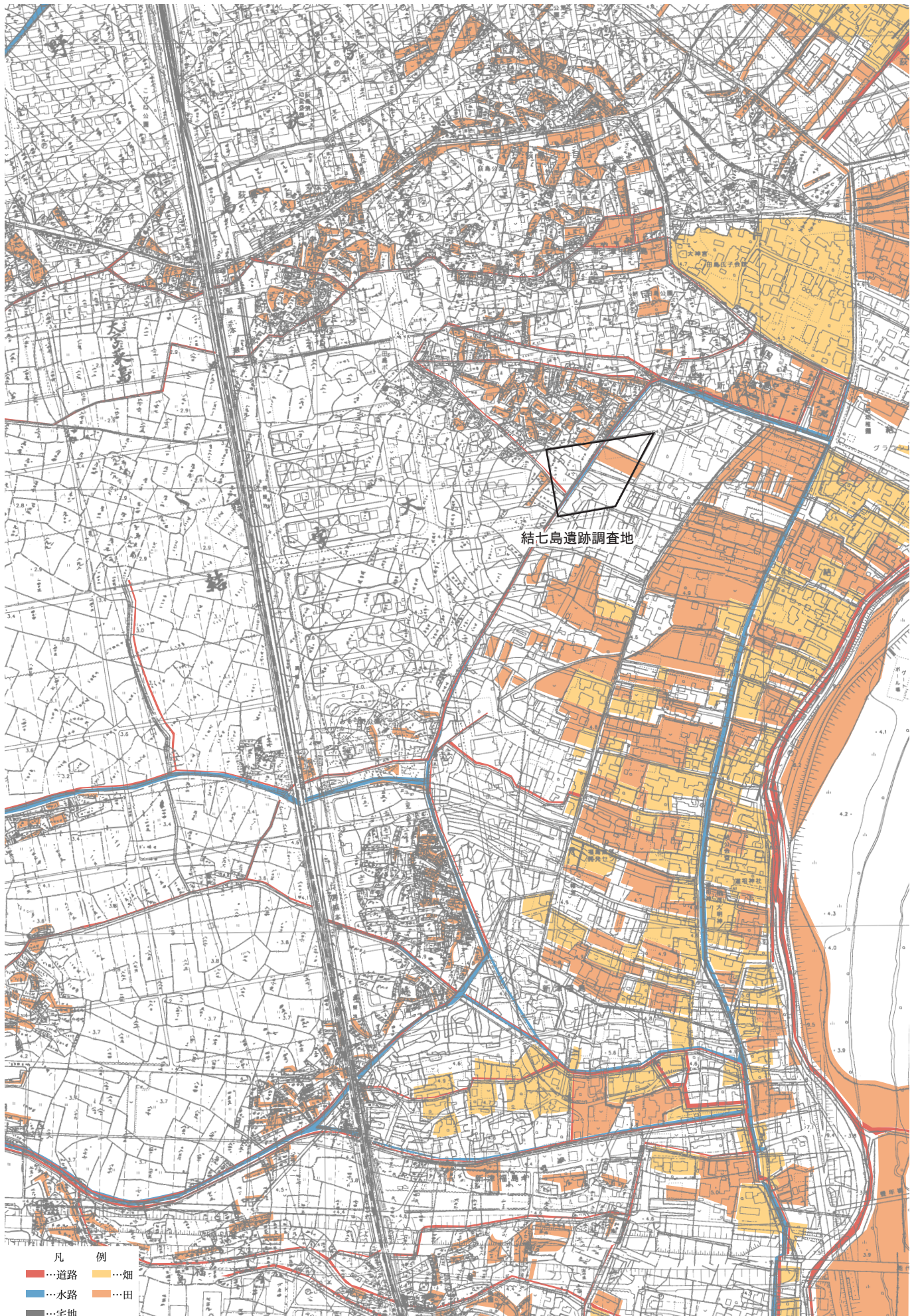
- SK16**
- | | | |
|---------|------------|---------|
| 1 褐灰色粘土 | (7.5YR4/1) | シルト多混。 |
| 2 黄灰色粘土 | (2.5Y6/1) | |
| 3 褐灰色粘土 | (7.5YR5/1) | ラミナ状堆積。 |

- SK17**
- | | | |
|---------|------------|------------------|
| 1 褐灰色粘土 | (7.5YR4/1) | シルト多混。 |
| 2 黄灰色粘土 | (2.5Y5/1) | V層シルトブロックまだらに混入。 |

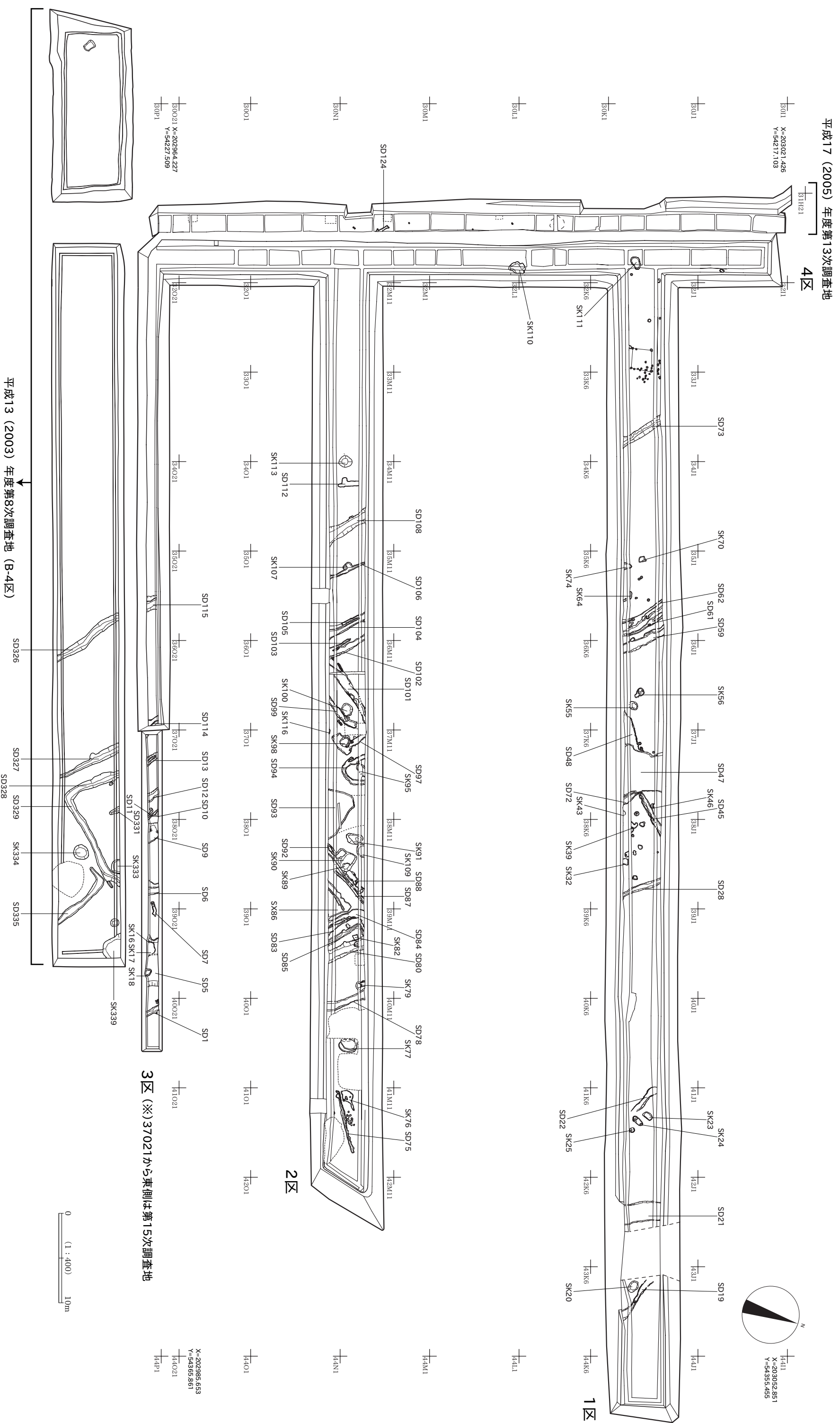
- SK18**
- | | | |
|----------|-----------|----------------|
| 1 暗黄灰色粘土 | (2.5Y4/2) | しまりなし。水草の根混じる。 |
|----------|-----------|----------------|

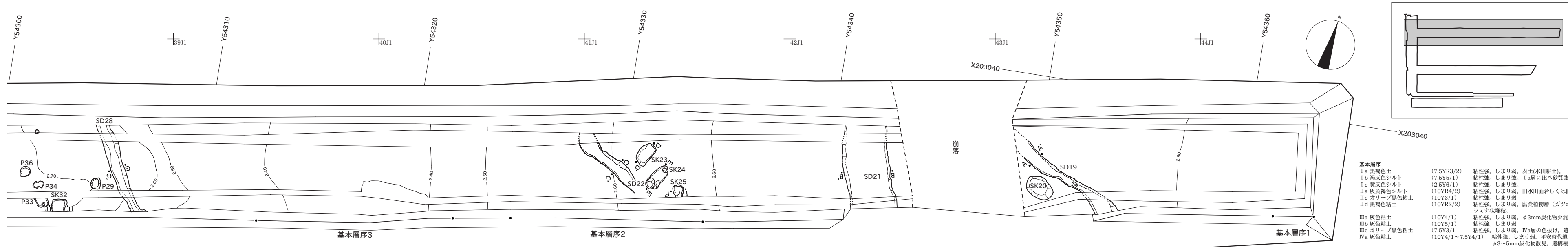


- SD124**
- | | | |
|--------|------------|------------------------|
| 1 黒色粘土 | (10YR1.7/) | しまりあり。水草の根少混。IV b層と同質。 |
|--------|------------|------------------------|

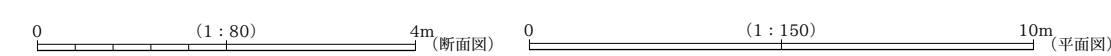
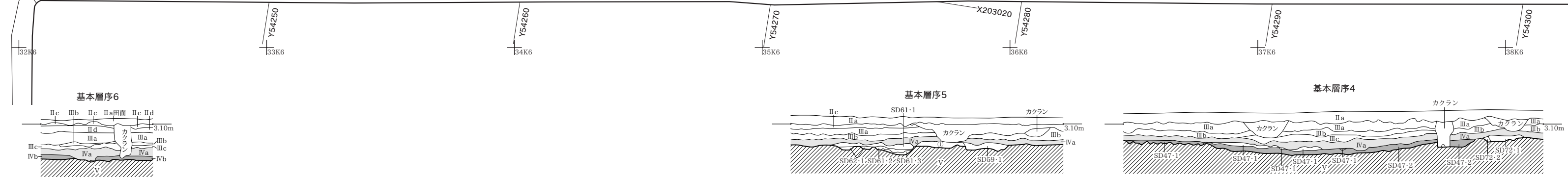
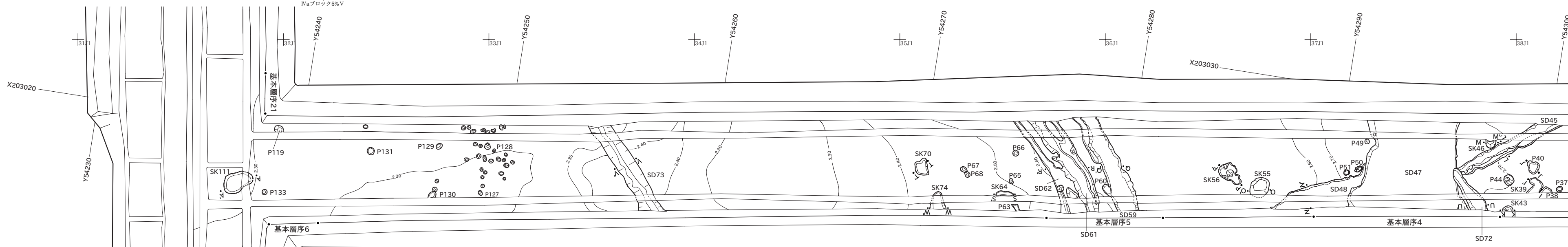
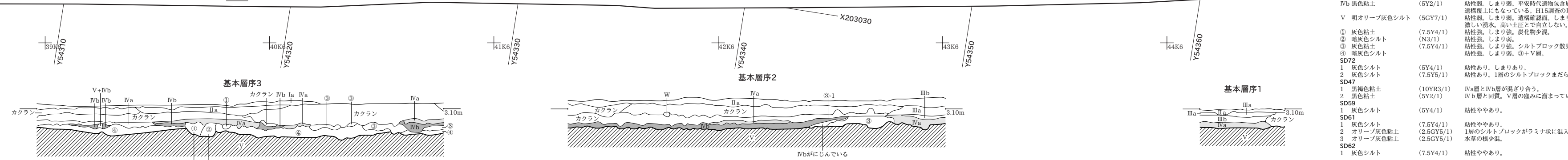


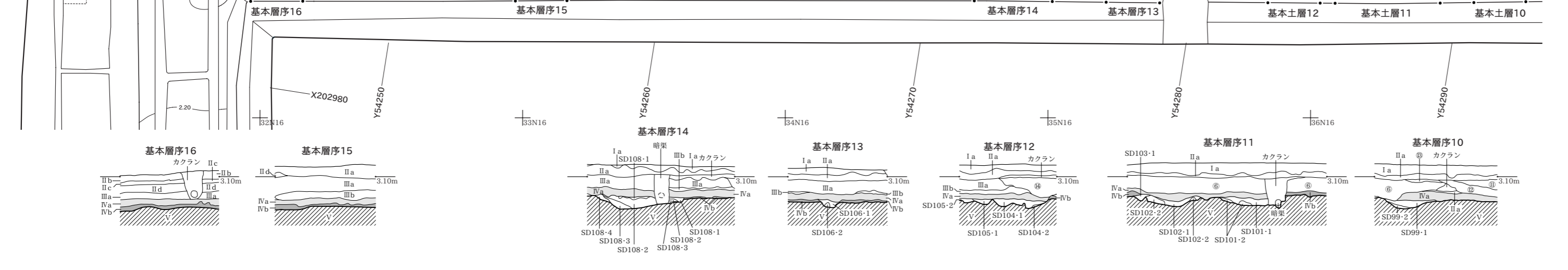
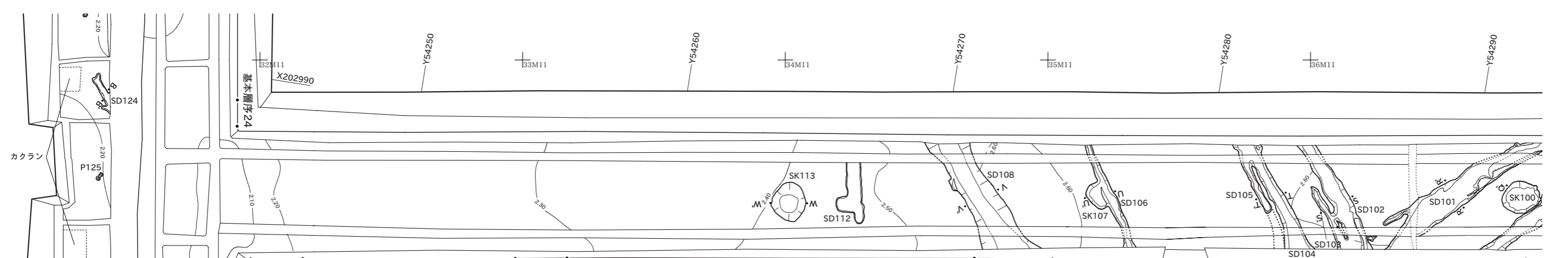
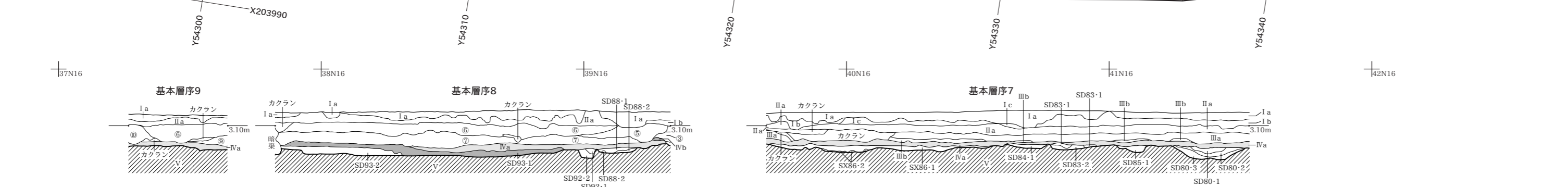
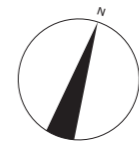
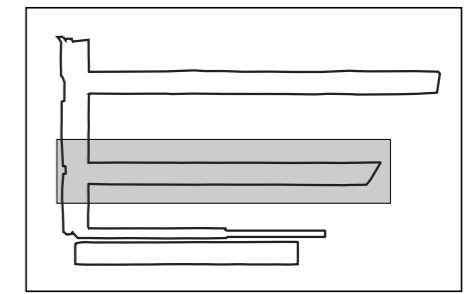
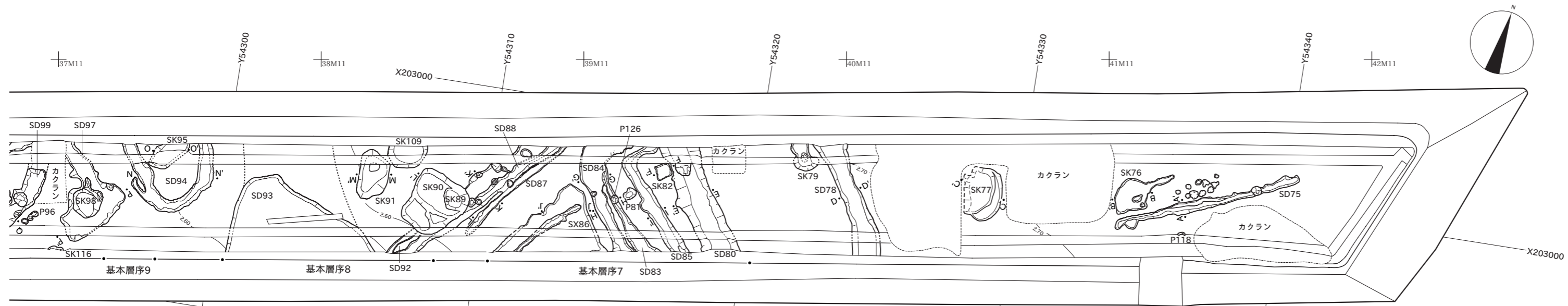
- 凡 例
- 道路 (Road)
 - 水路 (Waterway)
 - 宅地 (Residential land)
 - 畑 (Field)
 - 田 (Rice paddy)



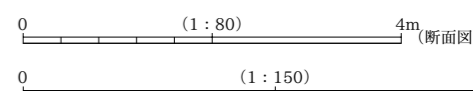


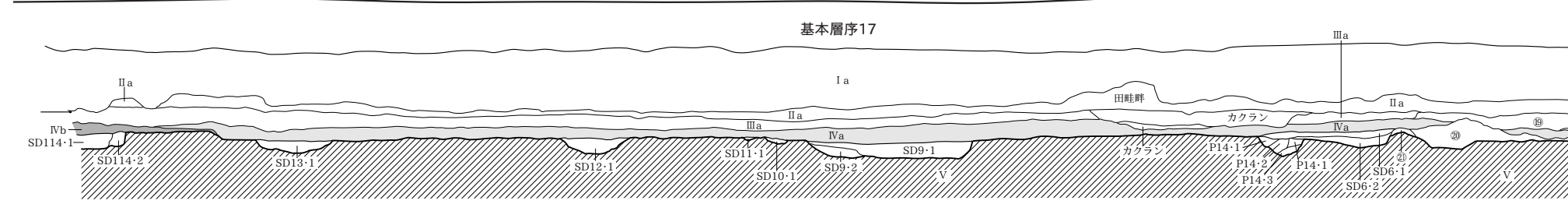
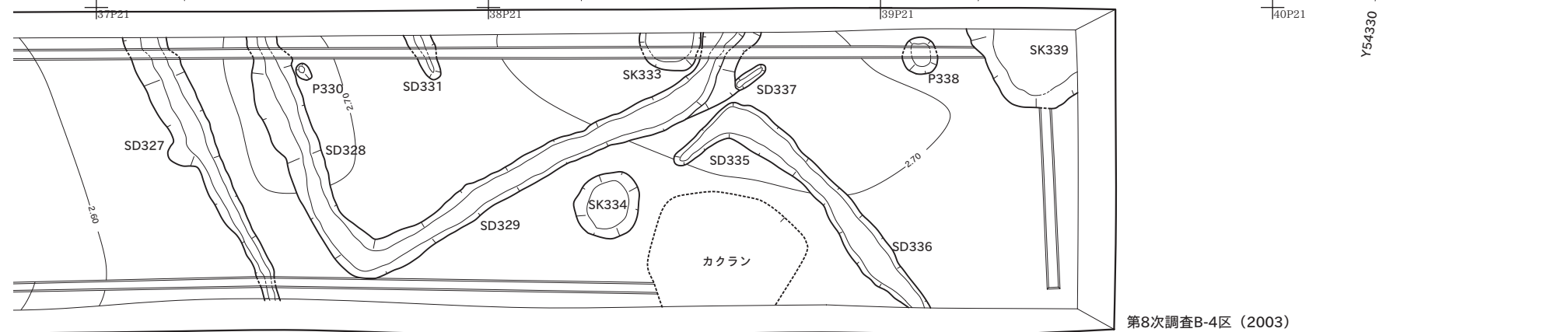
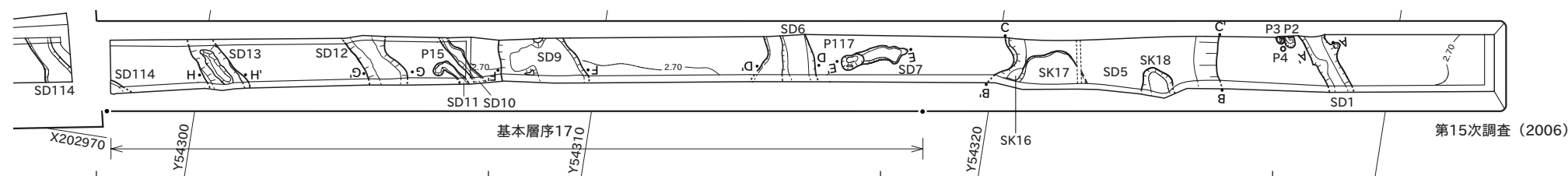
基本層序		
Ia	黒褐色土 (7.5YR3/2)	粘性強。しまり弱。表土(水田耕土)。
Ib	褐灰色シルト (7.5Y5/1)	粘性強。しまり強。Ia層に比べ砂質強い。
Ic	黄灰色シルト (2.5Y6/1)	粘性強。しまり強。
IIa	灰黄褐色シルト (10YR4/2)	粘性強。しまり弱。旧水田面若しくは旧畑耕土。
IIc	オリブ黒色粘土 (10Y3/1)	粘性強。しまり弱。
II d	黒褐色粘土 (10YR2/2)	粘性強。しまり弱。腐食植物層(ガツボ)、水草の根多混。ラミナ状堆積。
IIIa	灰色粘土 (10Y4/1)	粘性強。しまり弱。φ3mm炭化物少混。
IIIb	灰色粘土 (10Y5/1)	粘性強。しまり弱。
IIIc	オリブ黒色粘土 (7.5Y3/1)	粘性強。しまり弱。IVa層の色抜け。遺物は無い。
IVa	灰色粘土 (10Y4/1~7.5Y4/1)	粘性強。しまり弱。平安時代遺物包含層。φ3~5mm炭化物散見。遺構覆土はほとんどこの層。
IVb	黒色粘土 (5Y2/1)	粘性弱。しまり弱。平安時代遺物包含層。シルト質。遺構覆土にもなっている。H15調査のIV層にあたる。
V	明オリブ灰色シルト (5GY7/1)	粘性弱。しまり弱。遺構確認面。しまりが非常に弱いことと激しい湧水。高い土圧とで自立しない。
①	灰色粘土 (7.5Y4/1)	粘性強。しまり強。炭化物少混。
②	暗灰色シルト (N3/1)	粘性強。しまり弱。
③	灰色粘土 (7.5Y4/1)	粘性強。しまり強。シルトブロック散見。搬入土。
④	暗灰色シルト	粘性強。しまり弱。③+V層。
SD72	1 灰色シルト (5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。
	2 灰色シルト (7.5Y5/1)	粘性あり。1層のシルトブロックまだらに混入。
SD47	1 黒褐色粘土 (10YR3/1)	IVa層とIVb層が混ざり合う。
	2 黒色粘土 (5Y2/1)	IVb層と同質。V層の底みに溜まっている。
SD59	1 灰色シルト (5Y4/1)	粘性ややあり。
SD61	1 灰色シルト (7.5Y4/1)	粘性ややあり。
	2 オリブ灰色粘土 (2.5GY5/1)	1層のシルトブロックがラミナ状に混入。
	3 オリブ灰色粘土 (2.5GY5/1)	水草の根少混。
SD62	1 灰色シルト (7.5Y4/1)	粘性ややあり。





基本層序	土質	色	粘性	特徴
I a	黒褐色土	(7.5YR3/2)	粘性強、しまり弱。	表土(水田耕土)。
I b	褐灰色シルト	(7.5Y5/1)	粘性強、しまり強。	I a層に比べ砂質強い。
I c	黄灰色シルト	(2.5Y6/1)	粘性強、しまり強。	
II a	灰黄褐色シルト	(10YR4/2)	粘性強、しまり弱。	旧水田面若しくは旧畑耕土。
II b	灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性強、しまり弱。	旧水田面若しくは旧畑耕土。炭化物多く入る。
II c	オリーブ黒色粘土	(10Y3/1)	粘性強、しまり弱。	
II d	黒褐色粘土	(10YR2/2)	粘性強、しまり弱。	腐食植物層(ガツボ)。水草の根多量。ラミナ状堆積。
III a	灰色粘土	(10Y4/1)	粘性強、しまり弱。	φ3mm炭化物少量。
III b	灰色粘土	(10Y5/1)	粘性強、しまり強。	
IV a	灰色粘土	(10Y4/1~7.5Y4/1)	粘性強、しまり弱。	平安時代遺物包含層。φ3~5mm炭化物散見。遺構覆土はほとんどこの層。
IV b	黒色粘土	(5Y2/1)	粘性弱、しまり弱。	平安時代遺物包含層。シルト質。遺構覆土にもなっている。H15調査のIV層にあたる。
V	明オリーブ灰色シルト	(5GY7/1)	粘性弱、しまり弱。	遺構確認面。しまりが非常に弱いこと激しい湧水。高い土丘とで自立しない。
⑤	暗褐色シルト	(10YR3/4)	粘性強、しまり強。	金気の地下水で赤化。
⑥	灰色粘土	(10Y4/1)	粘性強、しまり弱。	金気の地下水で赤化。φ5mm炭化物散見。
⑦	灰褐色シルト	(10YR4/2)	粘性強、しまり弱。	金気の地下水で赤化。
⑧	暗黄褐色粘土	(2.5GY4/2)	粘性強、しまり弱。	水草の根多量。
⑨	暗オリーブ灰色粘土	(2.5GY3/1)	粘性強、しまり弱。	φ3mm炭化物少量。シルトブロック散見。
⑩	暗オリーブ灰色シルト	(5GY3/1)	粘性強、しまり弱。	
⑪	オリーブ黒色シルト	(10Y3/1)	粘性強、しまり弱。	
⑫	灰色粘土	(10Y5/1)	粘性弱、しまり弱。	
SD80	1 黒色シルト	(7.5Y1.7/1)	粘土混。粘性あり。しまりあり。	
	2 黒褐色シルト	(10YR3/1)	粘土混。粘性あり。しまりあり。	
	3 暗オリーブ灰色シルト	(5Y4/1)	粘土混。粘性あり。しまりあり。	水草の根多量。
SD85	1 黒褐色シルト	(10YR3/1)	粘土混。しまりなし。	
SD83	1 灰色粘土	(7.5Y4/1)	しまりややあり。シルト混。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	V層に1層シルトブロック少量。	
SD84	1 灰色粘土	(7.5Y4/1)	しまりややあり。シルト混。	
SX86	1 黒褐色シルト	(10YR3/1)	粘性あり。しまりなし。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY6/1)	1層のシルトブロック少量。	
SD88	1 灰色シルト-オリーブ黒色シルト	(5Y4/1~5Y3/1)	粘性あり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(2.5GY4/1)	1層のシルトブロック少量。	
SD92	1 灰色シルト-オリーブ黒色シルト	(5Y4/1~5Y3/1)	粘性あり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(2.5GY4/1)	1層のシルトブロック多量。	
SD93	1 黒色粘土	(5Y2/1)	IVb層と同質。	
	2 黒褐色粘土	(10YR3/1)	粘性強。しまり強。	水草の根多量。
SD99	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりなし。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	1層のシルトブロック少量。	
SD101	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少量。	
SD102	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少量。	
SD103	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
SD104	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少量。	
SD105	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少量。	
SD106	1 灰色シルト	(7.5Y4/1)	粘性あり。しまりあり。	
	2 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。しまりなし。1層のシルトブロック少量。	
SD108	1 黒色シルト	(10YR1.7/1)	粘性あり。しまりあり。	IVb層と同質。
	2 黒褐色シルト	(10YR3/1)	粘性あり。しまりなし。	
	3 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性ややあり。1層のシルトブロック少量。	
	4 暗オリーブ灰色シルト	(5GY4/1)	粘性あり。	





基本層序

Ia	黒褐色土 (7.5YR3/2)	粘性強。しまり弱。表土(水田耕土)。
Ib	褐灰色シルト (7.5Y5/1)	粘性強。しまり強。Ia層に比べ砂質強い。
IIa	灰黄褐色シルト (10YR4/2)	粘性強。しまり弱。旧水田面若しくは旧畑耕土。炭化物多く入る。
IIb	灰色シルト (7.5Y4/1)	粘性強。しまり弱。旧水田面若しくは旧畑耕土。炭化物多く入る。
IIc	黒褐色粘土 (10YR2/2)	粘性強。しまり弱。腐食植物層(ガツボ)。水草の根多混。ラミナ状堆積。
IId	黒褐色粘土 (10YR2/2)	粘性強。しまり弱。腐食植物層(ガツボ)。水草の根多混。ラミナ状堆積。
IIe	褐色粘土 (10YR4/1)	粘性強。しまり弱。水草の根多混。ラミナ状堆積。
IIIa	灰色粘土 (10Y4/1)	粘性強。しまり弱。φ3mm炭化物少混。
IVa	灰色粘土 (10Y4/1~7.5Y4/1)	粘性強。しまり弱。平安時代遺物包含層。φ3~5mm炭化物散見。遺構覆土はほとんどこの層。
IVb	黒色粘土 (5Y2/1)	粘性弱。しまり弱。平安時代遺物包含層。シルト質。遺構覆土にもなっている。H15調査のIV層にあたる。
V	明オリブ灰色シルト (5GY7/1)	粘性弱。しまり弱。遺構確認面。しまりが非常に弱いことと激しい湧水。高い土庄とで自立しない。

① 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性弱。しまり強。
 ② 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性強。しまり弱。
 ③ 褐色シルト (10YR6/1) 粘性弱。しまり弱。IVaと①が混ざり合う。

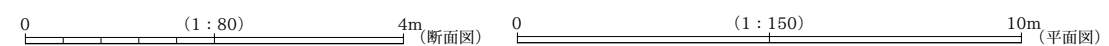
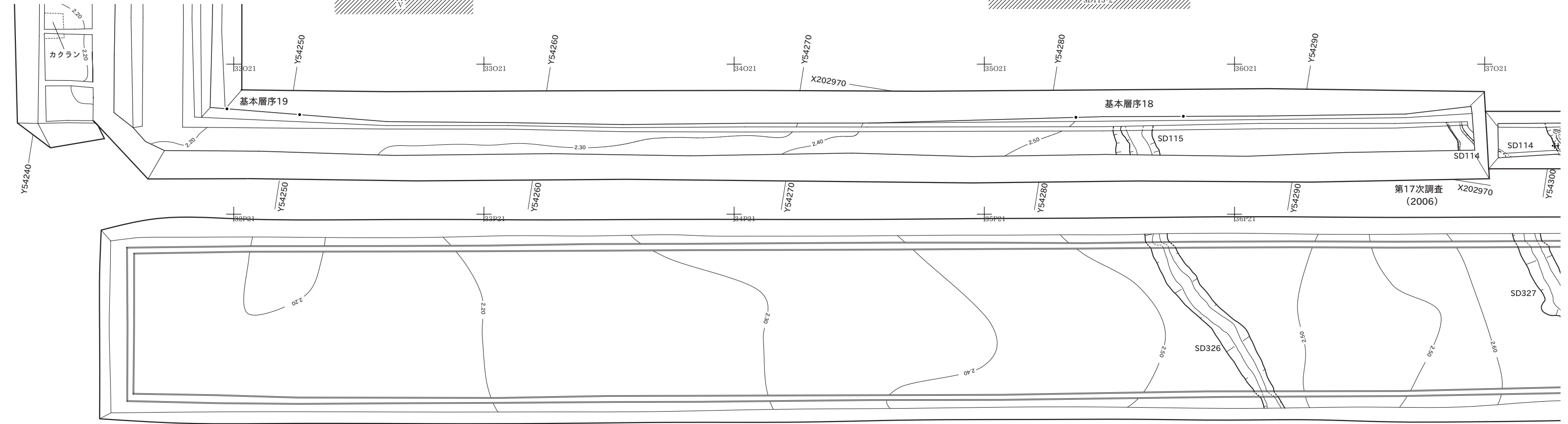
SD6
 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) しまりややあり。
 2 暗オリブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層の粘土ブロック多混。

P14
 1 暗オリブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性あり。1層の粘土ブロック多混。
 2 褐色粘土 (10YR5/1) しまりややあり。IVa層と似ているが、色調は暗い。
 3 暗オリブ灰色シルト (5GY4/1) 粘性ややあり。1層のシルトブロック少混。

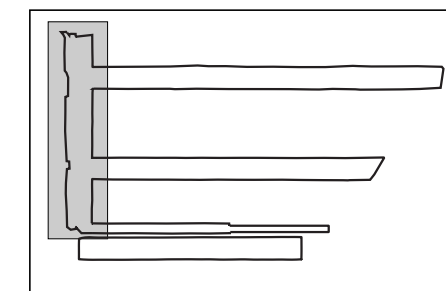
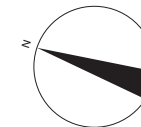
SD9
 1 黒色シルト (10YR1.7/) 粘性あり。しまりあり。
 2 暗黄褐色シルト (2.5Y5/2) 粘性あり。しまりあり。

SD10
 1 褐色粘土 (10YR5/1) IVa層と同じ。
 SD11
 1 褐色粘土 (10YR5/1) IVa層と同じ。
 SD12
 1 褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまりあり。炭化物粒少混。灰オリブ色(5Y6/2)シルトブロック混入。

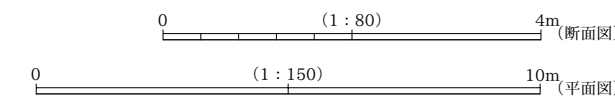
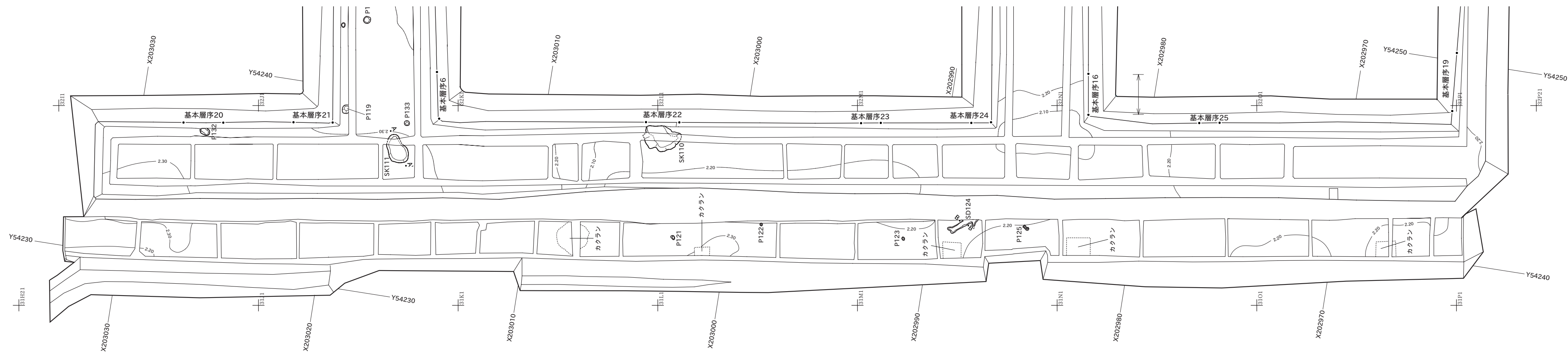
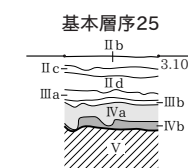
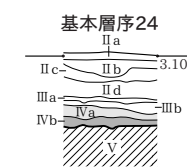
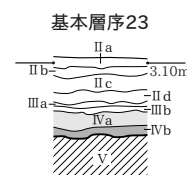
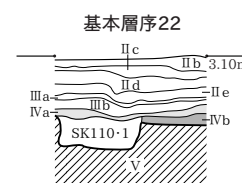
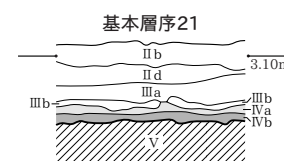
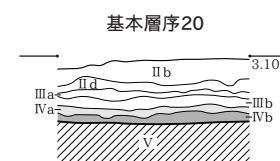
SD13
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり。
 SD114
 1 褐色粘土 (10YR5/1) IVa層と同じ
 2 褐色粘土 (10YR6/1) 1層にV層が混ざる
 SD115
 1 褐色粘土 (10YR5/1) IVa層と同じ
 2 黒色粘土 (10YR1.7/) しまりあり。IVb層と同質。
 3 緑灰色シルト (10GY5/1) 粘性あり。1層のシルトブロック少混。

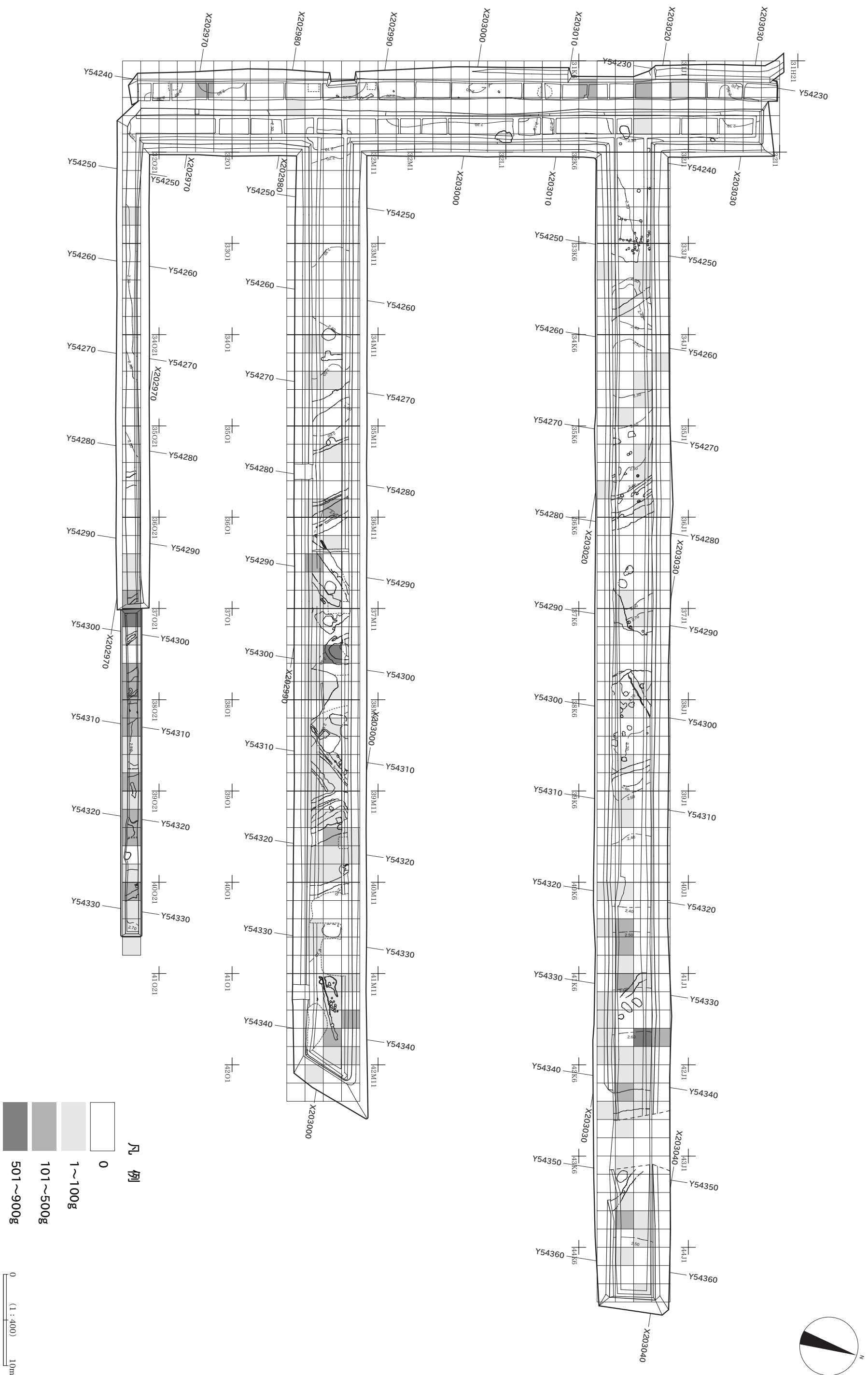


第8次調査 B-4区 (2003)

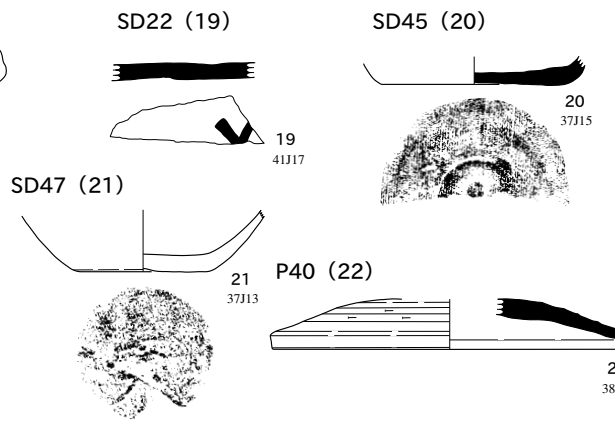
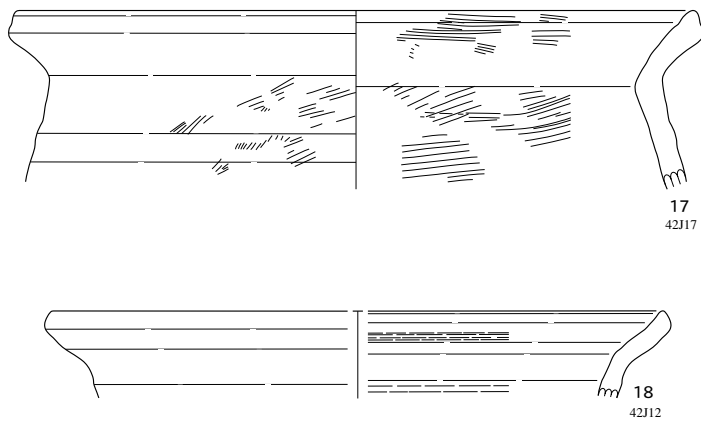
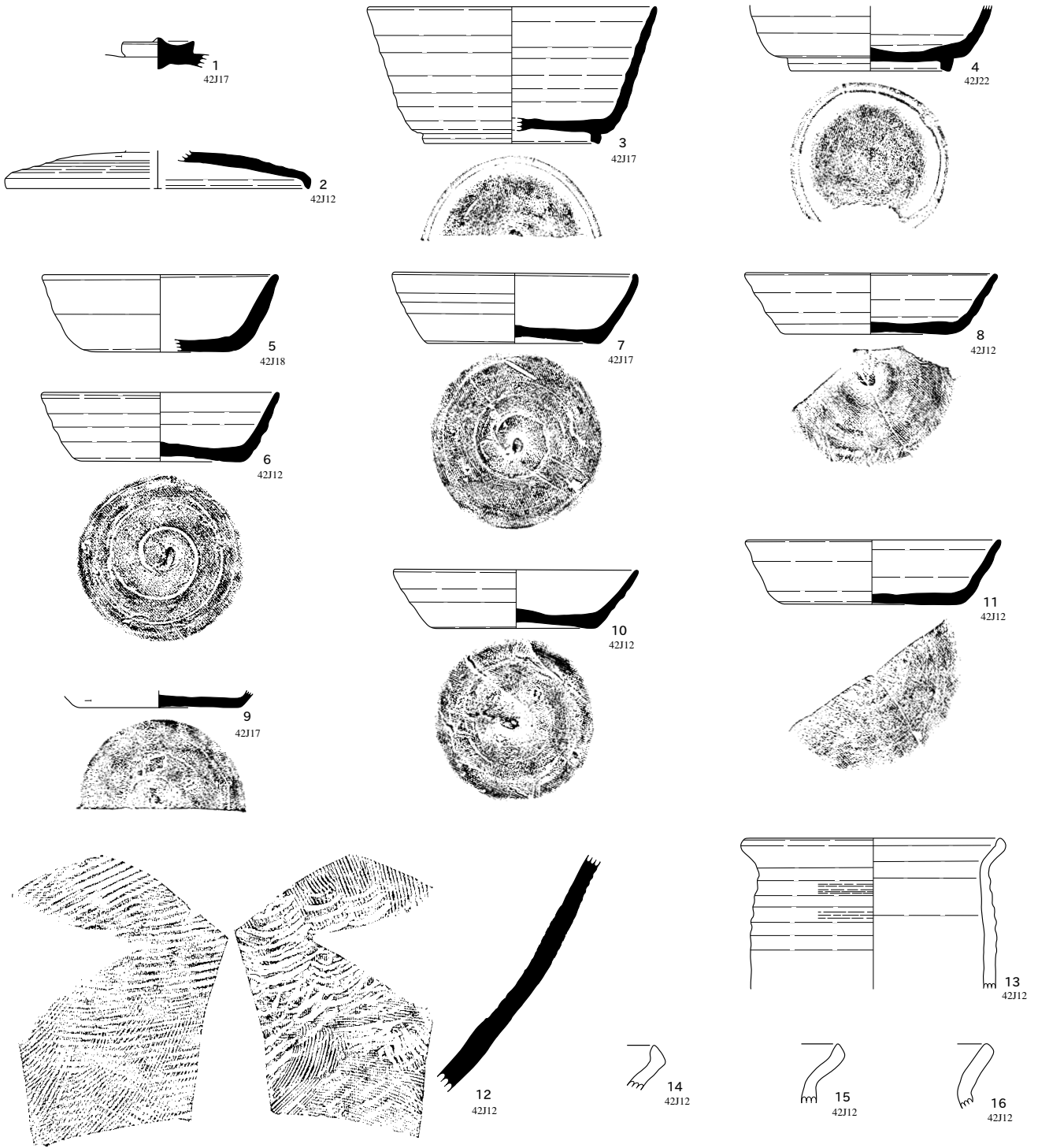


- 基本層序**
- IIa 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強。しまり弱。旧水田面若しくは旧畑耕土。
 - IIb 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性強。しまり弱。旧水田面若しくは旧畑耕土。炭化物多く入る。
 - IIc オリーブ黒色粘土 (10Y3/1) 粘性強。しまり弱。
 - IIc 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘性強。しまり弱。腐食植物層(ガツボ)。水草の根多量。ラミナ状堆積。
 - IIe 褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強。しまり弱。水草の根多量。ラミナ状堆積。
 - IIIa 灰色粘土 (10Y4/1) 粘性強。しまり弱。φ3mm炭化物少量。
 - IIIb 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性強。しまり弱。
 - IVa 灰色粘土 (10Y4/1~7.5Y4/1) 粘性強。しまり弱。平安時代遺物包含層。φ3~5mm炭化物散見。遺構覆土はほとんどの層。
 - IVb 黒色粘土 (5Y2/1) 粘性弱。しまり弱。平安時代遺物包含層。シルト質。遺構覆土にもなっている。H15調査のIV層にあたる。
 - V 明オリーブ灰色シルト (6GY7/1) 粘性弱。しまり弱。遺構確認面。しまりが非常に弱いことと激しい湧水、高い土圧とで自立しない。
- SK110**
1 灰色シルト (10Y4/1) しまりなし。灰色粘土(7.5Y6/1)粘土ブロック多量。



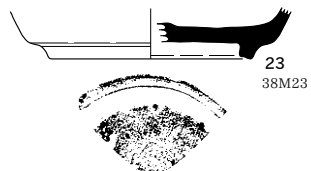


SD21 (1~18)

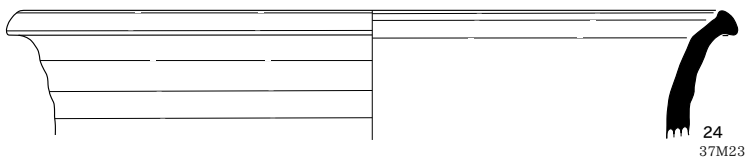


0 15cm (1:3)

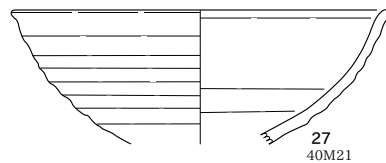
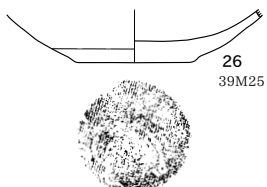
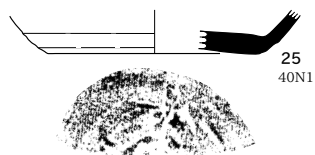
SK89 (23)



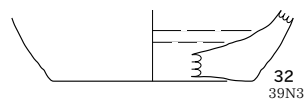
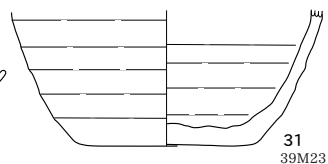
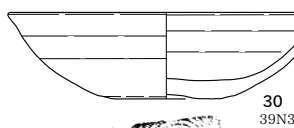
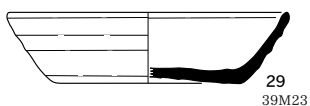
SK95 (24)



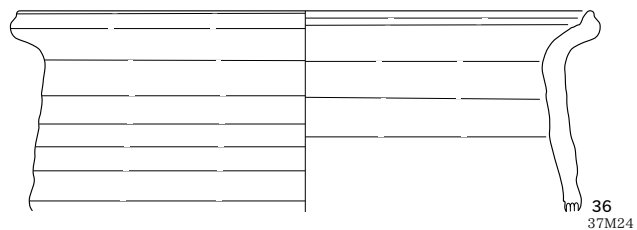
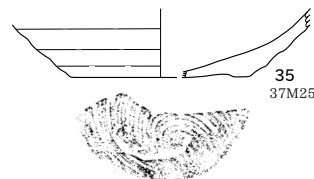
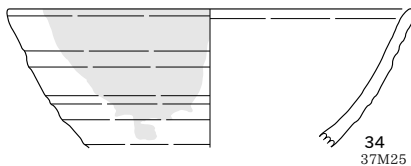
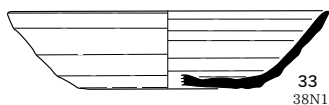
SD78 (25~27)



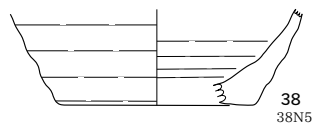
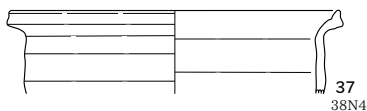
SD80 (28~32)



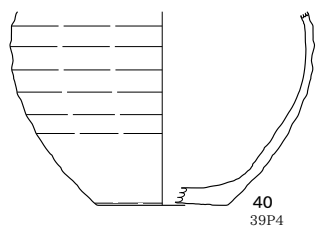
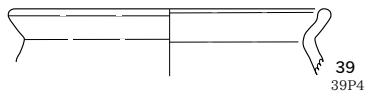
SD93 (33~36)



SX86 (37・38)



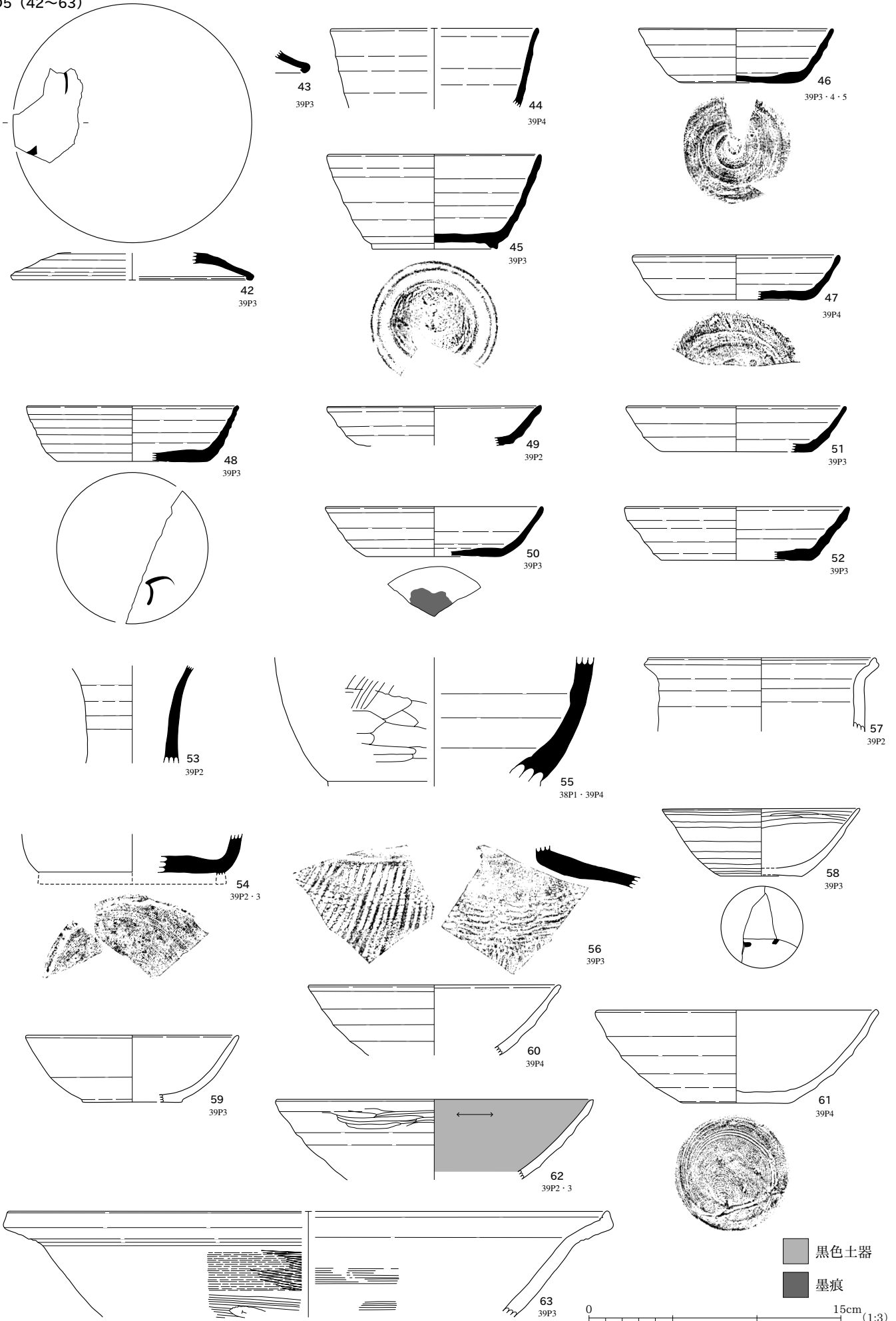
SK18 (39~41)



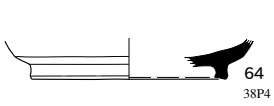
赤彩

0 15cm (1:3)

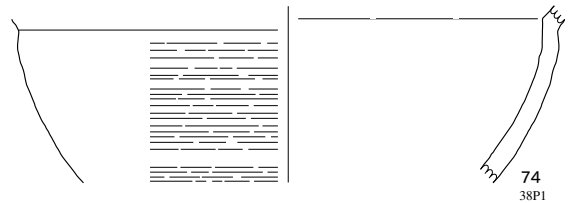
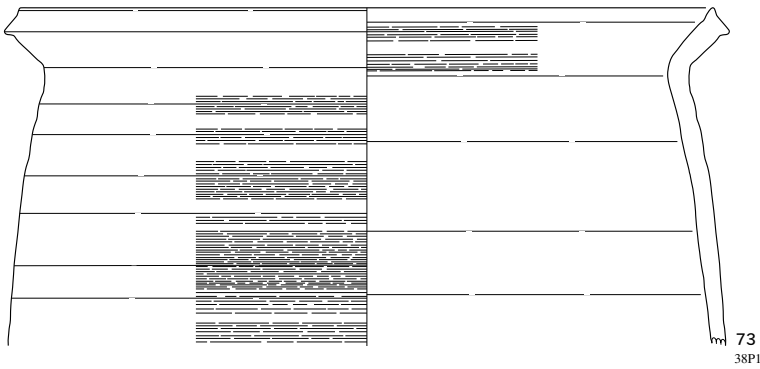
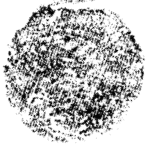
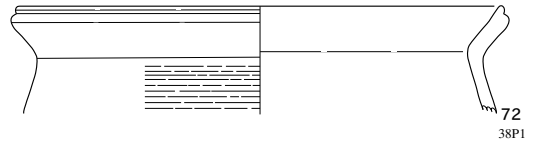
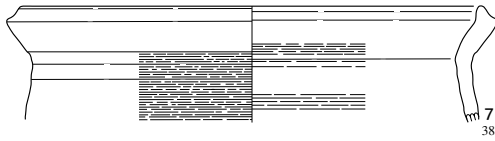
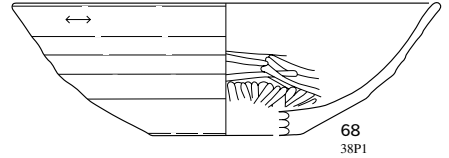
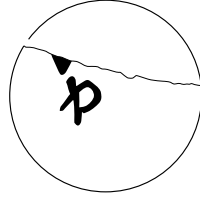
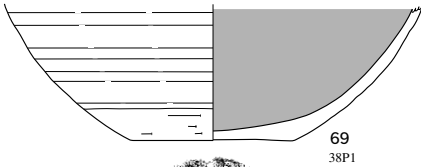
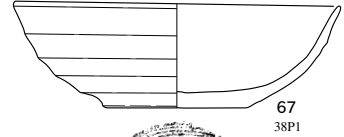
SD5 (42~63)



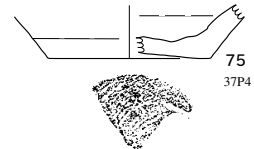
SD6 (64)



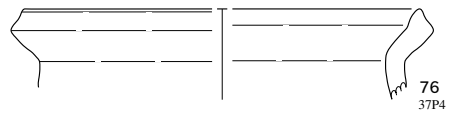
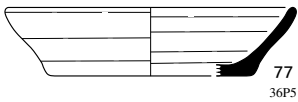
SD9 (65~74)



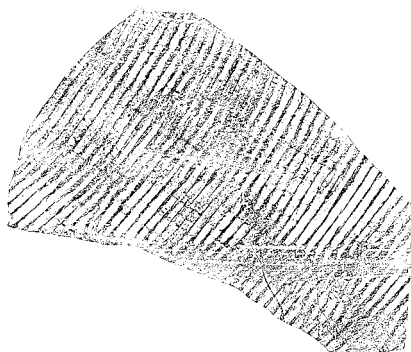
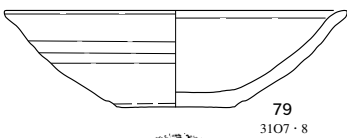
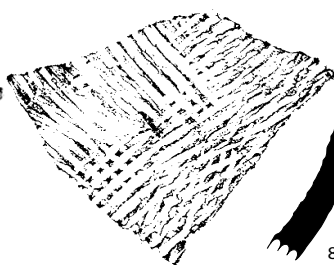
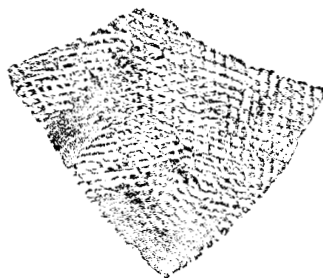
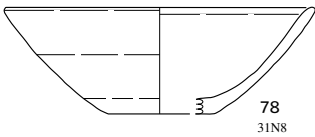
SD12 (75・76)



SD114 (77)

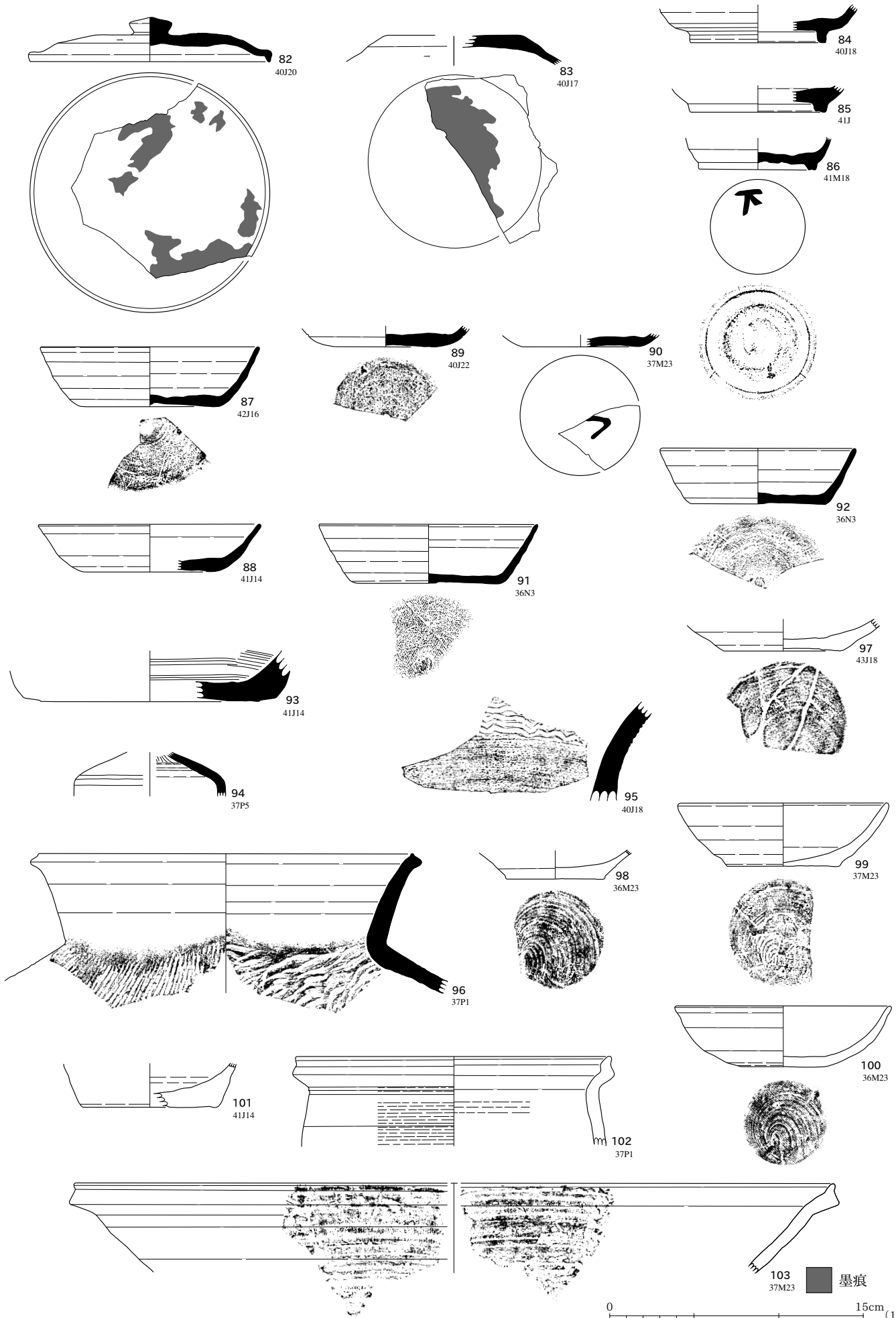


第13次調査包含層出土遺物 (78~81)

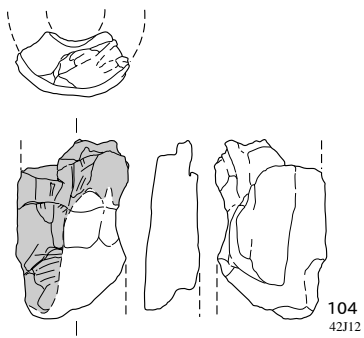


■ 黒色土器



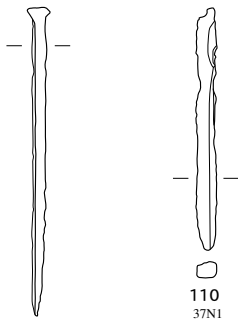


鍛冶関連遺物
SD21 (104)



104
42J12

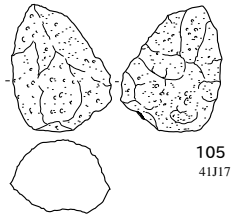
鉄製品
SK98 (109・110)



109
37N1

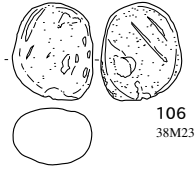
110
37N1

軽石
SD22 (105)



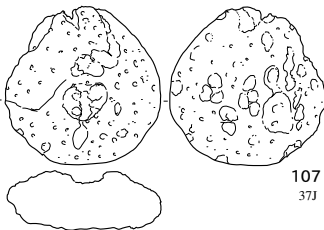
105
41J17

SK89 (106)



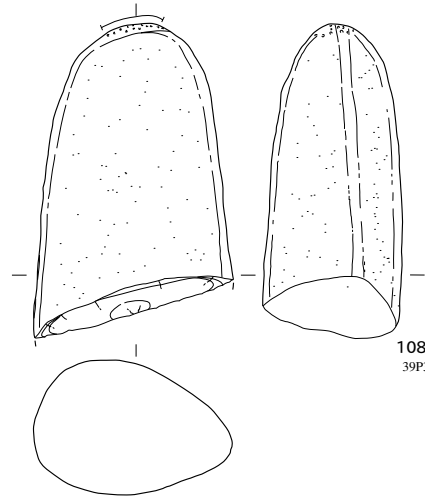
106
38M23

軽石
包含層



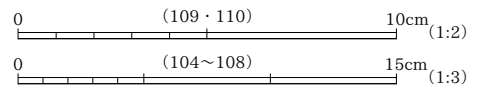
107
37J

石製品
SD5 (108)



108
39P3

被熱痕





結七島遺跡 周辺空中写真1

米軍撮影1948年9月



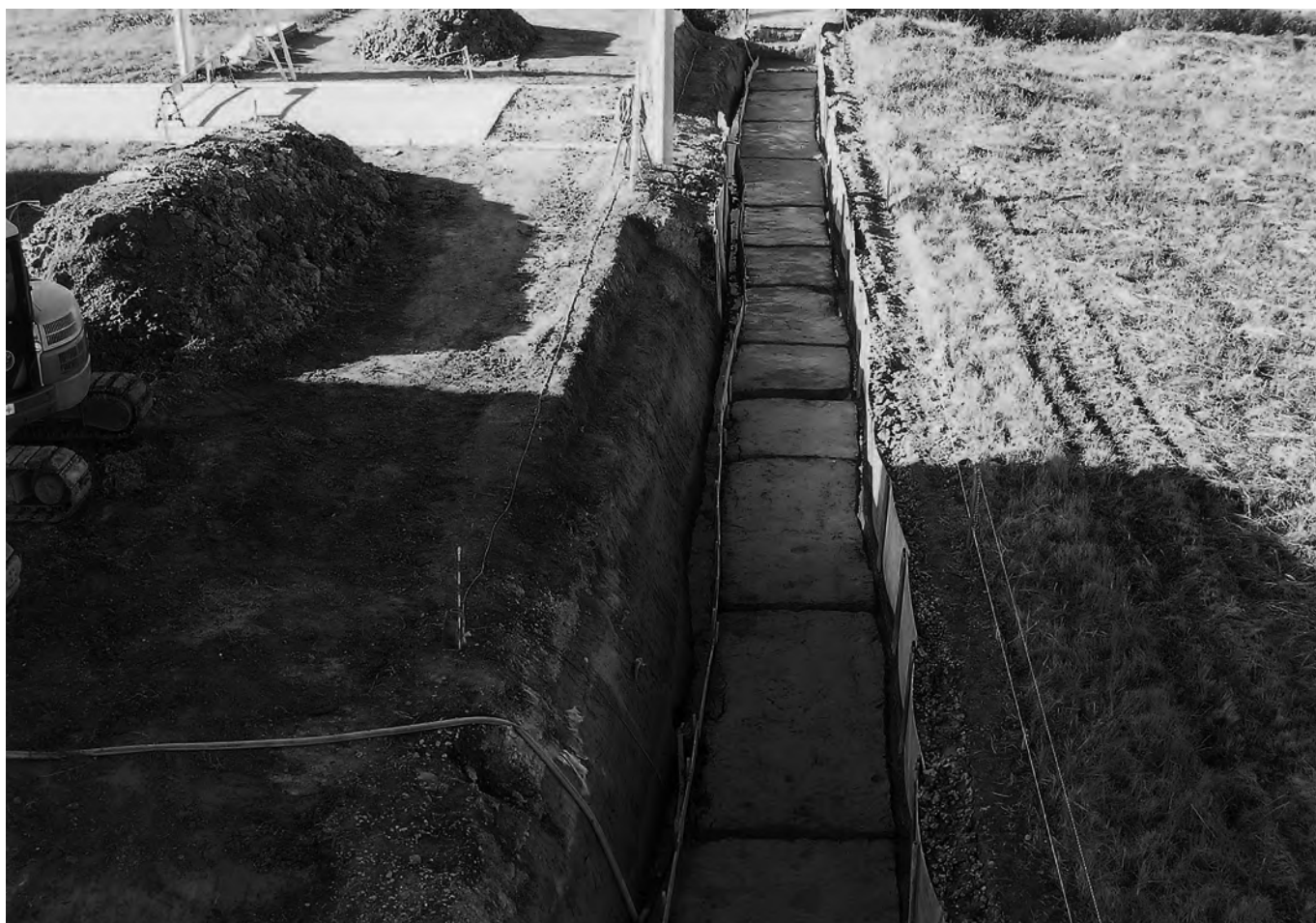
3区完掘状況1（東から）第15次調査地



3区完掘状況2（東から）第17次調査地



4区完堀状況1（北から）第17次調査地



4区完堀状況2（南から）第13次調査地



1区基本層序1（北から）



1区基本層序6（北から）



SD19 土層断面（南から）



SK20・SD19 完掘（南から）



SK23 土層断面（北から）



SK25 土層断面（北から）



SD22 土層断面（北から）



SK25・SK24・SK23・SD22 完掘（北から）



SD28 土層断面 (北から)



SK32 土層断面 (北から)



SD28・P29・SK32・P34 完掘 (北から)



SK39 土層断面 (北から)



SK43 土層断面 (北から)



P29・SK32・P34・P37・P38・SK39・P40・SK43 完掘 (北から)



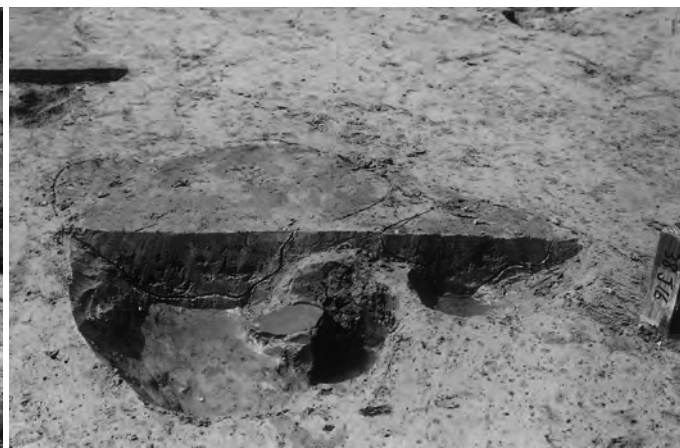
SK46 土層断面 (南から)



SD45 土層断面 (北東から)



SD72 土層断面 (北から)



P40 土層断面 (東から)



P40・SD45・SK46・SD72 完掘 (北から)



SK56 完掘 (東から)



SK55 土層断面 (北から)



SK55 完掘 (北から)



SK74 完掘 (北から)



SD47 完掘 (北から)



SD21 土層断面 (北から)



SD21 完掘 (北から)



SD48 土層断面 (東から)



SD48 完掘 (東から)



SD59・P60・SD61・SD62 土層断面 (北から)



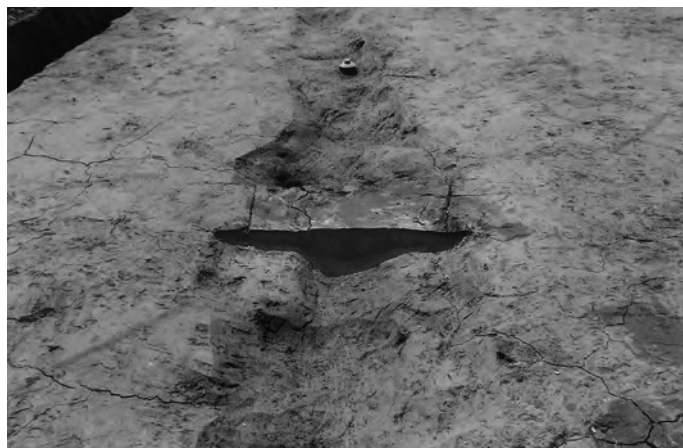
SD59・P60・SD61・SD62 完掘 (北から)



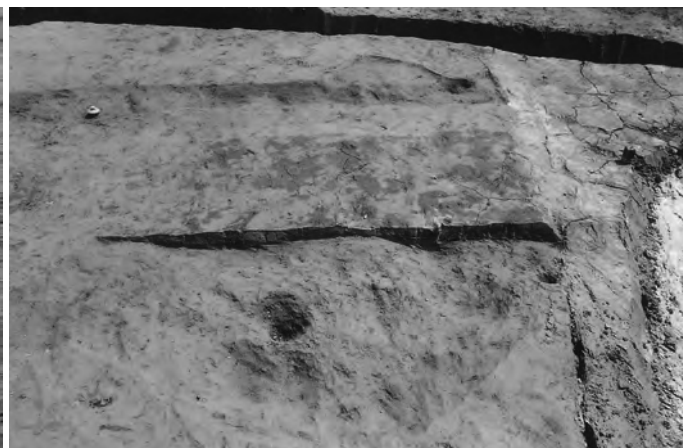
SD73 土層断面 (北から)



SD73 完掘 (北から)



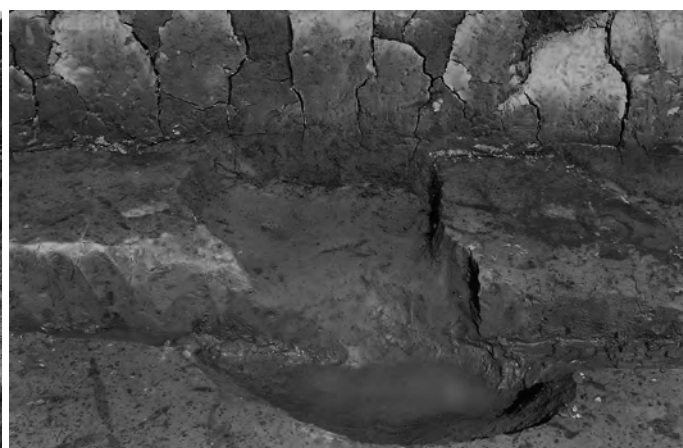
SD75 土層断面 (東から)



SK76 土層断面 (北から)



SD75・SK76 完掘 (東から)



SK79 完掘 (南から)



SK77 土層断面 (北から)



SK77 完掘 (北から)



SD80 土層断面 (北から)



SD80・P81・SK82・SD83・SD84・SD85 土層断面 (北から)



SD80・P81・SK82・SD83・SD84・SD85完掘1(北から)



SD80・SK82・SD83・P81・SD84・SD85完掘2(北から)



SD88・SK89・SK90土層断面(北から)



SD87・SD88・SK89・SK90・SD92完掘(北から)



SK91土層断面(北から)



SK91完掘(南から)



SD94・SK95土層断面(南から)



SD94・SK95完掘(南から)



SD97・SK98 土層断面 (北から)



SD97・SK98 完掘 (北から)



SD99・SK100 土層断面 (北から)



SD101 土層断面 (北から)



SD99・SK100・SD101 完掘 (北から)



SD106・SK107 土層断面 (北から)



SK113 土層断面 (北から)



SK113 完掘 (北から)



SD78 土層断面 (南から)



SD78 完掘 (南から)



SD102・SD103 土層断面 (北から)



SD104・SD105 土層断面 (北から)



SD102・SD103・SD104・SD105 完掘 (北から)



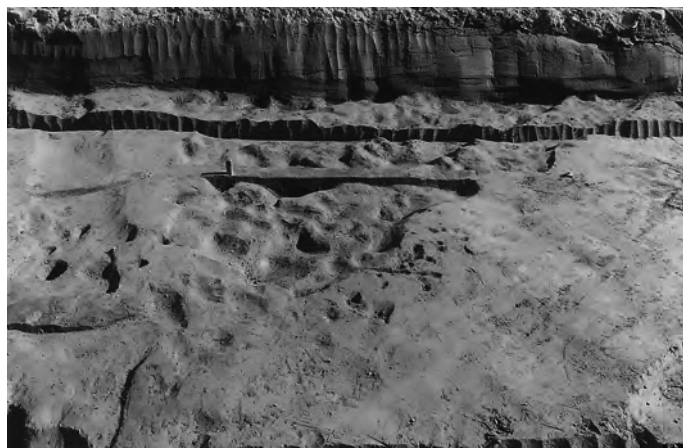
SD112 完掘 (北から)



SD108 土層断面 (北から)



SD108 完掘 (北から)



SX86 土層断面 (北から)



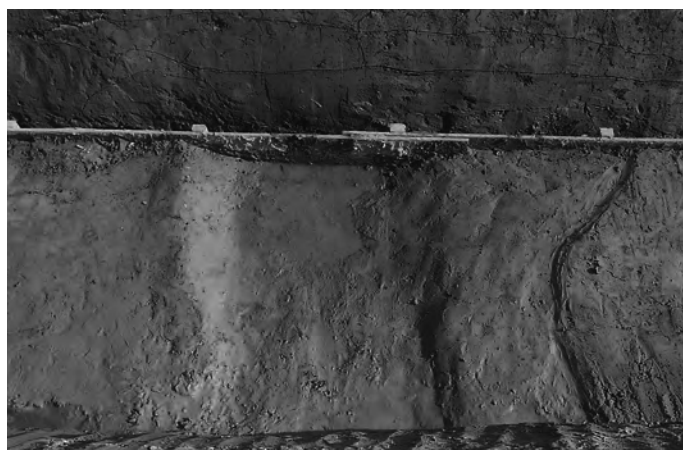
SX86 完掘 (北から)



SK18・SK17・SK16の断面とSD5完掘 (南から)



SD1・P2・P3・P4完掘 (北から)



SD6完掘 (北から)



SD10・SD11・P15完掘 (北から)



SD7・P117土層断面 (北から)



SD7・P117完掘 (北から)



SD9 土層断面（北から）



SD9 完掘（北から）



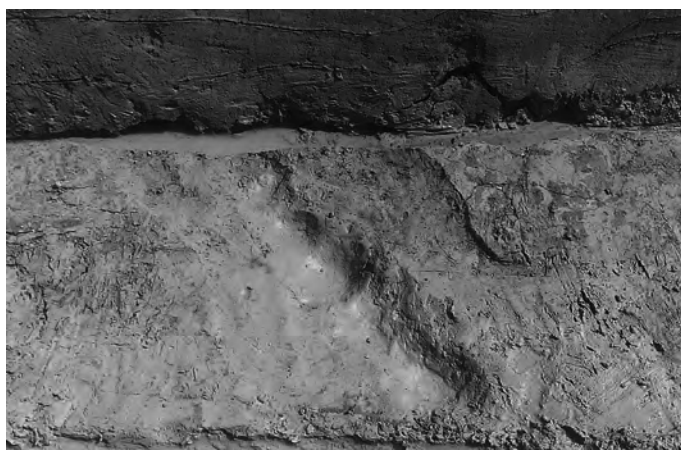
SD12 土層断面（北から）



SD12 完掘（北から）



SD13 土層断面（北から）



SD13 完掘（北から）



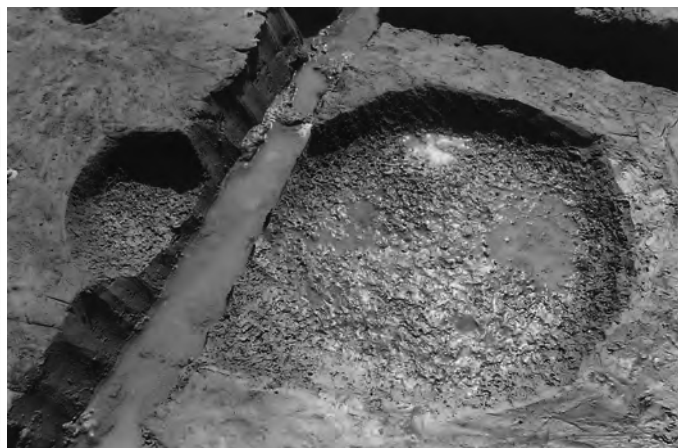
SD114 完掘（南西から）



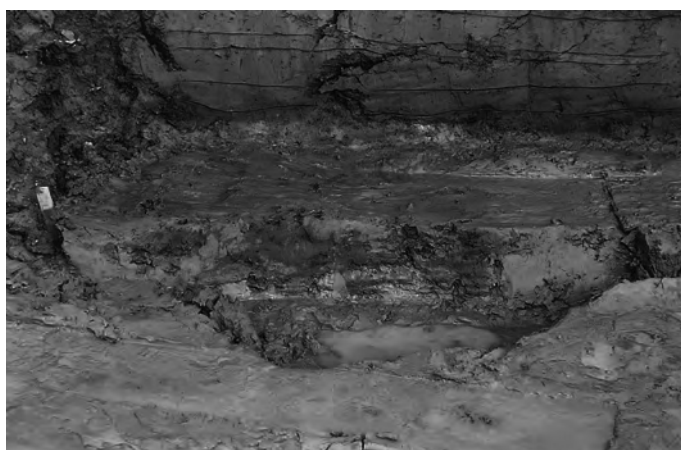
SD115 完掘（北から）



SK111 土層断面 (北から)



SK111 完掘 (北から)



SK110 土層断面 (西から)



SK110 完掘 (西から)



SD124 土層断面 (北西から)



SD124 完掘 (西から)



基本層序 23 (西から)



調査着手前状況 (北東から)



結七島遺跡 周辺空中写真2



結七島遺跡周辺空中写真（西から）第17次調査地



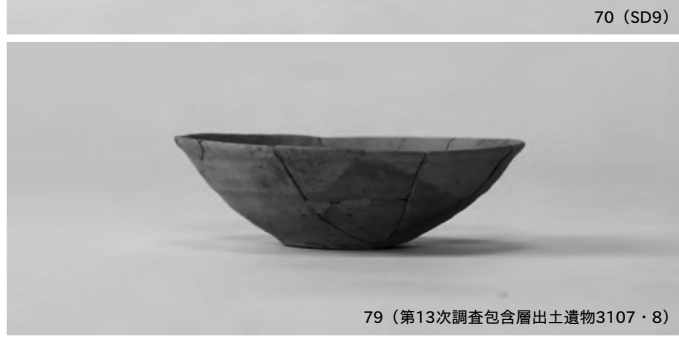
結七島遺跡全景空中写真（真上から）第17次調査地

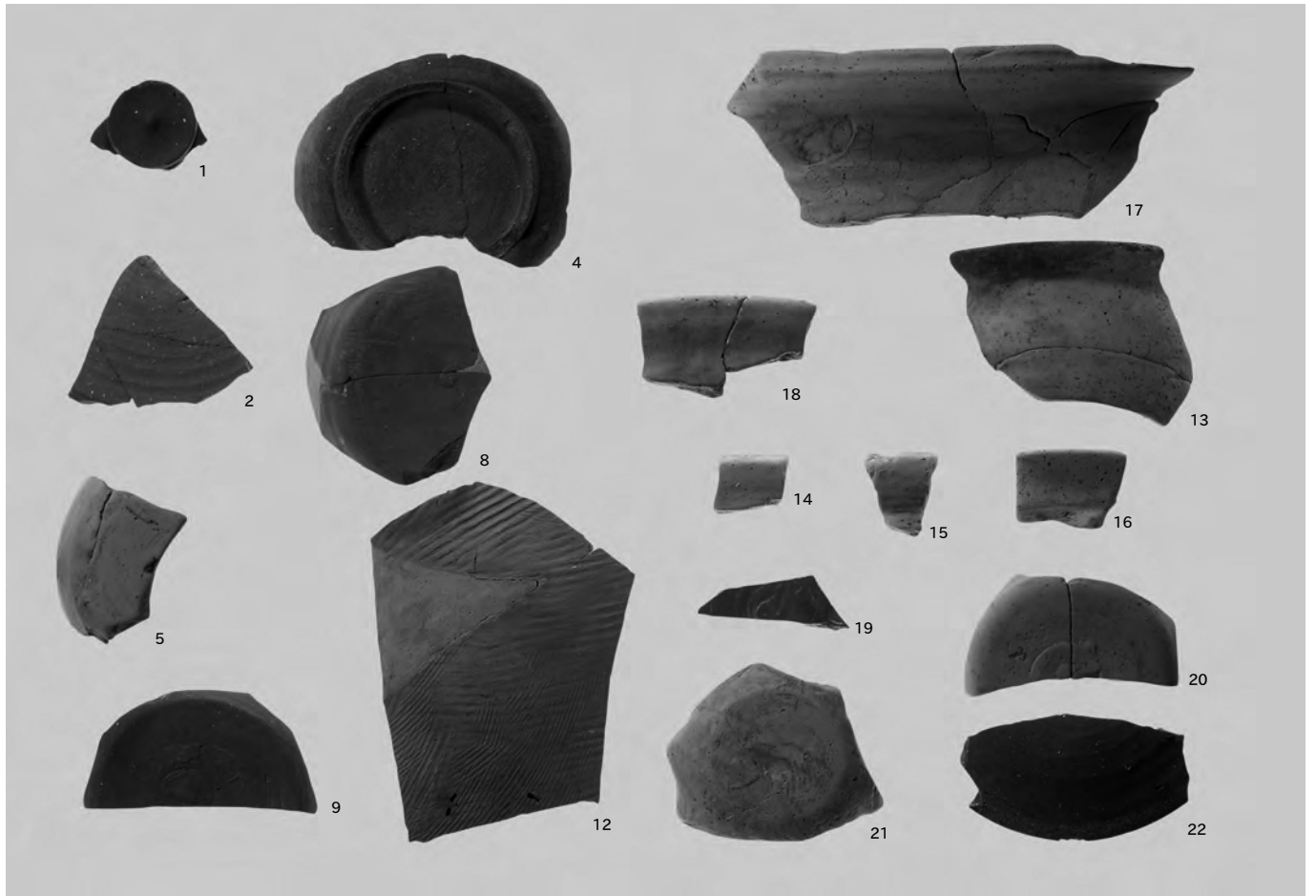


1区完掘状況（東から）

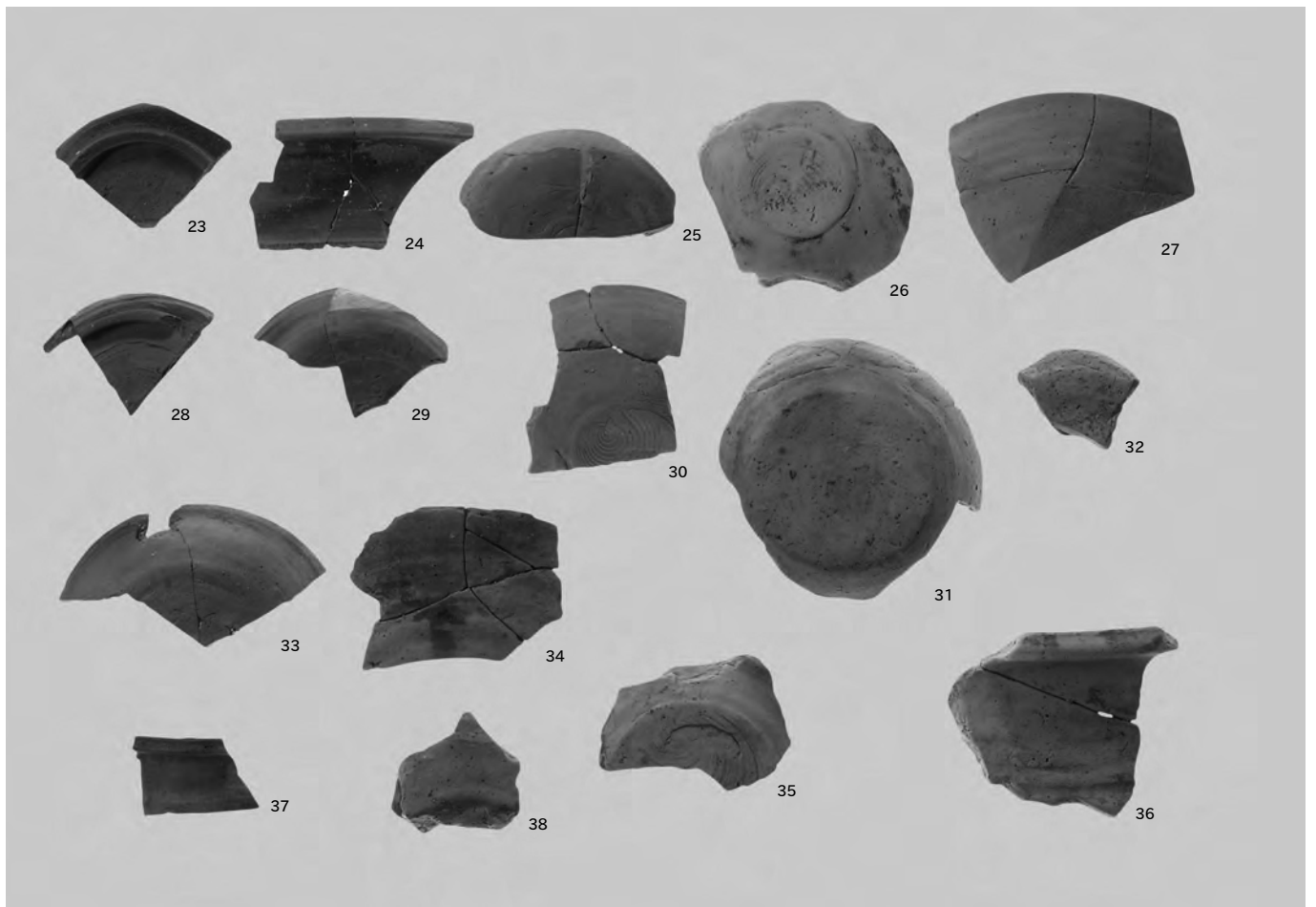


2区完掘状況（東から）

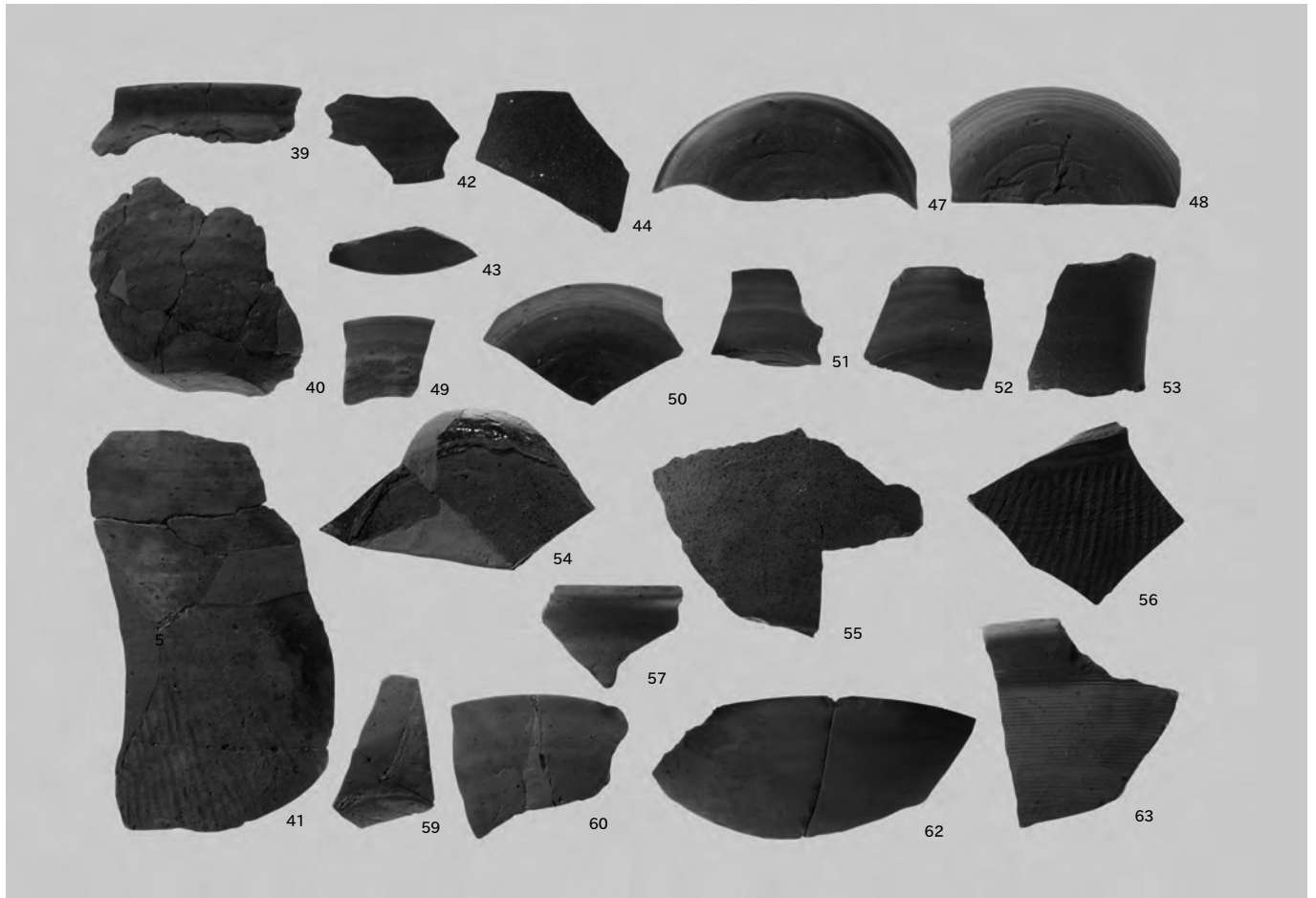




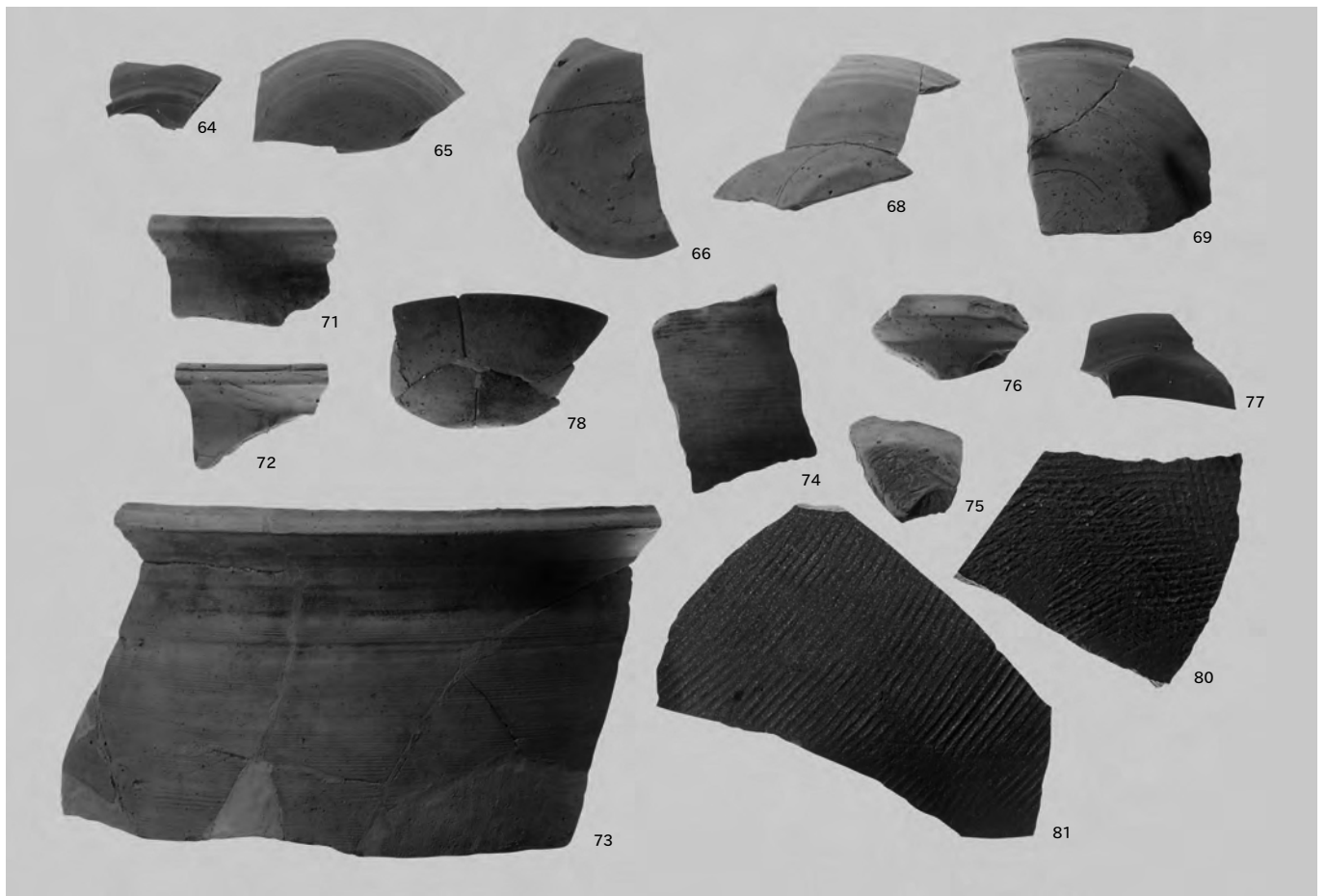
SD21 (1・2・4・5・8・9・12~18), SD22 (19), SD45 (20), SD47 (21), P40 (22)



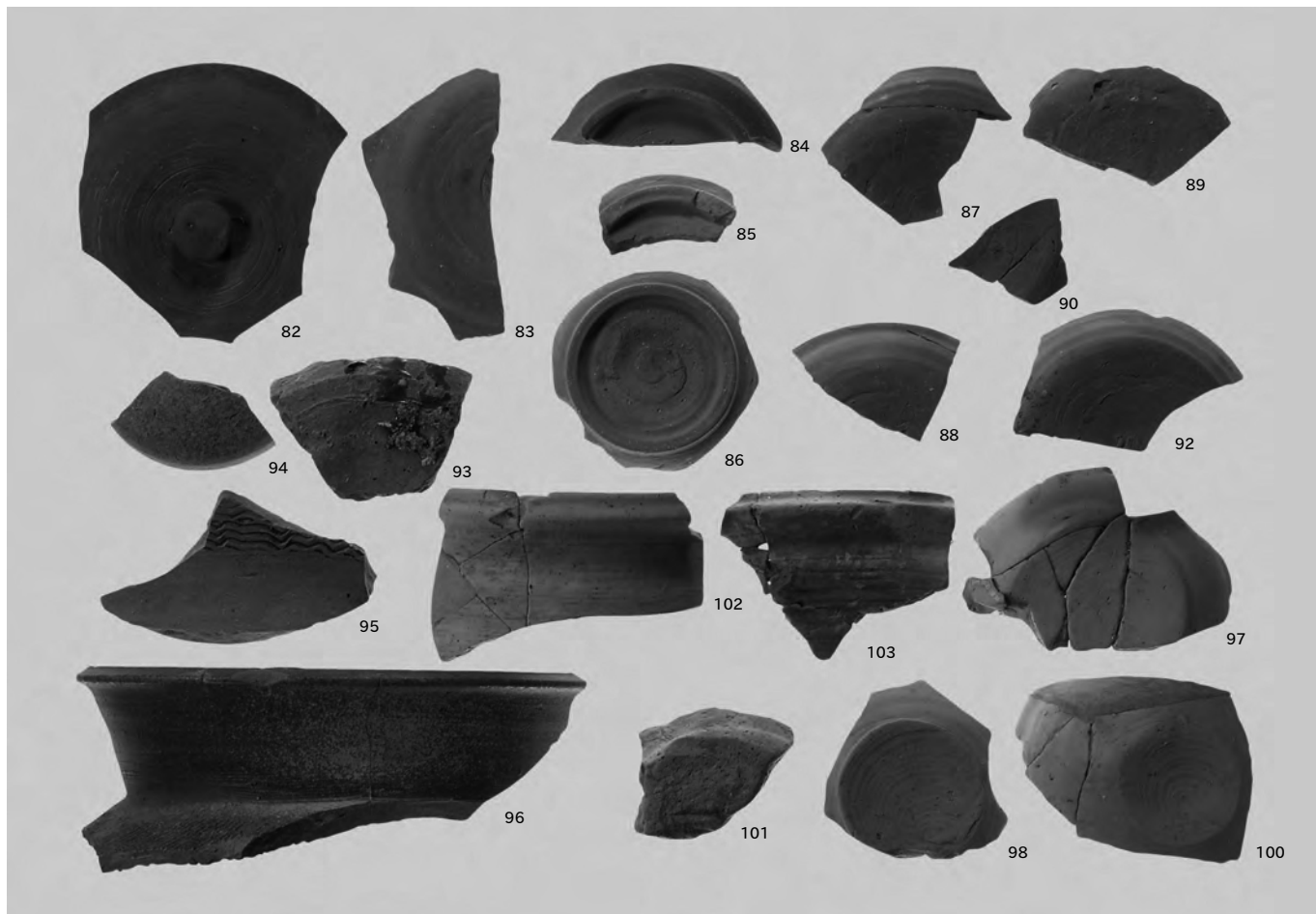
SK89 (23), SK95 (24), SD78 (25~27), SD80 (28~32), SD93 (33~36), SX86 (37・38)



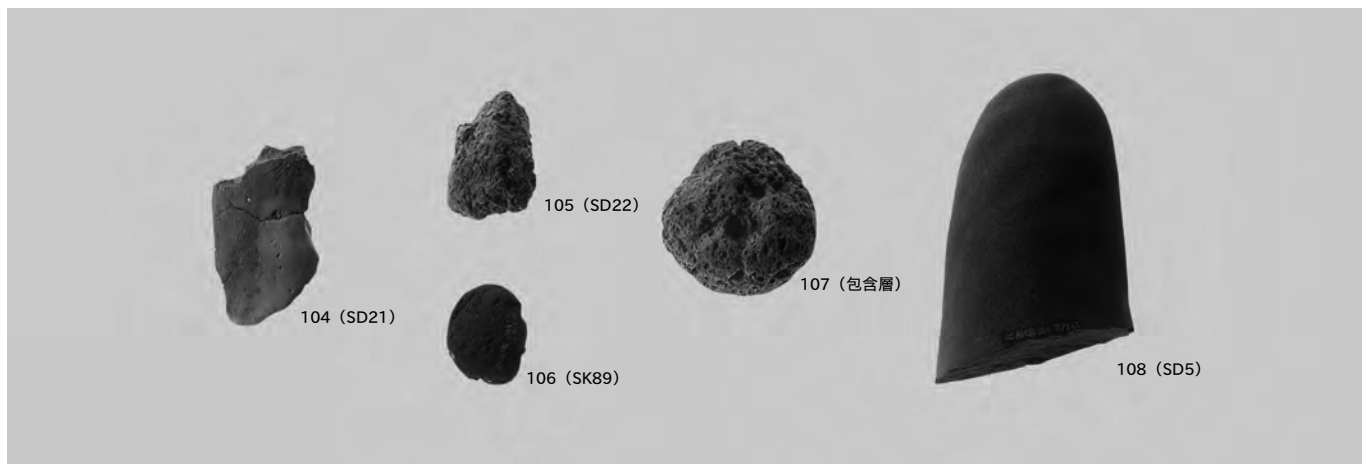
SK18 (39~41), SD5 (42~44・47~57・59・60・62・63)



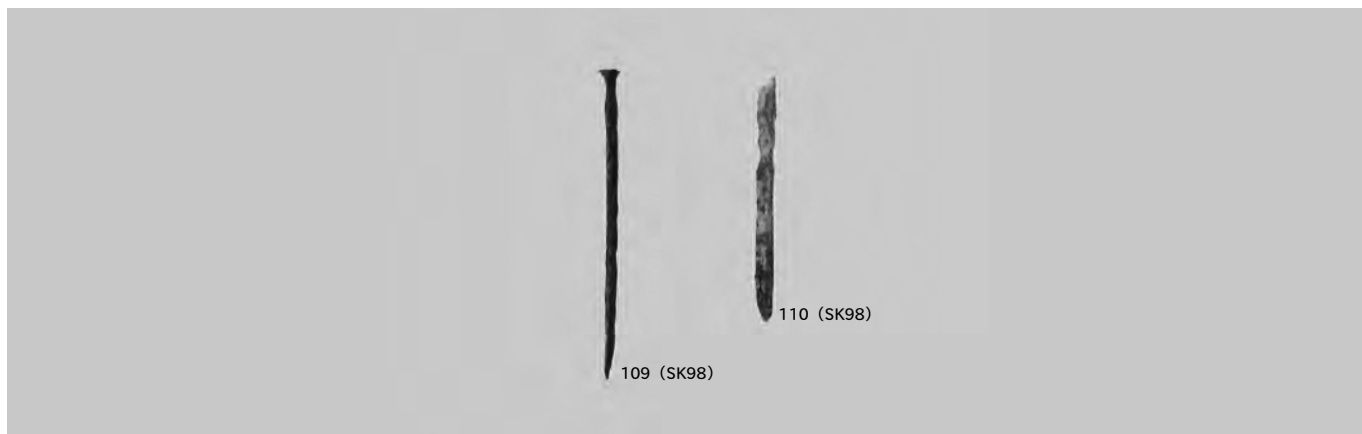
SD6 (64), SD9 (65・66・68・69・71~74), SD12 (75・76), SD114 (77), 第13次調査包含層出土遺物 (78・80・81)



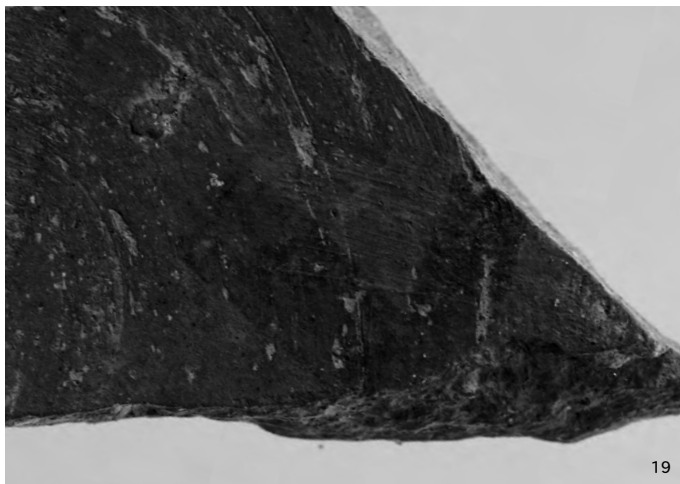
包含層 (82~90・92~98・100~103)



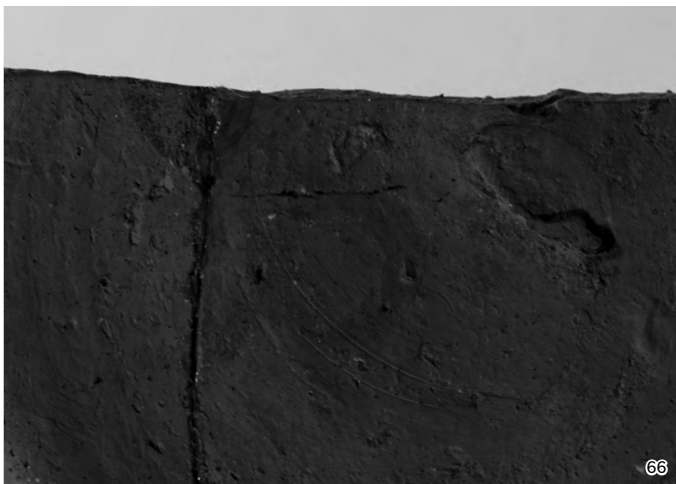
鍛冶関連遺物 (104), 軽石 (105~107), 石製品 (108)



鉄製品 (109・110)



19



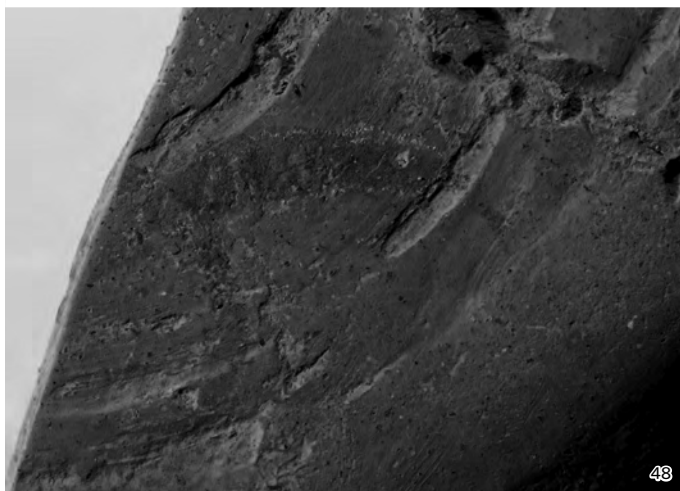
66



42



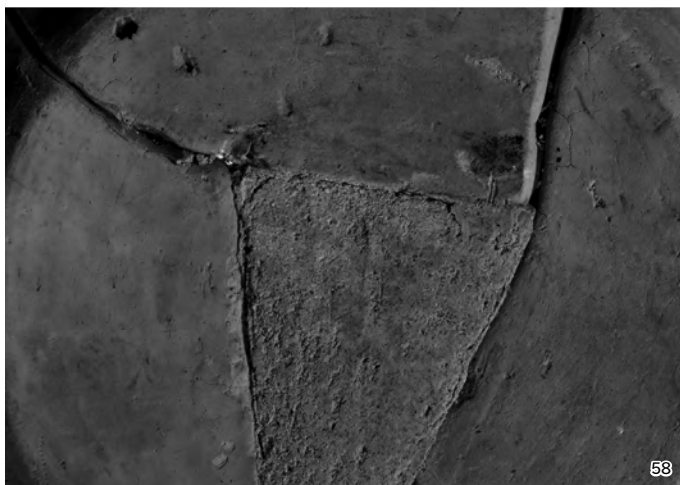
86



48



90



58

墨書土器拡大
 19「□」, 42「□」 「□」, 48「□」,
 58「□」, 66「□」, 86「下」, 90「□」

報告書抄録

ふりがな	むすぶななしまいせきⅣ だい13・15・17じちようさ							
書名	結七島遺跡Ⅳ 第13・15・17次調査							
副書名	荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第7～9次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	朝岡政康							
編集機関	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地 TEL 025-255-2006							
発行年月	西暦 2008年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むすぶななしま 結七島遺跡	新潟県新潟市 秋葉区結字苗 代付512-2ほ か	15105	209	37° 49' 29"	139° 07' 13"	第13次現地調査 20050901～ 20050916 第15次現地調査 20060508～ 20060521 第17次現地調査 20060703～ 20061003	138 88.5 1,750.5 計1,977	土地区画整理 事業に伴う本 発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
結七島遺跡	集落遺跡	古墳・平安時代		土坑・溝・性格 不明遺構など		須恵器・土師器・黒色土 器・鍛冶関連遺物・石製 品・鉄製品		
要約	<p>結七島遺跡は能代川左岸の自然堤防上に立地する。確認面の標高は概ね2.5m～2.7mである。荻川駅東土地区画整理に伴う発掘調査のほかポンプ場建設に伴う調査など複数回発掘調査が実施されており、結七島遺跡の性格が明らかになりつつある。これまでの調査結果から、主に古墳時代後期と平安時代前期に営まれた集落遺跡であることが分かっている。平安時代では水田畦畔が発見され、プラントオパール分析からも稲作が行われていたことが判明した。今回報告の調査では平安時代前期の集落縁辺部の一部が発見された。第8次調査報告書で示された集落範囲(案)の一部について所見を追加することができた。これまでの調査で出土した須恵器や土師器の様相から9世紀初頭から終わり頃まで営まれていたことが分かった。能代川の対岸にある沖ノ羽遺跡でも同じ時期の遺構が確認されていることから、9世紀に低湿地を積極的に開発していた様子がうかがえる。</p>							

結七島遺跡Ⅳ 第13・15・17次調査

荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第7～9次発掘調査報告書

2008年 3月 27日印刷
2008年 3月 28日発行

編集・発行 新潟市教育委員会

〒950-8550 新潟県新潟市中央区白山浦 1-425-9

TEL 025 (228) 1000

新潟市埋蔵文化財センター

〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地

TEL 025 (255) 2006

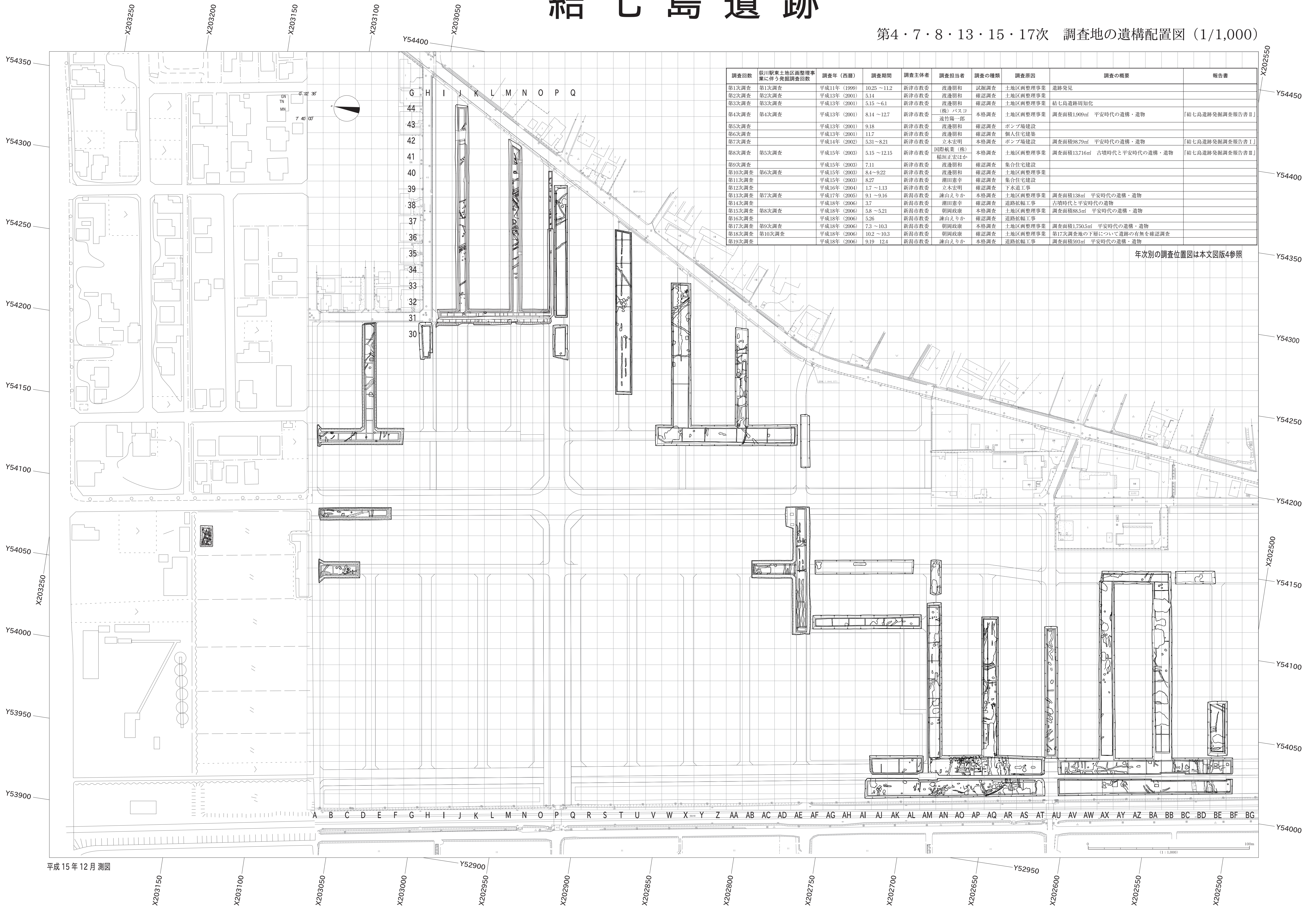
印刷・製本 株式会社セビラス

〒970-8026 福島県いわき市平字作町 1-3-11

TEL 0246 (22) 6209

結七島遺跡

第4・7・8・13・15・17次 調査地の遺構配置図 (1/1,000)



平成 15 年 12 月 測図